

授業科目名	心理学	単位認定者	大竹直子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人の心の働きや行動をとらえて心理学の基礎を学ぶ。目に見えない「心」を、科学的にはどのようにとらえ、どのような方法で探求してきたのか、ということを知ることで、より深い人間理解をめざす。また授業では、心理学の理論を、日常生活において経験する行動や問題、「私」という視点からも考えていきたい。
学習到達目標	1. 心理学の概要を理解する 2. 心理学理論による人間理解を深める 3. 心理学的援助の概要と方法について理解する 4. 心理学的視点から、日常生活や自分をとらえ考えてみる
関連科目	臨床心理学、発達心理学、カウンセリング、老年心理学
成績評価方法	筆記試験、レポート課題、出席点の総合評価

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	心理学とは	医療と心理学 心理学から何を学ぶか	【精神看護学】 目標2 1. 精神看護の基本概念 B. 精神分析モデル a)フロイトの発達論、b) 転移感情、c) 自我の防衛機制 【必修問題】 II-1 人間の特性 A 人間と欲求 a) 基本的欲求、b) 社会的欲求 【精神看護学】 目標1 1. 精神の健康 B. 精神の機能と障害 a) 意識と意識障害、b) 知能と知能障害、c) 知覚と知覚障害 d) 思考と思考障害、e) 感情と感情障害、f) 意欲と意欲障害、g) 記憶と記憶障害、h) 認知と認知障害 【必修問題】 II 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 2 人間の成長と発達 B 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 e) 母子関係 【精神看護学】 目標1 1. 精神の健康 A 精神の構造 a) 意識・前意識・無意識 b) イド・自我・超自我 【成人看護学】 目標1 2. 成人に特有な健康問題の特徴 C 生活ストレスに関連する健康障害 a) ストレスの種類と生理的適応、b) 生活ストレスと健康障害	
2	心理学の歴史	心理学のはじまりと発展 ヴント、ゲシュタルト、行動主義、精神分析学		
3	感覚と知覚	五感のはたらき、地と図、錯覚、知覚の恒常性		
4	欲求と動機づけ	動機・欲求の種類、欲求不満と葛藤		
5	記憶	記憶のしくみ、忘却、日常記憶、高齢者の記憶		
6	学習	古典的学習、オペラント学習、観察学習		
7	発達と成長	ピアジェの発達理論、エリクソンの発達理論		
8	パーソナリティ 1	パーソナリティの類型論と特性論		
9	パーソナリティ 2	心理検査、知能検査		
10	無意識と深層心理	精神の構造		
11	人間関係の心理	対人認知、原因帰属、ハロー効果、ピグマリオン効果		
12	カウンセリングと心理療法 1	カウンセリングの理論と方法		
13	カウンセリングと心理療法 2	援助のプロセス		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	カウンセリングと心理療法 3	医療現場における心理学的介入	【基礎看護学】 目標 2 1. 共通基本技術 A 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術、b) カウンセリング技術、c) グループワーク、グループダイナミクス B 人間の成長を促すための技術 a) 教育、b) 相談・指導	
15	定期試験	筆記試験		

教科書	プリント配布
参考書	「看護学生のための心理学」長田久雄編（医学書院） 「心理学 改訂版」詫磨武俊編（新曜社）

授 業 科 目 名	老 年 心 理 学	単 位 認 定 者	高 瀬 健 一
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	高齢者の心理特徴の基本的知識を習得する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 老化の概念を習得する。 ② 生涯発達の観点から老年期の身体、感覚機能、記憶、注意と知覚、知能、人格について学習し、精神的疾患に関する老年精神医学的知識と死の問題について、高齢者の伽感的理解に役立つ心理査定方と心理療法について考える。 ③ 高齢者の生き甲斐感や高齢者を取り囲む家族対人関係についての理解を深める。
関 連 科 目	心理学 発達心理学 成人・老年看護学概論
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ライフサイクル(1)	生涯発達		
2	ライフサイクル(2)	成人期の課題		
3	ライフサイクル(3)	老年期の課題		
4	老化	老化とは何かについて考える		
5	高齢者の記憶・知覚と注意	記憶の種類と高齢者の特徴・知覚と加齢との関係、痴呆性老人のスクリーニングテスト、行動評価スケールなどについて		
6	加齢と知能・人格	知能の発達と加齢との関係、老年期の知能の特色、老年期の人格的特徴・高齢者を対象とした知能検査、高齢者を対象にした心理療法について		
7	老年期の適応	人格特徴と適応の関係、ストレスフル・ライフイベントと適応の関係、高齢者とその家族、また高齢者を取り囲む社会的状況		
8	老年期の精神的老化と精神障害	器質性精神障害、機能的な精神障害など		
9	死にゆく過程(1)	死の受容(1)		
10	死にゆく過程(2)	死の受容(2)		
11	死にゆく過程(3)	死の受容(3)		
12	生きがい(1)	生きがいの心理学(1)		
13	生きがい(2)	生きがいの心理学(2)		
14	高齢者の主観的幸福感	主観的幸福感とその意味		
15	定期試験	筆記		

教 科 書	「老年心理学」下仲順子 編(培風館)
参 考 書	講義中に随時紹介する

授 業 科 目 名	教 育 学	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	看護や医療は、ある面では教育的でなければならない。そういった意味で本学学生は皆、教育する立場になるという意識が必要である。 人格を形成し、環境に適応し、環境を改善して自分や他者がよりよく生活できるようにするための学習という活動と、それに対する価値志向的働きかけである教育についての基本的事項を習得することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	教育の本質（概念・思想・理論）を理解し、教育の目的等に沿って広い視野から多面的に考え、学習者の実態に即して望ましい教育のあり方を考えることができる。 青少年の問題行動について関心を持ち、親として、またはその青少年に身近な成人としてどのように対処するか短期的、または長期的に解決する方策を考えることができる。
関 連 科 目	生活学 家族学 地域社会学 心理学 発達心理学 臨床心理学 カウンセリング 小児看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験 受講時の感想文や意見文の提出など平常時の取り組みの態度をも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	教育	青少年の問題行動から「教育」を考える 個の資質・家庭・学校・社会・制度		
2	教と育	教育哲学・教育思想 「しつける」「教える」「育てる」		
3	学と習 (動機付け)	「覚える」と「分かる」 動機づけ (外的・内的)		
4		事例研究		
5	心の教育	宗教的心情の教育 道徳教育		
6	学校教育 学校教育の効果	教育内容 教育方法 事例研究		
7	教育制度	量の教育から質の教育へ 知識から学び方へ 教育課程		
8	ゆれる教育改革	現行の教育制度 教育制度の変遷 「生きる力」と「問題解決の能力」		
9	教育関係法制度	教育基本法 教育関係法規 行政機関との関係		
10	発達と教育	教育の適時性 胎児期・乳児期		
11		児童期・青年前期		
12	学校不適応	学校不適応・いじめ・引きこもり 事例研究		
13	特別支援教育	ノーマライゼーション		
14	定期試験			
15				

教 科 書	プリントによる
参 考 書	授業時に紹介

授 業 科 目 名	生 命 科 学	単 位 認 定 者	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	パワーポイント／ビデオ、適時配布するプリント資料
科 目 の 目 的	ヒトを含む生物の生命現象を、人間が多様な生物と釣り合いながら、共生していくために広い視野に立ち、科学的、論理的思考力を育て、自由で主体的な判断と行動ができるように、また、生命倫理や人の尊厳を幅広く理解していくことができるように、科学的思考の基盤や人間生活へのかかわりを学ぶ。そして、これから学んでいく多くの看護学・理学療法学専門科目の基盤となるよう、医療の対象である「人間」をより深く理解することをねらいとする。最新の情報を交えながら、生命に対する感動を共有したい。
学 習 到 達 目 標	人間も生物の1種であり、その生命維持のしくみを他の生物と比較しながら、「人間」とその環境とのかかわりを深く理解し、他の生物とどれくらい共通点があり、どんな関わりをもって暮らしているのかを理解できるようになることである。
関 連 科 目	解剖学 生理学 生化学 栄養学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生命の起源	生命誕生の準備（化学進化） 原始生命の誕生 生命を支える分子		
2	生命の単位	細胞の構造と機能		
3		生体の構造と機能		
4				
5	生命現象とエネルギー	酵素 共通のエネルギー源 光合成 呼吸		
6	細胞の増殖	細胞周期 ヒトの配偶子形成		
7	生命をつなぐ遺伝情報	メンデルの法則 遺伝子の本体 DNAの働き		
8		ヒトの遺伝 遺伝と環境		
9		* <u>Midterm Exam</u> *		
10	発生・分化	受精		
11		発生過程		
12	ヒトの初期発生	受精卵から個体へ		
13		性の分化とホルモン		
14	ヒトへの進化	進化とその要因 進化の事実と証拠 ヒトの進化		
15	生物と地球環境	ヒトと地球環境 環境汚染化学物質—環境保全		
		* <u>Final Exam</u> *		

教 科 書	「人の生命科学」渡辺 強三、佐々木 史江、堀口 毅著（医歯薬出版株式会社）
参 考 書	「生命の意味」桑村哲生 著（裳華房）

授 業 科 目 名	生 命 倫 理	単 位 認 定 者	村 上 隆 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握し、実践の場面での適切な行為を可能にする指針を得るとともに、さらにこれらの倫理的な諸問題の背景となっている哲学的・宗教的なことらについての基礎的な理解を得るようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1、現代医療における倫理的な諸問題の概要を把握する。 2、実践の場面で倫理的な諸問題に関して適切に行う指針を獲得する。 3、西欧の医学・医療における哲学的・宗教的な背景について概観を持つ。
関 連 科 目	看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 生命科学 医療民俗学 法学
成 績 評 価 方 法	定期試験に出席率等の平常点を加算する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生命倫理導入	生命倫理学の形成の歴史的背景	必修問題IV、看護の倫理 A, 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 成人看護学 目標 3 5、終末期の看護 A, 緩和ケア d) 悲嘆のケア 基礎看護学 目標 1 1、看護の基本となる概念 B, 看護の対象としての人間 a) 人間のとらえ方 b) 人間と環境 4、看護の倫理 A, 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント 必修問題II 1、人間の特性 B, 患者の特性 a) QOL 成人看護学 目標 3 5、終末期の看護 A, 緩和ケア c) QOL の保証 1、母性看護の概念 B, 母性看護と理論 a) 妊産褥婦・退治および 新生児の権利と擁護 b) 就労と母性 5、終末期の看護 A, 緩和ケア a) 苦痛のアセスメント b) 疼痛コントロール c) QOL (クオリティ・オブ・ライフ) の保証 6、高齢者の終末期の看護 A, 終末期にある高齢者の看護 a) 高齢者の死のとらえ方 b) 死の迎え方の意向(リ	
2	生命と身体 (1) 生命と身体 (2)	伝統的宗教における生命と身体 古代哲学における生命と身体		
3	生命と身体 (3)	近代哲学における生命と身体		
4	死の問題 (1)	伝統的な社会における死		
5	死の問題 (2)	近代社会における死		
6	人間の身体	疎外される身体と加工される身体		
7	身体と所有	近代的所有権と身体		
8	人権と医療 (1)	脳死と臓器移植		
9	人権と医療 (2)	インフォームドコンセント		
10	誕生と倫理	妊娠中絶と新生児殺し		
11	死と倫理	終末期医療と安楽死・尊厳死		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	生殖と倫理	生殖技術と倫理	ビングウイル) と対応 c) 看取りに対する合意の形成 d) 死の受容への看護 g) 苦痛の緩和と安楽への看護 h) 臨死期の対応 i) 家族の参加と家族への看護 1、母性看護の概念 B, 母性看護と倫理 a) 妊産褥婦・退治および新生児の権利と擁護 b) 自己決定の尊重 c) プライバシーの保護	
13	医療関係倫理	医療関係者一患者間の倫理	1、看護の基本となる概念 E, 看護倫理 a) 患者の権利擁護 b) 患者のプライバシー保護 c) 看護師の倫理規定 d) 職業倫理	
14	医療と正義	医療資源の配分の倫理	1、社会保障の理念 A, 日本の保健医療福祉活動の基本方向 c) 倫理	
15	動物の生存権	生命倫理と環境倫理		

教科書	プリントによる。
参考書	講義の展開のなかで適宜指示する。

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 科 学	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキスト中心に解説する。講義内容の理解を深めるため、関連するビデオにて学習する。講義内容に関連する最近の話題についてプレゼンテーションする。
科 目 の 目 的	看護師および理学療法士の資格を目指す学生に対して、リハビリテーションとスポーツ、スポーツ科学、運動生理学領域からスポーツにおける生体の生理的变化、スポーツが身体におよぼす効果および健康づくりを実践するための理論について学習する。
学 習 到 達 目 標	運動におけるリハビリテーション、運動における生体の生理的变化（筋神経系、呼吸循環系、肥満関連）などがおおむね理解できる。 運動における生体の生理的变化（筋神経系、呼吸循環系、肥満関連）などのキーポイントがおおむね理解できる。 教材学習によりテキストで理解した内容を充実させる。
関 連 科 目	生理学 解剖学
成 績 評 価 方 法	定期試験・出席点の総合評価とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	講義概要・成績評価等説明		
2	講義	リハビリテーションとスポーツ		
3	講義	スポーツ時における筋収縮とエネルギー供給系		
4	講義	スポーツ時における神経系の役割・動員について		
5	講義	筋の収縮様式と筋力		
6	講義	スポーツと循環		
7	講義	スポーツと呼吸		
8	講義	身体組成と肥満の判定		
9	講義	メタボリックシンドローム		
10	講義	肥満とスポーツ		
11	講義	スポーツと体温調節		
12	講義	各種スポーツ時における筋疲労の要因		
13	講義	老化に伴う身体機能の変化		
14	講義	スポーツと栄養		
15	試験	試験		

教 科 書	「入門運動生理学」勝田茂（杏林書院）
参 考 書	講義時に案内

授 業 科 目 名	ス ポ ー ツ 科 学 実 習	単 位 認 定 者	近 藤 照 彦
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	スポーツ（実技）を行う。コンディショニングでは、各自の体力の現状を把握し、体力の調整を行う。選択スポーツでは、体育館（屋内）ならびにグラウンド（屋外）、テニスコートにて各自選択したスポーツを行う。車いすスポーツでは、車いすの操作およびスポーツを実習しながら障害者の身体機能の理解を深める。運動処方では、障害者および高齢者などに対応すべき運動処方を立案し、指導できるよう実習する。スポーツのできる服装、スポーツにふさわしいスタイル（トレーニングウェア、屋外用シューズ、屋外用シューズ）で出席すること。私服は認めない。
科 目 の 目 的	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのためのスポーツの実践の動機づけを養う。スポーツの実践からクラブ活動やスポーツ大会参加などの社会参加を養う。
学 習 到 達 目 標	生涯スポーツを通じた生活の質の向上、心身の健康づくりのため、いろいろなスタイルのスポーツを実践する。クラブ活動やスポーツ大会の参加へ発展できる。
関 連 科 目	スポーツ科学
成 績 評 価 方 法	出席、態度、意欲、レポートの総合評価（運動能力の優劣での絶対評価は行わない）。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	オリエンテーション	講義概要説明（体育館）、班長選出		
2	コンディショニング I	（体育館・グラウンド） 体力測定（筋力、持久力、柔軟性を自己点検）		
3	コンディショニング II	スポーツ大会参加種目の練習		
4	コンディショニング III			
5	選択スポーツ I	（体育館・グラウンド） バレー、バスケ、バドミントン（体育館）		
6	選択スポーツ II	ソフト、サッカー、ウォーキング、ジョギング		
7	選択スポーツ III	テニス（グラウンド、施設）の選択スポーツを行う。		
8	選択スポーツ IV	雨天の場合、体育館にて選択スポーツの中から試合できるスポーツを選択し試合形式で対戦する。		
9	選択スポーツ V			
10	車いすスポーツ I	（体育館） 車いすの基本操作ならびに段差昇降、キャスター挙げ		
11	車いすスポーツ II	などの応用操作を実習する。		
12	車いすスポーツ III	車いすバスケットボールを紹介し、基本動作を実習する。		
13	運動処方 I	（体育館） 体育館、グラウンドにて障害者および高齢者それぞれの		
14	運動処方 II	対象者を想定し、運動処方（強度、頻度、内容など）		
15	運動処方 III	を立案し、実践する。運動の効果を体験する。 運動処方をレポート課題とする。		

教 科 書	使用せず
参 考 書	「入門運動生理学」

授 業 科 目 名	総 合 英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	テキストに沿って進めるが、適宜プリントも使用する。
科 目 の 目 的	専門分野の英語に取り組めるように総合的な英語力を伸ばす。 専門分野の基本英語語彙力をつける。
学 習 到 達 目 標	テキストのレベルでの読む、書く、聞く、話す の4つの技能の習熟。 看護の基本的英単語、英語表現を覚える。
関 連 科 目	【関連する教養科目】—英語表現 英語基礎 医療英語・外書講読 国際医療協力英語
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、前期、後期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明、自己紹介		
2	Text I-1	“A Holistic View of Humans” を読む。		
3	Text I-1	Exercises と Dialogue		
4	Text I-2	“Homeostasis, Stress, and Adaptation” を読む。		
5	Text I-2	Exercises と Dialogue		
6	Text I-3	“Lifespan Development” を読む。		
7	Text I-3	Exercises と Dialogue		
8	Text I-4	“Late Adulthood” を読む。		
9	Text I-4	Exercises と Dialogue		
10	Text II-1	“Sports Medicine” を読む。		
11	Text II-1	Exercises と Dialogue		
12	Text II-2	“Music Therapy” を読む。		
13	Text II-2	Exercises と Dialogue		
14	Review	I-1～II-2 の復習。		
15	前期末試験			
16	Text II-3	“Organ Transplant” を読む。		
17	Text II-3	Exercises と Dialogue		
18	Text III-1	“The Health Care Team” を読む。		
19	Text III-1	Exercises と Dialogue		
20	Text III-2	“Communication Skills” を読む。		
21	Text III-2	Exercises と Dialogue		
22	Text III-3	“Perioperative Procedures” を読む。		
23	Text III-3	Exercises と Dialogue		
24	Text IV-1	“Rest and Sleep” を読む。		
25	Text IV-1	Exercises と Dialogue		
26	Text IV-2	“Vital Signs” を読む。		
27	Text IV-2	Exercises と Dialogue		
28	Text IV-3	“High-tech Diagnostic Tests”		
29	Text IV-3	Exercises と Dialogue		
30	後期末試験			

教 科 書	「Health Care Today 英語で学ぶ医療と健康(The New Edition)」 James W. Pagel (朝日出版社) 2004 年 「カタカナでわかる医療英語」 飯田恭子著 (医学書院) 2004 年
参 考 書	英和辞典(必携)

授 業 科 目 名	英 語 表 現	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	前期はテキスト、後期はプリントに沿って、ロールプレイなどへの履修者の参加と共に進める。
科 目 の 目 的	様々な医療の現場での基礎的な英語表現を身につける。
学 習 到 達 目 標	医療現場で必須の英語の語彙、表現の習得。 覚えた語彙、表現がスムーズに言えること。
関 連 科 目	【関連する教養科目】—総合英語 英語基礎 医療英語・外書講読 国際医療協力英語
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	Introduction	授業の説明		
2	Unit 1	急に話しかけられたときの対応		
3	Unit 2	自己紹介のときの基本的質問と答え方		
4	Unit 3	丁寧な質問の仕方		
5	Unit 4	初診の患者さんへの対応		
6	Unit 5	道順と尋ね方と答え方		
7	Unit 6	症状の尋ね方①		
8	Unit 7	症状の尋ね方②		
9	Unit 8	症状の尋ね方③		
10	Unit 9	薬の服用に関する表現		
11	Unit 10	予約の取り方の表現		
12	Unit 11	手術に関する表現		
13	Unit 12	入院患者への質問		
14	Review	Unit1～12の復習、グループごとの skit 発表		
15	前期末試験			
16	プリント1、2	リハビリテーション室での会話、基本的指示とリスク対策に関する表現		
17	プリント3、4	関節可動域訓練、早期坐位とベッドサイド訓練に関する表現		
18	プリント5、6	車椅子と移乗動作、マット上訓練に関する表現		
19	プリント7、8	立ち上がり訓練、歩行訓練に関する表現		
20	プリント9、10	呼吸・排痰訓練、温熱療法・牽引療法に関する表現		
21	プリント11	水治療法・利き手交換に関する表現		
22	Review	プリント1～11の復習、グループごとの skit 発表		
23	プリント12、13	内科、外科に関する表現		
24	プリント14、15	小児科、歯科に関する表現		
25	プリント16、17	眼科、耳鼻咽喉科に関する表現		
26	プリント18、19	産婦人科、整形外科に関する表現		
27	プリント20、21	皮膚科、泌尿器科に関する表現		
28	Review	プリント12～11の復習、グループごとの skit 発表		
29	Special Topics	専門分野以外の様々な英語表現に触れる		
30	後期末試験			

教 科 書	「クリスティーンのやさしい看護英会話」知念クリスティーン著（医学書院）2003年 「アタマとオシリでわかる医療英単語」飯田恭子著（医学書院）2005年
参 考 書	英和辞典（必携）

授 業 科 目 名	医 療 英 語 ・ 外 書 講 読	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	テキストに沿って進める。精読。
科 目 の 目 的	医療・看護分野の文献、読み物を読みこなせる英文読解力の向上
学 習 到 達 目 標	正確により速く英文を読む力をつける。 医療関連分野の英語語彙の習得。
関 連 科 目	【関連する教養科目】— 総合英語 英語表現 英語基礎 国際医療協力英語 【関連する専門基礎科目】— 国際医療協力
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明、Chapter 1 Triage を読み始める。		
2	Chapter 1			
3	Chapter 1	Chapter 1 の video を見る。		
4	Chapter 3	Chapter 3 High Drama を読む。		
5	Chapter 3			
6	Chapter 3			
7	Chapter 3			
8	Chapter 3	Chapter 3 の video を見る。		
9	Chapter 2	Chapter 2 A Little Too Greene を読む。		
10	Chapter 2			
11	Chapter 2			
12	Chapter 2			
13	Chapter 2			
14	Chapter 2	Chapter 2 の video を見る。		
15	前期末試験			

教 科 書	「 <i>Episodes from ER</i> 医療ドラマ ER で学ぶ英語」 田中芳文 編 (朝日出版社) 2002年
参 考 書	英和辞典 (必携)

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力 英 語	単 位 認 定 者	杉 田 雅 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	プリントに沿って進める。
科 目 の 目 的	他文化への理解、臨床場面における英語のコミュニケーション能力の向上
学 習 到 達 目 標	1年次から学んだ医療現場における英語表現の定着。 世界の様々な国の医療、看護、福祉、社会問題に関する実情を知り理解する。 リスニング力向上。
関 連 科 目	【関連する教養科目】—医療英語・外書講読 総合英語 英語表現 英語基礎 【関連する専門基礎科目】—国際医療協力
成 績 評 価 方 法	出席状況、授業への取り組み姿勢、小テスト、期末試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	Introduction	授業の説明		
2	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
3	Conversation	困った時の英語/診療科名/患者の基本情報に関する表現		
4	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
5	Conversation	診療手続き/症状に関する表現		
6	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
7	Conversation	病歴の聴取/病名に関する表現		
8	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
9	Conversation	心のケア/文化や宗教の違いに関する表現		
10	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
11	Conversation	海外へ出かけるときの英語		
12	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
13	Conversation	海外へ出かけるときの英語		
14	Reading-他文化理解	世界各国の医療、看護、福祉、社会問題に関する記事を読む。		
15	後期末試験			

教 科 書	「ネイティブ感覚でわかる医療動詞」飯田恭子著（医学書院）2005年
参 考 書	英和辞典（必携） 英英辞典

授 業 科 目 名	中 国 語	単 位 認 定 者	深 町 悦 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	中国語学習を通じて、簡単な日常会話ができる語学力を習得させる。中国の社会状況・文化・歴史・生活習慣などを理解し、多文化多言語が共生する現代社会の中で、一国際人として、それに適応できる語学力を身につけたい。
学 習 到 達 目 標	中国語の難関は発音と四声である、それを習得するには、不断の練習と個々の指導が不可欠である。会話を中心に楽しく勉強できる雰囲気を作る。テキストの例文を使って、文法形態を理解してもらう。また中国語と日本語の違いも判ってもらう。
関 連 科 目	国際関係論
成 績 評 価 方 法	学期末に筆記と会話のテストを行う。中間試験、出席数、受講時の学力とテスト成績を参考の上、成績を評価する。 期末テスト不参加の場合評価しない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発音の基本	1. ガイダンス、母音、子音、四声		
2	発音練習と自己紹介	2. 発音練習、自分の名前、自己紹介		
3	簡単な挨拶会話	3. 簡単な日常会話、数字、時間、曜日など。		
4	簡単な日常会話	4. 日付、お金に関する表現。		
5	表現文型 (1)	5. 「是」の文、副詞を使う文、疑問文。		
6	表現文型 (2)	6. 動詞と形容詞の文。		
7	表現文型 (3)	7. 疑問詞と介詞を使う文。		
8		8. 中間試験		
9	表現文型 (4)	9. 助動詞を使う文、肯定形と否定形。		
10	体の部位と家族	10. 身体各部位の呼び名、家族構成など。		
11	応用編 (1)	11. 選択式疑問文、反復疑問文。		
12	応用編 (2)	12. 比較文、時態の表現。		
13	応用編 (3)	13. 受身の表現。		
14	応用編 (4)	14. 結果補語と接続詞。		
15		15. 期末試験		

教 科 書	「話してみたい中国語」高橋絵里子著 (ナツメ社)
参 考 書	

授業科目名	ハン グ ル	単位認定者	金 福 子
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	韓国語の基礎を学ぶとともに、韓国の社会や文化への理解を深める。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・あいさつをはじめ、身近で簡単な日常会話を身につける。
関 連 科 目	国際関係論
成 績 評 価 方 法	定期試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	ガイダンス	韓国語は言語構造が日本語と非常によく似ていることから学びやすい言語といえる。しかし、表記された文字と実際の発音が異なることも多いため、正確な発音を習得するまでには少々時間を要する。そこで、発音の練習を徹底的に行いながら基本文法や語彙、会話を体系的に学んでいく。		
2	基本母音	前半は読む力・書く力を養うとともに、身近で簡単な日常会話を身につけていく。後半には映画を鑑賞することを通し、聞く力を養っていく。おりにふれて、韓国の社会や文化についてビデオを通して学ぶ。		
3	基本子音	<文字と発音>		
4	複合母音	・韓国語に関する基礎知識：ハングルとは？		
5	パッチム	・基本母音字：発音練習		
6	韓国の文化紹介	・基本子音字：発音練習		
		・複合母音字：発音練習		
		・パッチム：発音練習		
		・映像資料を通して韓国文化を学ぶ		
7	自己紹介をする	<文法と会話>		
8	出身地を聞く	指定詞：「～は～です」の表現		
9	場所を聞く	疑問形：「～は～ですか」の表現		
10	時間の有無を聞く	否定形：「～ではありません」の表現		
11	趣味を聞く	存在詞：「あります (います) /		
12	職業を聞く	ありません (いません)」の表現		
13	予定を聞く	丁寧形①：「します/しますか」の表現 (ハムニダ体)		
14	ヒアリング	丁寧形②：「します/しますか」の表現 (ヘヨ体)		
15	定期試験	用言の活用語尾の付け方		
		韓国映画を通して聞き取り練習		
		筆記試験		

教 科 書	「基礎から学ぶ韓国語講座 初級」 木内明 著 (国書刊行会) CD付き
参 考 書	「携帯版 韓国語会話とっさのひとこと辞典」 金裕鴻 著 (DHC刊)

授 業 科 目 名	ス ペ イ ン 語	単 位 認 定 者	三 浦 麻 衣 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義及び演習
科 目 の 目 的	スペイン語の基本的文法事項を学び、さまざまな表現形式を理解することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	会話形式の構成によるテキストを使用しながら、スペイン語の表現を理解して簡単なスペイン語会話ができることを学習目標とする。
関 連 科 目	国際関係論
成 績 評 価 方 法	出席・定期試験・平常点（授業参加度）から評価する。積極的な姿勢で欠席することなく授業に臨むこと。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	スペイン語の発音	スペイン語のアルファベット 27 と発音		
2	綴りと発音	ch, ll, rr など		
3	母音と子音	強母音と弱母音、二重子音、母音の分立		
4	音節の分け方	4つの分け方		
5	アクセントの位置	母音または子音 n, s で終わる語、n, s 以外で終わる語		
6	文法・主語と動詞	会話・私はサラマンカにいきます。私は日本の出身です。		
7	冠詞と名詞	会話・名前と名字		
	国名と形容詞	会話・駅にて		
8	平叙文と疑問文	会話・タクシーに乗る		
	主語の省略	表現・…したい、望む。場所の表現		
9	文のイントネーション	丁寧な表現、時間をたずねる表現、挨拶の表現		
10	直説法現在形の活用	動詞-ar, -er, -ir の活用		
11	存在動詞について	特定の存在と不特定の存在		
12	指示代名詞	これ、それ、あれ 男性形と女性形の単数と複数		
13	数詞と命令	値段をたずねる表現、数量をたずねる表現		
14	所有形容詞	前置形と後置形		
15	定期試験	筆記試験		

教 科 書	「これがスペイン語だ」 浅香武和（大学書林）
参 考 書	辞書、参考書については初回の授業時に指示する。

授 業 科 目 名	音 楽 学	単 位 認 定 者	峰 岸 小 織
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	音楽療法の普及などにより、音楽の治療効果は科学的にも証明されつつあるが、音楽は病気の治療のみならず、健康な人の精神にも大きな影響を与える。この講義では、音楽作品を歴史的背景、作曲家のエピソード等、多くの観点から学び、作品を深く理解し、身近に親しむための関心を引き出していく。それにより、生涯にわたり豊かな感受性、知性、教養を磨き、社会に貢献してゆきたいという熱意を導く。
学 習 到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽は得意・不得意ではなく、いつも人と共にあり、心の表現手段の一つであり、又、人と人とのコミュニケーションの道具にもなることを認識する。 ・ 音楽に感動する喜びを体験する。 ・ 現代人の生活に氾濫している種々雑多な音に注意を向け、健全な音楽観を持ち、職場や家庭において進んでその音楽環境を整え得る感覚を持つ。
関 連 科 目	教養科目—心理学 老年心理学 教育学 生活学 家族学 地域社会学 国際関係論 専門基礎科目—発達心理学 健康管理論 カウンセリング 国際医療協力 専門科目—看護学概論 成人老年看護学概論 母性看護学概論 小児看護学概論 精神看護学概論 地域看護学概論
成 績 評 価 方 法	レポート、授業後の提出物（感想文）、授業に取り組む姿勢等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	音楽の起源	原始社会の中で音楽はどのように生まれたか。		
2	音楽の発達	文明の発達と音楽の発達。音楽の基礎知識。		
3	音楽療法1	音楽療法の歴史。		
4	音楽療法2	音楽療法の実際。		
5	バロック音楽1	「模倣」から「表現」へ。		
6	バロック音楽2	バッハ、ヘンデル、他。		
7	古典派の音楽	モーツアルトなどの音楽。		
8	古典派からロマン派へ	「職務」から「創作」へ。		
9	ベートーヴェン	聴覚を失ってなぜ作曲できたのか。		
10	ロマン派の音楽	文化の花開く19世紀の音楽。		
11	演奏とは	歴史に残る名演奏。心に残る演奏とは。		
12	ポピュラー音楽のツール	現代大衆音楽の歴史。		
13	日本の音楽	日本の伝統音楽。		
14	さまざまな国の音楽	世界のさまざまな国々の音楽。		
15	私達を取り巻く音楽環境	健康な生活と音楽。医療施設の音楽環境。		

教 科 書	特に使用しません。
参 考 書	講義の中で必要に応じて推薦します。

授 業 科 目 名	日 本 の 近 代 文 学	単 位 認 定 者	杉 本 優
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	近代（明治以降）の小説、詩歌などから対象を選び、1回ないし2回程度で完結する進度でいろいろな作品を読んでいく。文学のさまざまな表現様態にふれると同時に、読む過程での問題意識の多様な展開をねらう。
学 習 到 達 目 標	1. 時代、ジャンル、あるいは流派の違いによる読みのコードの相違を感知する。 2. 方法的な読みの意識化、深化をめざす。 3. 文学表現がはらむ人間探究の豊かな知を習得する。
関 連 科 目	関連すると思われる教養科目：心理学 教育学 生命倫理 性別の社会科学 環境論
成 績 評 価 方 法	授業中に小テストを課し、平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	訳詩の方法・訳詩の魅力	コクトーの2行詩をめぐる3つの訳詩を比較検討する。		
2	まど・みちお「ぞうさん」	阪田寛夫の「遠近法」を手がかりに、まどの詩表現を考える。		
3	啄木の短歌	晩年の啄木の評論や短歌作品を通して、その短歌観を理解する。		
4	啄木の短歌	(承前)		
5	堀辰雄と中野重治	堀辰雄の「幼年時代」によって、彼と中野の幼年時代の意味を考える。		
6	X・小テスト	題材未定（あるいは進度調整）		
7	丸山薫の世界	『物象詩集』までの彼の詩の世界を概観する。		
8	丸山薫の世界	(承前)		
9	朔太郎の散文詩	萩原朔太郎の散文詩から彼の思想・人生観にふれる。		
10	清岡卓行「希望」	小説「朝の悲しみ」の一節から詩「希望」の重層的な意味をとらえる。		
11	清岡卓行「希望」	(承前)		
12	清岡卓行「希望」	(承前)		
13	詩集『音楽』を読む	詩のアラベスク、アブストラクト、アヴァンギャルド		
14	詩集『音楽』を読む	(承前)		
15	まとめ、小テスト			

教 科 書	テキストは配布プリントを原則とする。
参 考 書	授業中に指示する。

授 業 科 目 名	生 活 学 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人は社会生活と私生活の両方の世界を生活している。社会生活の領域のありようは私生活のありようにより大きな影響を及ぼしている。この科目では、社会生活の領域との関係を念頭におきつつ私生活の領域に軸足を置き、本当に豊かな生活とは何かを考える
学 習 到 達 目 標	1. 私生活のありかたを社会生活のありかたと関連づけ、総合的にとらえられるようになる 2. 生活の質 (QOL) について十分な認識・知識を獲得する 3. 自身の将来の生活について具体的に考えられるようになる
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】 一 家族学 性別の社会科学 地域社会学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】 一 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】 一 地域看護学概論 地域看護活動論 I・II・III 在宅看護活動論 看護学概論 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生活と QOL (1)	生活 QOL—生命の質、生活の質、人生の質		
2	生活と QOL (2)	生活の質の構造と要素		
3	医療における			
4	QOL 評価 (1)	出発点としての QOL 評価、QOL の評価方法、		
4	医療における			
4	QOL 評価 (2)	評価に基づく QOL 改善向上の取り組み (疾患別)		
5	生活習慣 (1)	生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ＝健康教育、疫学的に知られている生活習慣病のリスク要因		
6	生活習慣 (2)	生活習慣病のリスクの回避①食生活、②運動、③喫煙、④飲酒、⑤ストレス		
7	家庭経済 (1)	資本主義経済の中での家庭経済の位置、家庭経済の機能①モノの購入—家計支出、家計支出の内訳		
8	家庭経済 (2)	家庭経済の機能①モノの購入—家計支出の内訳 (続)、勤労者世帯の家計支出の特徴、モノの購入に着目した家庭経済の位置		
9	家庭経済 (3)	家庭経済の機能②労働力の再生産—労働力の再生産、労働力の再生産に着目した家庭経済の位置、家庭経済の機能③貯蓄—経済循環の出発点としての貯蓄、		
10	家庭経済 (4)	家庭経済の機能④納税・社会保険料、家庭経済の源泉—勤労所得、事業所得、財産所得、移転所得		
11	家庭経済 (5)	家庭経済内部の活動—6つの活動の循環：稼得、モノの購入、家事労働、消費、労働力の再生産、貯蓄、常勤共稼ぎ世帯の収入と支出		
12	ワークライフバランス	ワークライフバランスとは、個人にとって、事業所にとって、具体的な取り組み		
13	文献講読 (1)	文献を読んでコメントをまとめる		
14	文献講読 (2)	文献を読んでコメントをまとめる		
15	定期試験			

教 科 書	使用しない。プリントによる (ファイルを用意のこと)
参 考 書	「ワークライフバランス社会へ」大沢真知子 (岩波書店) 2006

授 業 科 目 名	家 族 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識技術の形成を基礎づけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 近代家族の特徴、家族機能、家族周期、家族境界など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活と職業生活のあり方等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関 連 科 目	【関連し合う教養科目】－生活学 性別の社会科学 地域社会学 心理学 老年心理学 【この科目が基盤となる専門基礎科目】－発達心理学 看護学入門 社会福祉・地域サービス論 【この科目が基盤となる専門科目】－地域看護学概論 地域看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 在宅看護活動論 看護学概論 成人・老年看護学概論 小児看護学概論 小児看護学Ⅰ・Ⅱ 小児看護学特論 母性看護学特論 母性看護学特論 精神看護学概論 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準		
			看 護 師	保 健 師	
1	家族をとらえる(1)	近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 日本における家族の近代化	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯)、b) 住居、 c) 家族周期 B. 家庭生活の基本機能 a) 生産・労働 2. ライフスタイル A. 家族の機能と役割 a) 夫婦の役割機能の変化、 b) 家族内介護者の変化 c) 育児と介護の社会化、 d) 家事機能の変化 1. 生活基盤 B. 家庭生活の基本機能 b) 教育・養育、c) 保健・福祉、 d) 慰安・交流 1. 生活基盤 C. 生活単位 a) 家族(世帯) 【必修問題】 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う 4 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患	【地域看護学Ⅰ】 目標1 地域で生活する人々の健康問題の解決や、地域の健康課題の組織的な解決に対する地域看護活動の基礎的な考え方の理解を問う 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 【地域看護学Ⅱ】 目標：あらゆる発達段階、健康レベル別に個人・家族および小集団の生活と健康状態を評価できる能力を問う。また、人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性をふまえた適切な接近方法・技術を選択し、介入することのできる基礎的能力を問う 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題	
2	家族をとらえる(2)	家族と世帯、世帯の動向、家族周期、家族過程における多元的時間、家族の発達と個人のライフコース			
3	家族をとらえる(3)	家族の各発達段階のライフタスクー夫婦と子どもから成る家族の場合：家族形成期、子産み・子育て期、子どもの思春期、子どもが巣立つ時期、加齢と配偶者の死の時期			
4	家族の機能(1)	近代家族が担ってきた基本機能=生活保障 生活保障の第一側面：家事労働 労働力再生産労働 家事労働の2種類 家事労働のこれまでとこれから			
5	家族の機能(2)	生活保障の第二側面：就労による家族の経済基盤の確保 共働き家族			
6	家族の機能(3)	生活保障の第三側面：感情機能 家族と地域社会 国際家族年に示された家族の理念と家族のゆくえ			
7	家族をめぐる制度(1)	民法第四編 親族① 親族 婚姻			
8	家族をめぐる制度(2)	民法第四編 親族② 親子 後見			
9	家族をめぐる制度(3)	民法第五編 相続			
10	家族をめぐる制度(4)	戦前明治民法における「家」制度 「家」制度 明治政府はなぜ「家」制度を採ったのか 戸主と家族 「家」の世代的継続の象徴ー氏と墓 “夫婦別姓”とはどういう問題か 現行民法において氏とは何か 民法 750 条をめぐる問い 模索されている案			
11	家族機能の破綻とその解決援助(1)	児童虐待とはどういう問題か 調査結果から 児童虐待とドメスティックバイオレンス			
12	家族機能の破綻とその解決援助(2)	児童虐待への対応ー予防、発見、危機介入(初期対応)、問題解決のための長期的対応			
13	家族機能の破綻とその解決援助(3)	児童虐待への対応の鍵概念ー自己肯定感情、ネットワーク、児童虐待防止法			
14	家族機能の破綻とその解決援助(4)	ドメスティック・バイオレンス 総合的対策の必要 総合的対策の構成要素となる個別策 配偶者暴力防			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	定期試験	筆記試験 止法 加害者対応	者の権利 c) 自己決定権 d) ノーマライゼーション 【必修問題】 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 3 患者と家族 A 家族の機能 a) 家族関係 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う 1. 家族の機能と役割 c) 育児と介護の社会化 2. ライフスタイル B. ライフスタイルの変化 b) 少子化、健康寿命の延長 e) 家族観の多様化 3. 人間の集団としての働き A. 集団の形成・発達 a) 集団の凝集性 B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク	C健康に影響する生活環境要因 b) 生活構造 c) 家族形態 d) 労働形態 【地域看護学Ⅱ】 3. 家庭訪問 A 家族保健指導 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 b) 就労女性 【地域看護学Ⅰ】 2. 地域看護学の構成 B 活動対象 a) 個人・家族 【地域看護学Ⅱ】 6. 母子保健指導 D健康上のリスクをもつ母子への保健指導 c) 子どもの虐待、女性への暴力 9. 精神保健指導 C 社会病理を背景とするおもな疾病 d) 家庭内暴力 8. 高齢者保健指導 C 在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導

教科書	プリントによる
参考書	「21世紀家族へ 家族の戦後体制の見かた・超えかた」 落合恵美子（有斐閣）2004 「迷走する家族 戦後家族のモデルの形成と解体」 山田昌弘（有斐閣）2005 「DV防止とこれからの被害当支援」 戒能民江（ミネルヴァ書房）2006 「児童虐待」 川崎二三彦（岩波新書）2006 「系統看護学講座 別巻 15 家族論・家族関係論」（医学書院）2004

授 業 科 目 名	地 域 社 会 学	単 位 認 定 者	伊 藤 亜 都 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	我々の生活にとって地域社会とのかかわりは不可欠である。地域社会に関する基本的な知識を学びながら、現代社会で起こっている環境、家族、教育、福祉、防災などの問題について地域社会が果たせる役割を理解することを目的とする。講義を通して、地域社会において現在起こっている社会問題、自分の身近な地域などに対して関心をもつこと、理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関 連 科 目	関連し合う教養科目 －老年心理学 生活学 家族学 ボランティア活動論 環境論 この科目が基盤となる専門基礎科目 －地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 この科目が基盤となる専門科目 －精神地域看護学 地域看護学概論 地域看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 災害看護
成 績 評 価 方 法	講義時間内に、何度か小レポートを行う。また、それぞれが地域社会について考えを持つことを期待しているため、グループごとに意見を出し合うワークショップを行う場合もある。定期試験、小レポート、平常点などを考慮して総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	地域社会学の概論(1)	地域社会、地域コミュニティの基本的知識	【社会保障制度と生活者の健康】 目標1 人間を生活者としてとらえ、家庭・家族生活の側面、よりよく生きようとする社会的存在としての人間についての理解を問う。 1. 生活基盤 C. 生活の場と健康 a) 都市 b) 農村・漁村 c) へき地 D. 労働と健康 a) 仕事内容 b) 労働時間 c) 仕事と余暇 3. 人間の集団としてのほたらき B. 地域における人間関係 a) 親族、近隣、交際のネットワーク b) 地域のソーシャルサポートネットワーク C. 職場における人間関係 a) 上司との関係 b) 組織のなかでの役割 c) 同僚との関係	
2	地域社会学の概論(2)	戦後日本における「地域コミュニティ」の歴史①		
3	地域社会学の概論(3)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ①		
4	地域社会学の概論(4)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ②		
5	地域社会学の概論(5)	地域社会で解決しうる諸問題について(環境、家族、教育、福祉、防災など) ③		
6	災害と地域社会(1)	阪神大震災から学ぶ ①		
7	災害と地域社会(2)	阪神大震災から学ぶ ②		
8	災害と地域社会(3)	災害ボランティアとは ①		
9	災害と地域社会(4)	災害ボランティアとは②		
10	地域社会で活動する担い手(1)	住民主体論:地域社会で活動する人々や組織について		
11	地域社会で活動する担い手(2)	地域社会における代表的な組織としての自治会		
12	地域社会で活動する担い手(3)	地域社会で活動するボランティア・アソシエーション		
13	地域社会で活動する担い手(4)	地域社会における人々の個人的なつきあいであるパーソナル・ネットワークについて		
14	地域コミュニティの担い手(5)	ボランティア・NPOの可能性について		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	定期試験	筆記試験		

教科書	教科書は特に定めない。必要に応じて随時、資料を配布する。
参考書	「コミュニティ論」 倉沢進 (財) 放送大学教育振興会) 1998 「町内会と地域集団」 倉沢・秋元編 (ミネルヴァ書房) 1990

授 業 科 目 名	ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 論	単 位 認 定 者	竹 澤 泰 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義 実践
科 目 の 目 的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。
学 習 到 達 目 標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験。テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ボランティアとは	学生による「ボランティア」についてのディフィニションを行う		
2	ボランティア活動	講師の30年間のボランティア活動（日米間）		
3	ボランティアの歴史	ボランティア活動の歴史概論		
4	国際ボランティア	カンボジアの孤児院設立・バングラディッシュのフォスター制度創始者苦米地さんの話		
5	国際ボランティア	JICAで看護関係のボランティア活動に参加した方の話（未定）		
6	ボランティアの調査	グループ毎に現行のボランティア活動を調査し発表		
7	並びにプレゼンテーション	する。自分の意見を聞き手に理解させる訓練。学生同志発表を採点する。質疑応答		
8				
9	福祉とボランティア	テキスト使用		
10	NPOについて	テキスト使用		
11	ボランティアとNPO	テキスト使用		
12	エゴグラムテスト	エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要		
13	施設へテディベアギフト	施設（未定）へベアギフトを行い、心の交流をする。		
14	フティング			
15	期末試験	筆記試験		

教 科 書	
参 考 書	「ボランティアという人間関係」原田隆司（世界思想社） シリーズ福祉のこころ1、社福祉の心、2 障害ってなんだろう、3 老いのものがたり、4 きみの心のサポーター 5 命のあかりを求めて 旬報者

授 業 科 目 名	医 療 民 俗 学	単 位 認 定 者	板 橋 春 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期 集 中
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義（映像記録も適宜使用）
科 目 の 目 的	誕生や死に際して行われる儀礼や慣行は、日本人の伝統的生命観に基づいたものであり、これに対する十分な知識と理解がこれからの新しい医療文化のあり方を考える上で重要となる。本授業では日本人の伝統的生命観の概要を学ぶことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	(1) 誕生民俗の過去と現在のあり方を学ぶ。 (2) 病気・健康の歴史と文化を学ぶ。 (3) 死の民俗に関する儀礼と慣行を学ぶ。
関 連 科 目	関連しあう教養科目—生命倫理 家族学
成 績 評 価 方 法	定期試験と出席状況で評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6	(1) 誕生民俗と生命観	①丙午俗信と出産行動 ②胎児の生命（産死の身二つ慣行の分析） ③産着と魔除け（赤子を守るマーク） ④名付けの諸相（悪名と仮り名の習俗） ⑤双子観の変容 ⑥いのちの保護（産婆の技術と呪術）		
7 8 9 10	(2) 健康と医療	⑦病気とまじない（呪術の現在性） ⑧健康と癒し（健康飲料・健康ブーム） ⑨急病人搬送の民俗（医療と伝統的習俗の関わり）		
11 12 13 14 15	(3) 死者儀礼と死後の世界	⑩長寿と厄年（長寿銭と長寿観） ⑪看取りと臨終（介護の問題と家族） ⑫死の判定とタマヨビ ⑬あの世とこの世（死者儀礼と現代社会）		

教 科 書	「いのちの文化人類学」波平恵美子（新潮社）
参 考 書	「冠婚葬祭」宮田登（岩波新書）

授 業 科 目 名	法 学	単 位 認 定 者	斎 藤 周
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	「法」というと「難しいもの、面倒なもの、私たちに関係ないもの」といった印象を持っている人が多いのではないだろうか。でも、実は、「法」は身近なものであり、私たちを守ってくれるし、私たちが幸せになるために使えるものでもある。そこでこの科目では、基本的人権・平和・民主主義といった問題を検討することを通じて、ひとりひとりが幸せに生きられる社会のあり方を考える。
学 習 到 達 目 標	法律の条文や解釈を暗記することは必要ない。履修者が政治・経済・社会への認識を深め、主権者として成長すること、あるいはより一般的に言えば、事実に基づいて論理的にものごとを考える力をつけることを目標とする。
関 連 科 目	[他の教養科目で関連の深そうなもの] 経済学・国際関係論・性別の社会科学・家族学・教育学
成 績 評 価 方 法	論述式の筆記試験またはレポートにより評価する。〈自分の考えを、説得力をもって説明できているかどうか〉を、評価の基準とする。なお、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、履修を放棄したものとみなし、評価の対象としない。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	序論	法とは何か、憲法とは何か		
2	人権①	人身の自由 (死刑制度、冤罪)		
3	人権②	表現の自由 (選挙運動の自由、報道の自由)		
4	人権③	信教の自由と政教分離 (靖国神社参拝問題)		
5	人権④	教育と人権 (義務教育と不登校)		
6	人権⑤	家族と人権 (夫婦別姓)		
7	人権⑥	労働と人権 (過労死を作り出す企業社会)		
8	人権⑦	平等原則と個人の尊重		
9	民主主義①	民主政治と独裁政治		
10	民主主義②	国民主権と象徴天皇制		
11	平和①	日本の戦争と戦争責任・戦後責任		
12	平和②	原爆投下と日本の敗戦		
13	平和③	憲法9条2項 (戦力の不保持) と自衛隊・在日米軍		
14	平和④	戦争をするアメリカ、派兵する日本 (改憲論の現在)		
15	定期試験			
★	各回の授業内容と順番は、変更することがある。			

教 科 書	使用しない。
参 考 書	「新版 主権者はきみだ」森英樹 (岩波書店 岩波ジュニア新書)

授 業 科 目 名	経 済 学	単 位 認 定 者	武 井 昭
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	今日においては「お金」なしには生きていけない。「お金」を安定して稼ぐには、今日の「経済」の仕組みを正しく認識することが不可欠である。今後急速に進展する「少子・高齢社会」の中でこのことを実現することは容易ではないが、本講義では、「少子・高齢社会」の到来とこれまでの「経済」の関係を可能な限り体系的具体的に捉えることを通じて、フリーター・ニート、年金、医療、介護など今日直面する諸問題の克服の可能性を考査する。
学 習 到 達 目 標	自分なりに理解したことをスタディしそれを文書で表現する能力
関 連 科 目	法学 家族学
成 績 評 価 方 法	レポート (400 字詰め原稿用紙 15 枚以上)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	ガイダンス	今日の「経済」は「工業経済」がその価値の中心を形成し、その価値づけについては「市場」(マーケット)で行うということが中核をなしているために、「お金」での評価の比重が大きくなる。それにつれて、このこととこれ以外の社会的な事柄との関係において軋轢が生じ、社会経済問題となる。こうした視点から講義を展開する。		
2	経済と社会の関係			
3				
4	工業経済と市場経済の統合			
5	経済発展と技術革新			
6	経済成長と社会保障			
7				
8	高齢化社会のメカニ			
9	ズム			
10	少子・高齢社会の到			
11	来			
12	介護・福祉・健康と			
13	労働 (女性の社会 化・フリーター問題)			
14	看護・リハビリの社			
15	会経済学			

教 科 書	「生活と福祉の社会経済学」武井昭 (高文堂出版社) 2000 年
参 考 書	

授 業 科 目 名	国 際 関 係 論	単 位 認 定 者	田 村 幸 恵
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	学生を取り巻く国際関係が、毎日の生活に様々な影響を及ぼしていることを知り、身近な問題から「国際関係」を考える素養を養う。国際関係はその成り立ちから発展の歴史的背景を知ることが目的とする。主要な論点は、1)主権国家体系の成立と拡大、世界大戦 2)終戦と東西対立による冷戦 3)環境問題と「国際社会」 4)暴力の行使と人間の権利 5)ローカルな力:グローバル化とローカリゼーションの5つから、国家を超えて及ぼされる影響が国際関係として把握できるよう基礎知識を備えることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	上記目的に沿って学ぶ主軸として、自らの生活に関わる様々な「国際」的問題をとらえることができるようになる。最初の 1)、2)は日本とその周辺地域との関わりを意識しながら考える。また、3)から 5)の論点を自らの問題意識を互いにシェアしながら問題対処の様々な動きを理解することができるようになる。国際関係と思われるものの内容を検討し、それがいかなる意味で国家を超えた影響を受けているか把握できるようになり、個人と国際社会の関連性を把握することができる。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	出席、テスト及びレポート提出による

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	国際関係：国の際と関係	国際関係の歴史と国家の成立 国際関係の発生：国際関係の発展 西欧 市民革命-19世紀後半-帝国主義時代 非西欧 国家と民族-帝国主義からの解放?-独立 日本の近代化と「国民国家」 アンケート		
2	近代国際関係の再編	第一次世界大戦と西欧民主主義の軌跡 ロシア革命 ブロック化と世界大戦 第二次世界大戦とナチズムへの逸脱 大戦の終結		
3	経済と国際関係	世界大戦の背景：経済の発展から戦争へ 戦争と政治 戦争と経済 階層と国際的階層		
4	東アジアの中の日本とその周辺の関係	アジアの日本、憲法制定と国際関係 日本の経済発展と朝鮮戦争 日中国交正常化 沖縄駐留米軍		
5	東西対立：冷戦と国際関係	国連の発生とその限界 核戦争の脅威 非同盟諸国 社会主義陣営と自由主義陣営 平和共存外交		
6	現代世界の民主主義あるいは文化	新植民地主義 南南問題 文化と交流 民族と文化 教育と文化 政治と文化		
7	冷戦期の国際関係：平和という課題	軍縮と核実験 暴力：地域紛争の発生 アフガニスタン・キューバ・ベトナム アンケート		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
8	安全保障の変化	無政府状態から集団安全保障、その先へ 地域協力、EU統合 共通の安全保障 ゼロ・サムゲームから共存へ		
9	開発と貧困	世界銀行とIMF 冷戦と通貨危機 多国籍企業と世界銀行 開発と環境問題 NIEsの登場		
10	「国際社会」とグローバル化	環境問題 ブラジル会議 京都議定書 発展の限界と自立の志向 人口会議と女性 食料問題 情報化 メディアとIT		
11	国境を越える移動：人権と難民	多国籍企業と経済発展：IT化 出稼ぎ労働者問題 戻ると守る人：還流型労働 難民の発生と問題解決の限界 難民の受け入れと文化摩擦 職をめぐる対立 ネオナチズム		
12	9・11とテロとの戦争	テロリズムと国際関係の構造 「構造的暴力」 保障されない人権 国際人権宣言 最低限の生存権		
13	人間の安全保障：「市民社会」	南北問題の拡大 貧困からの自由、権利からの不自由 NGOの活躍と市民の視点		
14	広がる国連軍の派遣：「人道的危機」	アフリカ諸国の地域紛争と先進諸国の収奪 人間の生存条件と「独立」 多国籍軍と湾岸戦争、ソマリア、アフガン、イラク		
15	「エスニック」紛争	民族からエスニック集団まで マイノリティの問題 ローカリゼーション 自分の地域、自分の文化、自分の社会-比較と関係		

教科書	プリントによる
参考書	

授 業 科 目 名	性 別 の 社 会 科 学	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する 2. 若い人たちが形成のその担い手となる、性別に関して公正な社会像を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える
学 習 到 達 目 標	1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会慣習、社会通念を認識できる 2. 1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる 3. 2のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる 4. 3.のような社会へと向かうなかで社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる
関 連 科 目	【関連する教養科目】 一 家族学 生活学 法学
成 績 評 価 方 法	講義を踏まえ、課題に対する自身の分析・解釈・見解を論述する形の試験を実施する。試験点に出席点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	戦後日本社会と性別 (1)	「女性」「男性」をめぐる規範、高度経済成長期における性別分業の形成—分業の3軸、第1の性別分業：有償労働と無償労働		
2	戦後日本社会と性別 (2)	高度経済成長期における性別分業の形成—第1の性別分業：社会的労働と私的労働 (続き)		
3	戦後日本社会と性別 (3)	高度経済成長期における性別分業の形成—第2の性別分業		
4	戦後日本社会と性別 (4)	:産業雇用労働の中の性別分業(基幹労働と周辺労働) 高度経済成長期以降の性別分業—第1・第2, 2つの性別分業の関係		
5	戦後日本社会と性別 (5)	第3の性別分業—男性:政治/女性:政治への非関与。その根としての「家」制度		
6	性別について公正な社会へ	性別秩序はなぜ問題にされるようになったか、性別秩序を越えた社会、社会的労働と私的労働のゆくえ		
7	ケアと性別	ケアとは、他者のケアを役割にするということ、ケアの役割化に伴うリスク、愛とケア、ケア観の成熟、ケアの脱「女性の役割」		
8	ハラスメント	セクシュアルハラスメント、パワーハラスメント、アカデミックハラスメント、予防と対応		
9	男性問題	男性規範とそれが生む問題		
10	文献講読 (1)	関連文献を読み、それについてコメントをまとめる		
11	文献講読 (2)	関連文献を読み、それについてコメントをまとめる		
12	文献講読 (3)	関連文献を読み、それについてコメントをまとめる		
13	文献講読 (4)	関連文献を読み、それについてコメントをまとめる		
14	文献講読 (5)	関連文献を読み、それについてコメントをまとめる		
15	定期試験			

教 科 書	プリントによる (プリント保存用のファイルを用意すること)
参 考 書	「男女共同参画白書 2006 年度版」内閣府 (財務省印刷局) 2007

授 業 科 目 名	環 境 論	単 位 認 定 者	西 菌 大 実
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
学 習 到 達 目 標	1 環境問題の背景と発生原因への理解 2 生活環境問題とその対策、関連する法制度の理解 3 地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解 4 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識
関 連 科 目	栄養学 地域社会学 地域看護学概論
成 績 評 価 方 法	定期試験（後期末実施予定）による。 出席状況、平常点を参考とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	環境とは	環境問題の範囲と背景	【社会保障制度と生活者の健康】 目標3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 3. 生活環境の保全 A. 地球環境 a) 地球温暖化 b) オゾン層の破壊 c) 酸性雨 B. 水・空気・土壌 a) 水の安全性 b) 大気汚染 c) ダイオキシソ C. 食品管理および家庭用品 a) 食品安全確保対策 b) 食品衛生管理制度 c) 家庭用品の安全対策 D. ごみ・廃棄物 a) 一般廃棄物と産業廃棄物 b) 市町村の責任 c) 生活廃水処理 E. 住環境 a) バリアフリー b) シックハウス症候群	
2	地球の環境の構造	地球の自然の成り立ち		
3	生活を支える資源	再生可能資源と再生不能資源		
4	環境問題の変遷	公害問題から地球環境問題への歴史的・内容的変遷		
5	典型七公害(Ⅰ)	水質汚濁、土壌汚染		
6	典型七公害(Ⅱ)	大気汚染、悪臭		
7	典型七公害(Ⅲ)	騒音、震動、地盤沈下		
8	四大公害	足尾鉍毒、水俣病、イタイイタイ病		
9	生活環境問題まとめ	公害対策の歴史、法制度		
10	オゾン層破壊(Ⅰ)	オゾン破壊物質、オゾン層の状況と見通し		
11	オゾン層破壊(Ⅱ)	対策、ウィーン条約モントリオール議定書		
12	地球温暖化(Ⅰ)	温室効果ガス		
13	地球温暖化(Ⅱ)	気候変動の状況と見通し		
14	地球温暖化(Ⅲ)	対策、気候変動枠組条約京都議定書		
15	酸性雨	燃焼生成物、硫酸・硝酸の生成		
16	生物の多様性など	生物多様性、砂漠化、海洋汚染、熱帯雨林		
17	地球環境問題まとめ	予防原則、世代間公平の原則、先進国途上国の責任		
18	エネルギー問題(Ⅰ)	日本の1次エネルギー現状		
19	エネルギー問題(Ⅱ)	再生可能エネルギー、自然エネルギー		
20	エネルギー問題(Ⅲ)	エネルギー利用効率、コジェネレーション		
21	廃棄物問題(Ⅰ)	一般廃棄物、産業廃棄物		
22	廃棄物問題(Ⅱ)	医療廃棄物、感染性廃棄物、特定管理廃棄物		
23	廃棄物問題(Ⅲ)	廃棄物処理の過程		
24	食品の安全性(Ⅰ)	食料生産の現状、窒素循環		
25	食品の安全性(Ⅱ)	フードマイレージ、検疫薫蒸		
26	食品の安全性(Ⅲ)	ダイオキシソ、環境ホルモン		
27	難分解性汚染物質	有機塩素化合物、POPs、生物濃縮		
28	循環型社会	3R、熱回収、適正処分		
29	持続可能社会	再生可能資源中心の社会づくり		
30	定期試験	筆記試験		

教 科 書	
参 考 書	「平成18年版環境白書」 環境省編（ぎょうせい）

授 業 科 目 名	情 報 処 理	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Word、PowerPoint 等を使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Word、PowerPoint 等を使用して、レポート、研究発表等の種々の文書作成やプレゼンテーションなどが円滑に実行できるようにする。
関 連 科 目	「情報学」(後期)…「情報処理(前期)」「情報学(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネット	コンピュータとソフトウェア、ネットワークとインターネットの基礎的内容を指導する		【疫学・保健統計】 11-A-a) コンピュータとソフトウェア b) ネットワークとインターネット c) データの電子化 d) 個人情報の秘密保持 11-B. データベース 11-C. レコードリンクページ
2	データの電子化、個人情報の秘密保持	データの電子化、個人情報の秘密保持の基礎知識について指導する		
3	Windows と Word 入門	Windows と Word の基礎的事項を指導する		
4	文字入力	Word を使った文字入力を指導する		
5	文書入力、文書の作成	簡単な文書作成を指導する		
6	文書の訂正、修正	文書の訂正・修正等について指導する		
7	文書の編集	文書の編集(削除、挿入など)を指導する		
8	文書と表の結合	文書中に表を挿入することを指導する		
9	データベース、レコードリンクページ	データベース、レコードリンクページについて指導する		
10	ビジュアルな文書の作成	ビジュアル化によって、見やすく分かりやすい文書の作成を指導する		
11	PowerPoint の基礎	PowerPoint の基礎的事項を指導する		
12	プレゼンテーションの基本事項	プレゼンテーションの基本事項・留意事項を指導する		
13	プレゼンテーションの作成	具体的なプレゼンテーションのスライドの作成を指導する		
14	課題発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	課題発表② 試験	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う 試験を実施する		

教 科 書	「30 時間でマスター Word2007」宮詰正幸他(実教出版) 「30 時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2007」永井克昇他(実教出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	情 報 学	単 位 認 定 者	西 谷 泉
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	コンピュータを使った実習形式で行う。
科 目 の 目 的	Excel を使用した実習を通して、情報学の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
学 習 到 達 目 標	Excel を用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果を PowerPoint を用いてプレゼンテーションできるようにする。
関 連 科 目	「情報処理」(前期)…「情報処理(前期)」「情報学(後期)」を連続して受講することが望ましい。
成 績 評 価 方 法	試験・課題発表・出席状況等を総合的に判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	統計学の基礎①	統計学の歴史について指導する		
2	統計学の基礎②	統計学の基本的事項について指導する		
3	Excel の基本	Excel の基本的事項について指導する		
4	合計、平均の計算	種々のデータの合計、平均の求め方について指導する		
5	関数の活用	Excel 内の種々の関数について指導する		
6	最大・最小	種々のデータの最大値・最小値の求め方について指導する		
7	表の作成	種々のデータを表にする方法を指導する		
8	グラフ作成	種々のデータのグラフの描き方について指導する		
9	様々なグラフ	種々のグラフの描き方等について指導する		
10	データベースの基本事項	種々のデータのデータベース作成について指導する		
11	データのソート、検索、集計	種々のデータのソート、検索、集計の方法を指導する		
12	Word への Excel の埋め込み	Word への Excel の一般的な埋め込みについて指導する		
13	Word への Excel のリンク埋め込み	Word への Excel のリンク埋め込みについて指導する		
14	研究課題の発表①	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
15	研究課題の発表②	各受講生が独自に調べた内容を PowerPoint を用いてプレゼンテーションを行う		
16	試験	試験を実施する		

教 科 書	「30 時間でマスター Excel2007」(実教出版)(予定)
参 考 書	

授 業 科 目 名	総 合 講 座	単 位 認 定 者	内 藤 和 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義、グループワーク
科 目 の 目 的	設定したテーマについて、専門の異なる複数の教員が異なる角度から論じることにより、当該テーマを多角的・多元的に考察することを目的とする。本年度のテーマを「ライフワークと私」とし、学生が役割モデルを見出し、また、自身の人生を考える契機としたい
学 習 到 達 目 標	各自の職業人、社会人としての将来像をより具体的に考えられるようになる
関 連 科 目	【この科目が基盤となる専門基礎科目】看護学入門 リハビリテーション概論
成 績 評 価 方 法	講義を踏まえた個人のレポートに出席点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	オリエンテーション、ジェンダー研究	異なる分野の研究・教育・実践をライフワークとする教員が、自身とライフワークを語るオムニバス形式の講座である。本講座にはコーディネイターを置く。コーディネイターは、担当者間の連絡調整、講義と講義の関連づけ、講義を踏まえたまとめ等、講座全般の運営にあたる。 総合講座の趣旨、テーマ、運営方法、期待すること等を説明する。また、基本概念（ライフワーク、役割モデル、縁と機、等）について解説する（コーディネイター 内藤和美） 専門を替え、男女共同参画社会形成関連の政策過程を中心とするジェンダー・スタディーズの研究・教育をライフワークとするようになった者として（内藤和美）		
2	精神看護学・認知症	精神看護学、認知症高齢者の看護に関する教育・研究をライフワークとする者として（斎藤和子）		
3	高齢者の看護学 理学療法学	新生児から高齢者、超早期から慢性期という幅広い臨床の実践者としての経験の後、理学療法の基礎と臨床の研究・教育をライフワークにするようになった者として（江口勝彦）		
4	地域保健学	地域で生活する精神障害者を支えるシステムづくりを中心に、地域保健の研究・教育・実践をライフワークとする者として（矢島正栄）		
5	スポーツ科学	肥満関連ホルモンレベルに及ぼす運動の効果の研究を中心に、スポーツ科学の研究・教育・実践をライフワークとする者として（近藤照彦）		
6	まとめのための講義	各人が、保健医療専門職および関連分野の先輩である各教員の自身とライフワークの開示を受け止めて自身のこれからを考えるための視点、概念を提示する。		
7	まとめ	各自がまとめに取り組む（コーディネイター 内藤和美）		
8	特別講義	総長特別講義「私の教育の原点」		

教 科 書	使用しない。各教員が用意する
参 考 書	

授 業 科 目 名	保 健 統 計 基 礎	単 位 認 定 者	石 井 満
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	従来、臨床現場での推定や判断は経験的・感覚的な事柄が基本となっていることが多く科学性が稀薄であり、時には主観的でさえあった。このことを是正することが必要であり、このための大きな手法が統計学に基づく科学的解析であり、この方向性が先進国の基本的傾向である。以上のことに基づき、臨床データの分析方法を理解し、応用することを目的とする。
学 習 到 達 目 標	臨床データの分析目的とそれに対応する各方法を理解し、的確に応用できるようになること。このために、可能な限り多種類の臨床データを例題として配布するとともに理論補強のプリントを随時大量に配布する。平方根（ルート）の付いている電卓を用意すること。
関 連 科 目	全ての専門科目
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート、定期試験等を総合的に評価する。（出席重視）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 ～ 5	統計学とは 資料(データ)の整理	統計学の概要と、臨床例を用いてその必要性を述べる。 平均、限られた範囲での平均、分散、標準偏差、度数分布、相関の各意味と応用		
6 ～ 8	正規分布	正規分布の誘導と応用		
9 ～ 10	標本と標本分布	標本と標本抽出。平均 \bar{x} や二項、カイ ² 乗、t、Fの各分布		
11 ～ 15	推定理論	点推定、真の値の（平均値、分散等の）区間推定		
16 ～ 19	検定理論	理論の構造、t検定、F検定		
20 ～ 22	クロス集計とカイ ² 乗検定	クロス集計とその応用、独立性および適合度検定		
23 ～ 25	回帰分析	回帰分析、相関分析、分散分析表、重回帰分析		
26 ～ 29	調査と質的データ	数値で表せないデータ（質的データ）、 数量化Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類		
30	期末試験 (別に、前期中にテストをすることもありうる。)			

教 科 書	「やさしい医療系の統計学」佐藤敏雄、村松幸 著（医歯薬出版）
参 考 書	「データのまとめ方使い方」中元藤茂他（医歯薬出版） 「統計技術とその理論」石井 満（森北出版）、他 講義時に紹介する。

授 業 科 目 名	生 物 学 基 礎	単 位 認 定 者	柴 田 雅 祥
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	遺伝子診断、遺伝子治療、オーダーメイド医療など今後の医療分野では、分子生物学をはじめとする生物学に関する知識が必須であり、今後その重要性はますます高まってゆくと考えられる。そのような状況をふまえ、本講義では「細胞」、「遺伝 (分子生物学)」、「生体内化学反応」、「恒常性」といった観点から、医療分野への応用につながる生命現象の基本を学習する。また、本講義は高校で生物を学んでこなかった者を対象とした講義であり基礎的知識の習得を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 生命の最小単位である細胞についての理解 2. DNA など遺伝現象の基礎知識の習得、及びそれを応用した遺伝子診断などについて理解 3. 生体内で生じている化学反応についての基礎知識の習得 4. 体内調節機構である恒常性についての理解
関 連 科 目	関連し合う教養科目－生命科学 この科目が基盤となる専門基礎科目－生化学, 生理学, 免疫・感染症学
成 績 評 価 方 法	筆記試験の結果にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	イントロダクション	本講義の目的、進め方、目標等の説明		
2	細胞 (1)	細胞とは、細胞小器官とは		
3	細胞 (2)	細胞膜、核		
4	細胞 (3)	ミトコンドリア、ゴルジ体、小胞体		
5	細胞 (4)	リボゾーム、細胞骨格		
6	遺伝現象 (1)	遺伝子 DNA について、セントラルドグマ		
7	遺伝現象 (2)	DNA の複製		
8	遺伝現象 (3)	転写		
9	遺伝現象 (4)	翻訳		
10	生体内化学反応 (1)	タンパク質、酵素		
11	生体内化学反応 (2)	呼吸		
12	体内調節機構	恒常性		
13	医療への応用 (1)	遺伝子診断、オーダーメイド医療		
14	医療への応用 (2)	クローン技術		
15	試験	筆記試験		

教 科 書	「好きになる分子生物学」萩原清文 (講談社) 上記に加え随時プリントを配布する。
参 考 書	指定なし。

授 業 科 目 名	化 学 基 礎	単 位 認 定 者	吉 國 忠 亜
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義はテキストとパワーポイントを使って開示し、講義中に幾度か簡単な卓上示唆実験と合成実験を演示する。
科 目 の 目 的	化学の歴史は古くから基幹学問の一部を形成しており、医学との関連も深く密着している。高校化学を学ばなかった学生に対しても、看護学、理学療法学の学習に必要な化学の基本を学ぶように進める。
学 習 到 達 目 標	化学を知ることにより看護学や理学療養で用いられる治療薬の特質を深く理解できる。高校化学の一般的知識を土台にしてその分野の真髄を深く追求することで、治療薬品の取り扱いや効能を理解し易くなる。
関 連 科 目	化学全般の物性・性状・反応形態を基礎として講義するので、図書館・書店の一般化学、基礎化学の書籍を参考にして欲しい。更に看護での治療薬の基礎や理学療養のX線取り扱いなど幅広く講義するので、生化学、放射化学、天然物化学も含めて勉強できるため、食い付くつもりで取り組んで貰いたい。
成 績 評 価 方 法	講義毎に行なう小テストと出席点および学期末定期テストを加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	物質の構成	周期表、原子、水素、同位体、放射能 種類；イオン、配位、共有、金属、水素 パーセント濃度、モル、規定度、アボガドロ数、 三態、化学平衡、分子軌道、同素体 状態方程式、昇華、加熱組成曲線 水、溶媒和、組成曲線、酸解離定数、 反応次数、活性化熱、ボルン・ハーバー 中和反応、PH、指示薬、緩衝液、 酸化数、形式電荷、酸化還元剤、ヘム 典型元素、ハロゲン、酸素 構造、反応、伝導度、アルカリ土類、遷移 異性体、立体、アミノ酸、核酸、ビタミン アルカン、エチレン、アセチレン アルコール、アルデヒド、ケトン、エステル ベンゼン、複素環、ステロイド	放射線宿酔	放射線
2	化学結合		薬剤濃度	注射液
3	物質の量			
4	物質の状態変化			
5	気体の性質		肺炎禁忌、 酸塩基平衡	
6	溶液の性質			
7	化学反応と熱		血液 PH,	
8	酸と塩基の反応			
9	酸化還元反応		チアノーゼ	
10	非金属元素と周期表		呼吸気系作用薬、UV 障害 床上安静、貧血、痴呆症 DNA, 欠乏症、	呼吸機能、光化学大気汚染
11	金属元素の性質			
12	有機化合物の構造			
13	脂肪族炭化水素			
14	脂肪族酸化化合物		洗浄、尿症、気管支拡張 副腎皮質、乳汁	気管支拡張 精神障害
15	芳香族化合物			

教 科 書	テキスト 1300円 事務室で受講者代表が受けとる。
参 考 書	

授 業 科 目 名	物 理 学 基 礎	単 位 認 定 者	横 井 利 男
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	演 示 実 験 ・ 講 義
科 目 の 目 的	看護や理学療法には、熱、温度、力、運動など物理学の知識が必要である。また、最新の医療機器には原子構造や量子論など最先端の物理学の成果を活用しているものが少なくない。 この科目は、高等学校で物理Ⅰ、Ⅱ、理数物理を履修していない学生を想定して、最小限必要な物理学の教養を身につけることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	物理現象を分析的に追究し、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深める。 古典的な物理現象については、数学的に解釈し、処理することができるようにする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	定期試験等により、物理学の基本的な概念、原理、法則について理解の程度を評価する。 中間レポート等により、物理事象への興味・関心の広がりや深まりを評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準		
			看 護 師	保 健 師	
1	力学	・物理量と単位			
2		・つりあい・力・重力			
3		ベクトル			
4		・運動・速度と加速度・重力の加速度			
5		運動方程式 ・エネルギーの保存 運動エネルギーと位置エネルギー			
6	熱力学	・熱エネルギー			
7		(熱と温度・エネルギーの変換)			
8		・原子、分子の運動 (物質の三態・分子の運動と圧力)			
9	波	・波			
10		・音と光			
11	電磁気学	・電流と抵抗			
12		・電界と磁界 ・電磁誘導 ・電磁波			
13		現代物理学入門			・原子の構造
14					・原子核の構造 ・粒子と波 ・素粒子と宇宙
15	定期試験				筆記試験

教 科 書	プリントによる
参 考 書	「基礎からの物理学」原 康夫 (学術図書出版社)

授業科目名	英語基礎	単位認定者	杉田雅子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	テキストに沿って進める。
科目の目的	大学での英語学習についていけるよう、今までに学習してきた英語の基本事項の復習。
学習到達目標	基本英文法力の強化、正確に発音できるようになること、英和辞書が十分活用できるようになること。
関連科目	【この科目が基盤となる教養科目】—総合英語 英語表現 医療英語・外書講読 国際医療協力英語
成績評価方法	出席状況、授業への取り組み姿勢、前期末試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	Introduction と Unit 1	授業の説明、be 動詞		
2	Unit 2	一般動詞		
3	Unit 3	進行形		
4	Unit 4	未来形		
5	Unit 5	助動詞		
6	Unit 6	現在完了		
7	Unit 7	受動態		
8	Unit 8	名詞・代名詞		
9	Unit 9	形容詞・副詞		
10	Unit 10	前置詞・接続詞		
11	Unit 11	比較		
12	Unit 12	動名詞・分詞		
13	Unit 13	不定詞		
14	Unit 14	関係詞		
15	前期末試験			

教科書	「English Learning with Athletes トップアスリートと学ぶ基礎英語」英語教育研究会著（開文社出版）2007年
参考書	英和辞典（必携）

授業科目名	解剖学 I	単位認定者	浅見知市郎
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・見学実習
科目の目的	看護学を学ぶための最も基本的な知識となる人体の構造を学ぶ。各器官系ごとに骨格系、筋系、脈管系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系、神経系、感覚器系に分け、それぞれ関連づけながら学習していく。
学習到達目標	1、人体の基本的な構造を説明できる。 2、看護学を学ぶための基礎知識としての解剖学を習得している。 3、疾患、病態との関係を説明できる。
関連科目	生理学 生化学 疾病の成り立ち
成績評価方法	中間試験と定期試験で評価する。 ※解剖学見学実習に参加することを単位認定の条件とする。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	解剖学概説	解剖学とは何か、どのようなことを学ぶか。器官とその系統	必修問題Ⅲ 1生命活動 A. 人体の構造と機能 K)骨・筋 「人体の構造と機能」 8. 運動系 A. 姿勢 a)体位と構え B. 骨格 a)骨の構造と機能 b)体の支柱 c)四肢の骨 d)頭蓋骨と胸郭 C. 骨格筋 a)骨格筋の構造 b)筋収縮の機能 c)抗重力筋 d)四肢の筋 e)頸部の筋 f)表情筋 g)呼吸筋 h)骨盤底筋 D. 運動 a)関節の構造 b)関節運動の種類 c)随意運動と不随意運動 d)脊髄反射 4. 循環系 A. 心臓 a)心臓と心筋の構造 b)心臓の機能 c)刺激伝導系 B. 血管系 a)肺循環と体循環 b)動脈系と静脈系 c)脈拍 d)血圧 e)胎児の血液循環 c. リンパ系 a)リンパ管	
2	組織学概説	組織とその分類		
3	骨格系 1	骨格とは何か、骨のかたち、骨の基本構造、骨の発生と成長、関節		
4	骨格系 2	頭部の骨		
5	骨格系 3	脊柱、胸郭		
6	骨格系 4	上肢の骨格、下肢の骨格		
7	筋系 1	筋総論、頭頸部の筋		
8	筋系 2	胸腹部の筋		
9	筋系 3	上肢の筋、下肢の筋		
10	脈管系 1	脈管系総論、心臓		
11	脈管系 2	動脈系		
12	脈管系 3	静脈系、胎生期の循環系		
13	脈管系 4	リンパ系、脾臓、胸腺、血液、血球		
14	消化器系 1	総論、口腔	必修問題Ⅲ 1生命活動 A. 人体の構造と機能 h)消化器 10. 栄養摂取の機構 B. 咀嚼 a)歯・口腔の構造と機能 b)咀嚼の過程 C. 嚥下 a)咽頭の構造と機能 b)食道の構造と機能 c)嚥下の過程 D. 消化と吸収 a)胃の構造と機能 b)十二指腸の構造と機能 c)空腸・回腸の構造と機能 d)結腸の構造と機能 e)肝臓と胆道の構造と機能 f)膵臓の構造機能	
15	消化器系 2	咽頭、食道、胃		
16	消化器系 3	小腸、大腸		
17	消化器系 4	肝臓、胆嚢、膵臓		
18	呼吸器系 1	総論、鼻腔、副鼻腔、喉頭	必修問題Ⅲ 1生命活動 A. 人体の構造と機能 e)循環器 f)呼吸器 9. 呼吸の機構 A. 換気と発声 c)気管・	
19	呼吸器系 2	気管、気管支、肺		
20	泌尿器系	腎臓、尿管、膀胱、尿道		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
21	生殖器系 1	男性生殖器 女性生殖器	肺の構造と機能 d)呼吸運動 e)肺気量 f)声帯と発生 必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 i) 泌尿気 11 排泄の機構 A. 尿の生成 a)腎臓の構造 b)濾過 c)再呼吸 C. 排尿 a)膀胱の構造神経支配 b)尿道の構造と神経支配 D. 排便 a)直腸・肛門の構造と神経支配 必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 1) 性と生殖 12、性と生殖に関する機構 A. 女性の生殖器 a)女性生殖器の構造 B. 男性の生殖器 a)男性生殖器の構造	
22	生殖器系 2			
23	内分泌系	下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓	7、液性調節 (内分泌系) C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能 a)視床下部 b)下垂体 c)甲状腺 d)上皮小体 (副甲状腺) e)膵島 f)中枢神経系を保護する組織 g)副腎髄質 h)消化管ホルモン i)腎臓のホルモン j)性腺ホルモン	
24	神経系 1	総論、中枢神経系 (脊髓、延髄、橋、小脳、中脳) 中枢神経系 (間脳、大脳、脳の血管、脳室、脳脊髄膜) 末梢神経系 (脳神経) 末梢神経 (脊髓神経、自律神経) 伝導路 (反射路、求心性伝導路、遠心性伝導路) 視覚器、平衡聴覚器 皮膚	必修問題Ⅲ 1 生命活動 A. 人体の構造と機能 g) 神経細胞と情報伝達 5、神経性調節 A 神経組織 B 中枢神経の構造と機能 (ア)末梢神経系 6、感覚と認識 A. 視覚 B. 聴覚と平衡覚 C. 嗅覚と味覚 D. 皮膚感覚 人体の構造と機能 目標 1・2 1 生命 E. 人体をおおう皮膚と膜 a)皮膚の構造と機能 b) 漿膜・粘膜	
25	神経系 2			
26	神経系 3			
27	神経系 4			
28	神経系 5			
29	感覚器 1			
30	感覚器 2			

教科書	「わかりやすい解剖生理 構造と機能への入門」石川春律、外崎昭訳 (文光堂)
参考書	「人体解剖学」藤田恒太郎 (南江堂)

授 業 科 目 名	解 剖 学 II	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	骨、筋、関節などの運動器、末梢および中枢神経系、感覚器の構造の詳細を機能と関連させつつ局所解剖学的に学習する。
学 習 到 達 目 標	1、上肢、下肢、体幹の運動を筋学、靭帯学、血管学を互いに関連させ、運動器としての統合機能を学び、機能障害との関連を理解する。 2、中枢神経系および感覚器の構造を機能との関連で学び、機能障害との関連を理解する。
関 連 科 目	生理学 疾病の成り立ち
成 績 評 価 方 法	定期試験による。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	上肢 1	上肢帯、上腕		
2	上肢 2	前腕、手		
3	下肢 1	下肢帯、大腿		
4	下肢 2	下腿、足、歩行		
5	中枢神経系	脊髄、延髄、橋、小脳中脳、間脳、終脳、神経路		
6	末梢神経系	脳神経、脊髄神経、自律神経系		
7	解剖見学 1	群馬大学における解剖見学		
8	解剖見学 2	同上		
9	頭部	頭部、頭蓋、顔面、表情筋		
10	頸部	頸部、前頸筋		
11	関節と靭帯	頭蓋、脊柱、胸郭の連結		
12	体幹 1	背部、脊椎、固有背筋		
13	体幹 2	胸部、呼吸筋		
14	体幹 3	腹部、腹筋		
15	試験			

教 科 書	「標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野解剖学第2版」野村巖（医学書院）
参 考 書	「人体解剖学」藤田恒太郎（南江堂）

授 業 科 目 名	生 理 学	単 位 認 定 者	塩 崎 秀 一
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人体の各部分の構造と機能を学び、看護に必要な基礎知識の修得をする。 また、代表的な疾患の病態生理も適時に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	まず、各臓器の基本的機能と理解する。そして、臓器機能、その変動要因、負担となることなど生理学的観点から疾患を把握できるようにする。
関 連 科 目	解剖学、成人看護学
成 績 評 価 方 法	学期末試験、及びレポートなどにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	生命とは	細胞・組織・器官	a. 細胞の構造 b. 細胞内小器官の構造	
2	体液、血液	体液の恒常性、血液の成分と機能	a. 体液の電解質	
3			b. 酸塩基平衡	
4			c. 血液の成分とはたらき	
5			d. 造血	
5			e. 凝固と線溶	
6	循環	心臓血管系の基本構造と機能、調節	a. 心臓の構造 b. 心臓の機能	
7			c. 血管の構造	
8			d. 動脈系と静脈系	
9			e. 脈拍 f. 血圧 g. リンパの流れ h. 胎児の血液循環	
10	呼吸	呼吸器系基本構造と機能、調整	a. 鼻腔の構造と機能	
11			b. 咽頭・咽頭の構造 c. 器官・肺の構造	
12			d. 呼吸運動 e. 肺機能の測定	
13			f. 声帯と発声 g. 外呼吸と内呼吸 h. ガス分圧 i. 酸素の運搬 j. 二酸化炭素の運搬 k. 呼吸中枢 l. 呼吸に影響を与える因子	
14	消化と吸収(消化管)	消化器系基本構造と機能、調整	a. 咀嚼の過程 c. 口腔	
15			d. 咽頭の構造と機能	
16			e. 食道の構造と機能 f. 胃の構造と機能 g. 十二指腸, 空腸・回腸の構造と機能 h. 結腸、直腸・肛門の構造と機能	
17	消化と吸収(肝、膵、胆)	消化器系基本構造と機能、調整	a. 膵臓の構造と機能	
18			b. 肝臓と胆嚢の構造と機能	
19	泌尿器と生殖器	腎臓の構造と機能、調整 尿生成、蓄尿と排尿	a. 腎臓の構造 b. 濾過	
20			c. 再吸収 d. 分泌 e. 尿量の調節	
21			f. 膀胱と尿路	
22	内分泌	ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能	a. ホルモンとは	
23			b. ホルモンの作用機序	
24			c. 様々なホルモン	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
25 26 27	神経	神経系とは/中枢神経系/末梢神経系	a. 神経細胞の生理 b. 神経細胞と情報伝達 c. 中枢神経系を保護する組織 d. 伝達路 k e. 末梢神経	
28 29 30	感覚と運動	感覚の一般的性質、主要な感覚器と伝導路 運動器系とは、骨・関節・筋の機能 試験	a. 感覚器 b. 感覚伝導路 c. 骨の構造と機能 d. 筋の構造と機能	

教科書	「オックスフォード生理学」植村慶一訳（丸善）
参考書	「カラー人体解剖学」フレディック・H. マティーンニ著（西村書店）

授 業 科 目 名	生 化 学	単 位 認 定 者	澤 田 只 夫
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	パワーポイント/ビデオ、プリントを使用
科 目 の 目 的	看護の対象となる人間の体を構成するミクロとマクロの世界（生命と物質との繋がり）を栄養学とを織り交ぜた総合的立場から、「根拠に基づく看護（EBN）」をめざし、基本的で、かつ臨床看護に役立つ基礎知識を修得する。そして、「人間」の理解を深めることをねらいとする。
学 習 到 達 目 標	生体分子を構成している化学物質にはどのようなものがあるのかを学び、生体内で起こっている生物化学的反応が理解でき、また、生命維持の機構や病気との関連も理解できるようになることである。
関 連 科 目	栄養学 臨床検査学（検体分析値の理解） 疾病の成り立ち 生理学
成 績 評 価 方 法	中間・学期末試験（70%）、小テスト及びレポート（30%）などにより評価。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	生体分子と細胞	生体の成り立ち/個体、器官、組織、細胞/細胞内小器官の機能/細胞分画法/生体を構成する物質/代謝—生体で起きている化学反応		
2	タンパク質の性質	タンパク質の分類/タンパク質を構成しているアミノ酸はL-α-アミノ酸である/タンパク質を構成しているアミノ酸の種類/アミノ酸は中性の水溶液中ではイオン化している/タンパク質の高次構造/タンパク質は変性し、機能を失う/血漿タンパク質		
3				
4			酵素の性質と働き	酵素とは/酵素の特性/酵素の種類/アイソエンザイム/血清酵素の診断への利用
5	生体内における糖質の代謝	糖とは何か/糖の分類/糖は我々の体にとって重要なエネルギー源である/グルコースとグリコーゲンの合成/血糖の調節/糖尿病		
6				
7	生体内における脂質の代謝	脂質の種類と化学的性質/脂質の代謝/リポタンパク質と脂質代謝異常		
8				
9		* <u>Midterm Exam</u> *		
10	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝	脱アミノ反応/脱炭酸反応/尿素回路/糖新生/エネルギー代謝/分枝鎖アミノ酸の代謝/含硫アミノ酸の代謝/オキシアミノ酸の代謝/芳香族アミノ酸の代謝/アミノ酸の先天性代謝異常症/主な疾患と血漿アミノ酸・タンパク質の変動		
11				
12				
13	生体内における核酸の役割	核酸の所在/2種類の核酸と構造核酸はコピーされる/タンパク質を作るための核酸/いらなくなった核酸の処分/核酸の仲間/遺伝病の犯人は?		
14		遺伝子操作のもたらす世界		
15		* <u>Final Exam</u> *		

教 科 書	「系統看護学講座 生化学」三輪一智ほか（医学書院）
参 考 書	

授 業 科 目 名	発 達 心 理 学	単 位 認 定 者	高 瀬 健 一
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	人間を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	①各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関 連 科 目	心理学 老年心理学 小児看護学概論
成 績 評 価 方 法	定期試験に日常点を加味する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	発達心理学とは	発達心理学の概念の理解	【必修問題】 II 人間の成長と発達 A. 胎児期 a) 形態的発達 B. 新生児期・乳児期 a) 発達の原則 b) 身体の発育 c) 運動能力の発達 d) 栄養 e) 母子関係 C. 幼児期 a) 身体の発達 b) 運動機能の発達 c) 排泄の自立 d) 言語発達 e) 社会性の発達 D. 学童期 a) 運動能力・体力の特徴 b) 社会性の発達 E. 思春期 a) 二次性徴 b) アイデンティティの確率 F. 成人期 a) 社会的責任と役割 b) 生殖機能の成熟と衰退 G. 老年期 a) 運動能力・体力変化 b) 知覚・感覚の変化 c) 認知能力の変化 d) 心理社会的変化 【精神看護学】 1. 精神看護の基本概念 C. 成長発達モデル a) 乳幼児における発達危機 b) 学童期における発達危機 c) 思春期・青年期における発達危機 d) 壮年期における発達危機 e) 老年期における発達危機	
2	乳児期の発達と危機管理	気質という概念の理解と親子関係について		
3	幼児初期の発達と危機管理	1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について		
4	幼児期の発達と危機管理	就学前の子ども発達の特徴と危機の種類とその管理について		
5	学童期の発達と危機管理	学童期の発達課題、社会的発達について		
6	思春期の発達と危機管理	思春期の身体的特徴と危機管理について		
7	青年期の発達と危機管理	青年期の発達の特徴。性に関する問題。		
8	青年後期の発達と危機管理	青年後期の発達の特徴、特に自分探しに焦点を当てて考える		
9	青年期の精神障害(1)	対人恐怖・社会恐怖		
10	青年期の精神障害(2)	摂食障害・スチューデントアパシー		
11	若い大人のライフタスクと危機管理	ライフタスクの考え方と性差における社会的役割など		
12	壮年期のライフタスクと危機管理	壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり・仕事との関わりの変化について		
13	高齢期のライフタスクと危機管理	心身の変化、死のとらえ方など		
14	復習	発達心理学を人生の流れを通して再確認する		
15	定期試験	筆記		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師

教科書	「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」岡堂哲雄編 (金子書房)
参考書	講義中に随時紹介する

授業科目名	疾病の成り立ち	単位認定者	栗田昌裕
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病理学は、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることで、病気の本態を究明する。本講義はその総論に当たる内容から、看護に必要な知識を学ぶ。具体的には、病因について学習した後、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症(免疫・膠原病)、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
学習到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護で必要とされる内容の理解と知識とを得ること。
関連科目	解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学
成績評価方法	試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	序論 病理学とは	病理学とは、病因論、内因、外因、公害病と医原病、疾病の分類。	目標 1 1A病むとはどういうことか、1B疾病の誘因と回復力。	
2	先天異常	奇形と胃炎性疾患、奇形の種類、遺伝の関与と奇形、遺伝異常による疾患、遺伝性疾患の診断と治療。	目標 2 1 異常状態の特徴、A d 先天異常。	
3	代謝異常 1	細胞の障害と適応、変性、壊死とアポトーシス、細胞の適応、細胞障害の結果としての物質沈着。	目標 2 1 異常状態の特徴、A b 変性、A c 壊死。	
4	代謝異常 2	脂質代謝異常と疾患、タンパク質代謝異常と疾患、糖質代謝異常と疾患、その他の有機質の代謝異常と疾患、無機質の代謝異常と疾患。	目標 2 1 異常状態の特徴、B b 代謝異常。	
5	循環障害 1	循環器系の概要、循環血液量の異常、充血、うっ血、虚血、出血、ショック。	目標 2 1 異常状態の特徴、A d 循環障害。	
6	循環障害 2	閉塞性の循環障害、血栓症、播種性血管内凝固、塞栓症、側副循環、リンパの循環障害。	目標 2 1 異常状態の特徴、A d 循環障害。	
7	炎症と免疫、膠原病 1	炎症、炎症の原因、炎症の経過、創傷治癒、炎症の治療、炎症の各型。	目標 2 1 異常状態の特徴、A a 炎症。	
8	炎症と免疫、膠原病 2	免疫とアレルギー、自然免疫系と適応免疫系、免疫担当細胞、抗体と補体、能動免疫と受動免疫。	目標 2 1 異常状態の特徴、B a 免疫、目標 1 1 B 疾病の誘因と回復力。	
9	炎症と免疫、膠原病 3	免疫不全、先天性免疫不全、エイズ、移植と自己免疫、主要組織適合複合体、膠原病。	目標 2 2E 免疫および自己免疫疾患患者への看護の視点。	
10	腫瘍 1	腫瘍の定義と分類、異形度・分化度・悪性度、悪性腫瘍の転移と進行度。	目標 2 1 異常状態の特徴、A g 腫瘍、A f 過形成。	
11	腫瘍 2	腫瘍の発生病理、腫瘍の発生原因、がん発生の外因、がん発生の内因、腫瘍の診断と治療、がんの予防。	目標 2 1 異常状態の特徴、A g 腫瘍。	
12	老化と死	老化とは、ホメオスタシスの老化、主要組織・臓器の老化、死について。	目標 2 1 異常状態の特徴、A c 老化。	
13	病理検査	病理検査の意義、細胞診、生検組織診、手術時の迅速診断、病理解剖、病理組織・細胞診標本の作製課程。	目標 2 2A 異常状態に対する診断過程と看護、A b 一般的検査と特殊な検査。	
14	その他	必要に応じて上記を補う。		
15	その他	必要に応じて上記を補う。		

教科書	
参考書	「系統看護学講座 専門基礎 4 疾病のなりたちと回復の促進 [1]」(医学書院)

授業科目名	免疫・感染症学	単位認定者	伊豫部志津子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	病原微生物と免疫の基礎を理解し、生体防御と感染症の成立、予防、治療について学習する。
学習到達目標	個々の細菌、真菌、ウイルス等の病原性を学ぶと同時に、予防の立場からは消毒法、ワクチン、予防接種を、治療の立場からは化学療法を学習する。一方免疫の基礎にのっとり、病原微生物との係わりあいから感染症が惹き起こされるしくみを知る。近年問題となっている、MRSA、VRE、O157、AIDS、BSE、新型インフルエンザ等の感染症や病院内における日和見感染症についての理解を深める。
関連科目	生物学基礎、疾病の成り立ち、薬理学、臨床検査学、疫学・保健統計
成績評価方法	定期試験に平常点を加味して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	微生物学の基礎(1)	微生物の性質、細菌の性質、真菌の性質	【必須問題】 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 1. 生命活動《生理学》 A. 人体の構造と機能 d) 感染防御と免疫反応 3. 主要疾患と看護 B. 感染症 a) インフルエンザ b) 多剤耐性ブドウ球菌感染症 c) 腸管出血性大腸菌 d) ウイルス性肝炎 e) 結核 f) HIV 感染症/AIDS 【人体の構造と機能】 目標2: 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 3. 生体の防御機構《生理学》 B. 特異的生体防御反応(免疫系) a) 免疫系の細胞 b) 抗原 c) 液性免疫 d) 細胞性免疫 【疾病の成り立ちと回復の促進】 目標2: 疾病に対する医療と看護 2. 疾病に対する医療と看護《疾病の成り立ち》 D. 健康状態をおびやかす微生物への感染看護の視点 a) 微生物の分布と人体 b) 微生物の種類と特徴 c) 病原微生物の感染経路と潜伏期間 d) 病原微生物に対する化学療法と薬剤耐性菌 e) 病原微生物に対する	【疫学・保健統計】 目標: 疫学および統計学の概念と方法を理解し、これを地域診断に用い、地域保健・地域看護に役立てる基礎的な能力を問う。 6. 感染症の疫学 A. 感染の基礎概念 a) 顕性感染と不顕性感染 b) 混合感染 c) 再感染と二次感染 d) 日和見感染 e) 保菌者と接触者 f) 潜伏期 F. おもな感染症の頻度と分布《疫学・保健統計》 a) 新興・再興感染症(HIV 感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒
2	微生物学の基礎(2)	原虫の性質、ウイルスの性質		
3	感染の機構	感染の成立から発症の機構		
4	感染とその防御(1)	感染に対する生体防御機構(免疫の機構 1)		
5	感染とその防御(2)	感染に対する生体防御機構(免疫の機構 2)		
6	感染とその防御(3)	感染源、感染経路		
7	感染とその防御(4)	感染症の予防(消毒、ワクチンと予防接種)		
8	感染とその防御(5)	感染症の診断と治療(化学療法)		
9	感染とその防御(6)	感染症の現状と対策		
10	病原微生物(1)	病原細菌と細菌感染症(グラム陽性菌、陰性菌)		
11	病原微生物(2)	病原細菌と細菌感染症(嫌気性菌、結核菌、放線菌)		
12	病原微生物(3)	病原細菌と細菌感染症(リケッチャ、クラミジア)		
13	病原微生物(4)	病原真菌、原虫と真菌、原虫感染症		
14	病原微生物(5)	病原ウイルスとウイルス感染症		
15	定期試験	筆記試験		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			予防処置と感染防御 E. 人体防御機構への看護の視点 a) 人体の感染防御機構と免疫反応 b) アレルギー疾患 c) 自己免疫疾患および類縁疾患 d) 臓器移植 F. 医薬品等による健康被害 a) HIV 感染症/AIDS b) ウイルス性肝炎 c) クロイツフェルト・ヤコブ病 【社会保障制度と生活者の健康】目標 3：公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 2. 健康指標と予防 B. 感染症とその予防《疫学・保健統計》 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防および感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症新法> e) 院内感染とその予防 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症	

教科書	「系統看護学講座専門基礎分野 微生物学」(医学書院)
参考書	「イラストレイテッド微生物学」(南山堂)、「シンプル微生物学」(南江堂)

授 業 科 目 名	薬 理 学	単 位 認 定 者	栗 田 昌 裕
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	通 年
単 位 数	1 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療の中で投薬と注射の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
学 習 到 達 目 標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、看護に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関 連 科 目	生理学 生化学 疾病の成り立ち 小児看護学 I
成 績 評 価 方 法	試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	薬理学とは 薬物動態	薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。		
3 4	麻酔薬と中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬	全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	必修問題Ⅲ-4A h) 麻薬	
5 6	向精神薬と抗痙攣薬 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬	向精神薬。抗痙攣薬 (抗てんかん薬)。 筋弛緩薬。抗パーキンソン薬。		
7 8	自律神経薬。 オータコイド	自律神経の基礎知識。コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬 (付：胃酸分泌抑制薬)。アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。	4A e) 昇圧薬	
9 10	強心薬。抗狭心症薬 と抗不整脈薬。	強心薬 (ジギタリス) の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。抗狭心症薬。抗不整脈薬。	4A c) 強心薬 4A c) 抗不整脈薬	
11 12	利尿薬。 降圧薬。	利尿薬。利尿薬の臨床的応用。 降圧薬。抗動脈硬化薬。	4A d) 狭心症治療薬 4A e) 降圧薬 4A g) 糖尿病治療薬	
13 14	消化器病薬・駆虫薬 内分泌薬	消化器病薬。駆虫薬。 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	4A f) 副腎皮質ステロイド薬 4A b) 抗がん薬 4A a) 抗菌薬	
15 16	血液病薬と抗癌薬	貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 開発と化学療法。副作用と組み合わせ。		
17 18	化学療法薬と免疫療法薬	化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。		
19 20	消毒薬と呼吸器病薬	滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。 呼吸器病薬。抗結核薬。		
21 22	皮膚疾患に用いられる薬剤。	皮膚疾患に用いられる薬剤。 造影剤。放射性医薬品。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
23 24	放射線診断・治療薬 ショックに用いられる薬剤. 点眼薬. 輸液	ショックの原因別分類. ショックの対応と薬剤. 点眼薬. 輸液の目的. 輸液剤.		
25 26	毒物および解毒剤 代謝賦活薬. ビタミン剤	中毒の状態. 急性中毒に対する処置. 解毒剤. 排泄と吸着. 代謝賦活薬・ビタミン剤		
27 28	小児・妊婦・老年者 に対する薬物療法. 嗜好品の薬理と薬物 相互作用	小児の薬物療法. 妊婦の薬物療法. 老年者の薬物療法. 嗜好品の薬理. 薬物相互作用.	4B a)混合の可否 4B b)禁忌	
29 30	薬剤の安定性: 保存 および混合の問題点. 試験.	薬剤の保存. 薬剤の混合、配合変化 (配合禁忌).		

教科書	
参考書	「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進 薬理学」(メヂカルフレンド社)

授 業 科 目 名	緩 和 医 療 学	単 位 認 定 者	斎 藤 龍 生
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。
学 習 到 達 目 標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。
関 連 科 目	生命倫理・生活学・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護学入門・臨床心理学・リハビリテーション工学基礎・栄養学・カウンセリング・社会福祉地域サービス論・看護学概論・看護過程論・看護ケア方法論・看護アセスメント演習・成人・老年看護学概論・在宅看護活動論
成 績 評 価 方 法	レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	緩和医療学総論	緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何ができるか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。		
2	緩和医学各論	疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく		
3	緩和医学各論	終末期の栄養管理 地域における緩和医療 鎮静について		
4	緩和ケアの実際 ・疼痛緩和の看護	疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく		
5	緩和ケアの実際 ・他の症状緩和の看護 ・全人的苦痛の緩和	他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて		
6	緩和ケアの実際 ・家族ケア ・遺族ケア	緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	緩和医療におけるチームアプローチ	緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種との役割と機能		
8	レポート	もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)		

教科書	使用せず
参考書	「臨床緩和ケア」 大学病院の緩和ケアを考える会（青海社） 「緩和・ターミナルケア看護論」 鈴木志津枝/内布敦子（ヌヴェール） 「ターミナルケア 10月増刊号わかる できる がんの症状マネジメントⅡ」 ターミナルケア編集委員会（三輪書店） 「家族看護 特集 終末期患者の家族への看護」 野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「家族看護 特集 遺族に対するケア」 野嶋佐由美/渡邊裕子（日本看護協会） 「ナースのためのアロマセラピー」 日本アロマセラピー学会看護研究会（MCメディカル出版）

授 業 科 目 名	看 護 学 入 門	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	保健医療福祉の分野で共に働く者が互いの専門領域を理解しあうことは、より良い医療を提供するうえで望ましい。看護の役割と機能を学び、医療の受け手である人間への関わり方について理解を深めることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 医療の受け手である人間について理解を深めるとともに、健康と QOL について考察する。 2. 対象と関わる方法論としてのコミュニケーション技術や対象を把握するための観察の必要性について理解する。 3. 基本的な応急手当の方法について理解する。 4. チーム医療の重要性について理解する。 5. 医療職に関わる法的側面および倫理的側面について理解を深める。
関 連 科 目	看護学概論、看護過程論、看護ケア方法論を始めとする看護学全般の基盤となる
成 績 評 価 方 法	1. 出席状況 2. レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	「看護」とは何か	看護とは、看護の成り立ちと歴史	必修問題 I . 5. 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務 b) 看護師に禁止されている業務 c) 守秘義務 d) 業務従事者届 基礎看護学 目標 1 : 看護の基本となる概念についての理解を問う。1. 看護の基本となる概念 A. a) 対象 b) 役割 c) 機能 社会保障制度と生活者の健康 目標 4 : 人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。B. 保健師助産師看護師法 a) 目的 b) 免許 c) 業務 d) 守秘義務	
3 4	「看護」とは何か	日本の看護の歴史について	必修問題 I . 5. 保健師助産師看護師法 a) 養成制度 b) 就業状況 基礎看護学 目標 3 : 保健・医療・福祉のなかで看護の果たす役割についての理解を問う。 1. 看護の役割と機能を支えるしくみ A. 看護活動の場 a) 地域における看護活動 b) 医療施設における看護活動 c) 保健福祉施設における看護活動 C. 保健医療福祉の連携 a) 他職種の役割 b) 他職種との連携 E. 専門職能団体の活動 a) 専門職集団としての役割と機能	
5 6	「看護」とは何か	教育制度（看護と理学、他）		
7 8 9	「人間」とは何か 「健康」とは何か 「QOL」とは何か	マズローの基本的欲求と人間 WHO の定義、「病気」とは、「健康」とは 生命の質、生活の質について考える	II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う 1. 人間の特性 A. 人間と欲求 a) 基本的欲求 b) 社会的欲求 B. 患者の特性 a) QOL<クオリティ・オブ・ライフ> b) 患者ニーズ c) 健康に対する意識 d) 疾病に対する意識 e) 疾病・障害の受	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	コミュニケーション	コミュニケーションとは	<p>容過程 基礎看護学 目標1:看護の基本となる概念についての理解を問う。1. 看護の基本となる概念 B. 看護の対象としての人間 a)人間のとらえ方 b)人間と環境 C. 人間にとっての健康 a)健康のとらえ方 b)健康に影響を与えるもの D. 生活と健康 a)せいかつのリズムと健康のかかわり b)生活習慣と健康のかかわり c)生活の要素と健康のかかわり (食、排泄、清潔、衣、活動・運動、休息睡眠、性、学習・遊び、仕事、社会活動) d)QOL<クオリティ・オブ・ライフ> 必修問題 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。1. 基本技術 A. コミュニケーション a) 言語的コミュニケーション b) 非言語的コミュニケーション</p> <p>4. 診療に伴う看護技術 H. 救急救命処置 a) 気道の確保 b) 人工呼吸 c) 心マッサージ d) 止血 e) 体温の保持 必修問題 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 4. おもな看護活動展開の場と看護の機能 A. 医療施設 a) 病院 b) 診療所 c) 助産所 d) 老人保健施設 D. 関連職種との連携 a) 関連する職種 b) チーム医療 c) 看護の役割</p> <p>社会保障制度と生活者の健康 目標4:人々の健康を守るためのサービス提供機関と従事者の役割・機能に関する基本的な法律についての理解を問う。C. 看護職と関連法規 a) 労働基準法 b) 労働条件の原則 c) 育児休業・介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律 d) 看護師等の人材確保の促進に関する法律 e) 医師法 f) 薬剤師法 g) 診療放射線技師法 h) 臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律 i) 理学療法士及び作業療法士法 必修問題 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊厳 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームド・コンセント e) ノーマライゼーション 基礎看護学目標1:看護の基本となる概念について問う。1. 看護の基本となる概念 E. 看護倫理 a) 患者の権利擁護 b) 患者のプライバシー保護 c) 看護師の倫理規定 d) 職業倫理</p>	
11	観察について	コミュニケーション技術について何を観察するかどのように観察するか		
12	応急手当法	基本的な応急手当について1 基本的な応急手当について2		
13	チーム医療について	チーム医療と自分の役割1 チーム医療と自分の役割2		
14	法律について	看護職と理学療法士に関わる法律について		
15	倫理について	医療職に求められる倫理とは		

教科書	特に指定しない。
参考書	増田れい子「看護 ベッドサイドの光景」(岩波新書)、向井承子「看護婦の現場から」(講談社現代新書) 鈴木厚「日本の医療を問いなおすー医師からの提言」(ちくま書房)、その他随時紹介する。

授 業 科 目 名	臨 床 検 査 学	単 位 認 定 者	小 林 功
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	医療スタッフとして必要な臨床検査医学の基礎的知識を学習する。
学 習 到 達 目 標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病を診断及び治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関 連 科 目	解剖学（人体構造） 生理学（人体機能） を含む各臨床科目
成 績 評 価 方 法	定期試験（筆記）

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	臨床検査とその役割	臨床検査の重要性、病気の診断及び治療における臨床データの寄与を知る	将来の医療スタッフに必要な「人体の構造と機能（解剖学、生理学）」及び「健康障害と回復」に関する基礎知識の学習を含む	将来の医療スタッフに必要な「人体の構造と機能（解剖学、生理学）」及び「健康障害と回復」に関する基礎知識の学習を含む
2	臨床検査の流れと医療スタッフの役割	医療チームの役割について		
3	系統別臨床検査の進め方	医療の現場ではどのように検査を進めているかを学ぶ		
4	一般検査	尿、便、体液の検査の理解		
5	血液検査	血沈（赤沈）、血球、出血、凝固		
6	化学検査（1）	血清タンパク、酵素、糖代謝、脂質代謝		
7	化学検査（2）	胆汁、腎機能、電解質、血液ガス等		
8	免疫・血清検査（1）	炎症マーカー、自己抗体、細胞性免疫		
9	免疫・血清検査（2）	免疫グロブリン、アレルギー、腫瘍マーカー等		
10	内分泌検査（1）	下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン		
11	内分泌検査（2）	副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモン、性腺ホルモン、膵臓ホルモン、消化管ホルモン等		
12	微生物検査（1）	検体の取り扱い方、主な微生物の特徴と病気との関連性		
13	微生物検査（2）	同上		
14	病理検査	細胞診、病理組織検査		
15	生理機能検査	循環器、呼吸器、神経機能、超音波サーモグラフィー等		

教 科 書	「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」大久保昭行 編（医学書院）
参 考 書	

授 業 科 目 名	病 態 栄 養 学	単 位 認 定 者	後 藤 香 織
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	臨床栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、臨床栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄を理解し、これらの疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から臨床栄養学を中心に、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。
学 習 到 達 目 標	1) 基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 2) 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。 3) 自分に関わりのある疾病、病態について、病態や症状と栄養学的関連性について自学できるようにする。
関 連 科 目	解剖学、生理学、生化学、栄養学
成 績 評 価 方 法	講義をした事項についての理解度を知らるためにレポートを求め、さらに自分のテーマを定めて自学し、同様にレポートを求める。 定期試験50% 授業内レポート10% 授業外レポート30% 出席10%

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	臨床栄養学とは	1) 現代は栄養過剰、飽食の時代へと変遷しており、同時に疾病構造の変化はめざましいものがある。このため臨床栄養学も変遷している。このようななか、どのような栄養学が必要なのかについて学ぶ 2) 栄養学の基礎の復習 外部情報と内部情報、これを統合する食欲中枢について学ぶ。		
2	栄養の評価について	1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学の基礎の復習		
3	疾病と栄養 (1)	病態生理（糖質代謝異常、脂質代謝異常、アミノ酸代謝異常、電解質代謝異常、ビタミン異常）について復習する。 1) 肥満とやせ、摂食障害 について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。		
4	疾病と栄養 (2)	2) 栄養学の基礎の復習 人体の構成成分と栄養素との関連 糖尿病と栄養学		
5	疾病と栄養 (3)	近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。 動脈硬化と高脂血症		
6	疾病と栄養 (4)	動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。		
7	疾病と栄養 (5)	高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。 骨粗しょう症、ミネラル摂取異常		
8	疾病と栄養 (6)	老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
9	疾病と栄養(7)	消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。		
10	疾病と栄養(8)	消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。		
11	疾病と栄養(9)	腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。		
12	疾病と栄養(10)	がんと栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。		
13	疾病と栄養(11)	血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。		
14	疾病と栄養(12)	小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。		
15	まとめ	栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。 自学レポートの発表		

教科書	「臨床栄養学 -食事療法の理論-」(医歯薬出版) 「食品交換表」(文光堂)
参考書	「ナースのための生化学・栄養学」(南山堂)

授 業 科 目 名	リハビリテーション工学基礎	単 位 認 定 者	富 田 浩
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義・実習
科 目 の 目 的	リハビリテーション工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとても広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱う。近年、これらは看護学においても多く利用されるようになってきている。将来セラピスト・看護師として、これらの手法を利用できるようにすることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	筋電図、筋トルク測定装置、三次元動作解析装置・床反力計、の原理が言え、これらを使用できること。
関 連 科 目	看護ケア方法論 看護アセスメント演習
成 績 評 価 方 法	レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	オリエンテーション、「力」	オリエンテーション、「力」とは		
2	測定機器 1	筋電図		
3	測定機器 2	筋電図 (実習)		
4	測定機器 3	筋トルク測定装置		
5	測定機器 4	筋トルク測定装置		
6	測定機器 5	三次元動作解析装置,		
7	測定機器 6	三次元動作解析装置		
8	まとめ	まとめ		

教 科 書	特に定めない
参 考 書	講義の中で紹介する

授 業 科 目 名	臨 床 心 理 学	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得
学 習 到 達 目 標	(1) 保健医療領域において支援を必要とする人々の特性について理解し, (2) 適切な支援のための基礎的・応用的な知識と実践力を習得すること
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	試験成績 (50%), レポート (20%), リアクションペーパー (30%) を総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	I. 臨床心理学とは	1. 臨床心理学とは?—定義と歴史— 2. 問題行動の意味—正常と異常— 3. 発達段階と心理的問題 4. 医療領域における臨床心理学的視点		
5 6 7	II. 心理アセスメント (査定)	1. 心理アセスメントとは? 2. 行動観察による心理アセスメント 3. 面接法による心理アセスメント 4. 心理検査によるアセスメント(1) 精神症状, パーソナリティのアセスメント 5. 心理検査によるアセスメント(2) 知能, 発達のアセスメント		
8 9 10 11 12 13 14 15	III. 心理療法の理論と実際	1. 心理療法とは 2. 精神分析的心理療法 3. クライエント中心療法 4. 行動療法, 認知行動療法 5. 家族療法, 短期療法 6. グループ・アプローチ 7. 芸術療法と描画法 まとめ 試験		

教 科 書	「看護学生のための心理学」長田久雄 編 (医学書院) 2002 年
参 考 書	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・臨床心理学」町沢静夫 (医学書院) 2001 年

授業科目名	公衆衛生学	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 1 学年	学期	前期
単位数	1 単位 (1 5 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	健康及び公衆衛生の基礎的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
学習到達目標	①生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 ②公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 ③公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理 環境論 健康管理論 疫学・保健統計 地域社会学 情報学 免疫・感染症学
成績評価方法	定期試験 出席状況 研究発表 等

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	公衆衛生の理解	健康の概念の変遷、公衆衛生の概念	必修科目 目標 3. 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保健活動の進め方についての理解を問う。 1. 健康と公衆衛生 A. 公衆衛生の概念 a) 公衆衛生の領域、活動の特徴 b) プライマリヘルスケア c) ヘルスプロモーションの展開 d) 世界保健機関 (WHO) 加盟国の役割 B. 健康と環境 a) 生態学的環境 b) 物理化学的環境 c) 社会的環境 d) 身体的・精神・心理的影響 C. 疫学的方法による健康の理解 a) 健康被害と母集団 b) 疫学的因果関係の推定 c) 臨床疫学とエビデンス 2. 健康指標と予防 A. 健康に関連した指標 a) 国勢調査 b) 人口静態 c) 出生 d) 死亡・死因 e) 死産、周産期死亡、乳児死亡 f) 平均余命、平均寿命 g) 健康寿命 h) 有病率・罹患率	疫学・保健統計 9. 人口統計 A. 人口統計の基礎 a) おもな健康指標 B. 人口静態統計 a) 人口ピラミッド b) 年少人口指数 c) 老年人口指数 d) 老年化指数 C. 人口動態統計 a) 死亡と生命表 b) 出生と人口再生産 c) 婚姻と結婚 10. 保健統計調査 A. 指定統計 a) 国勢調査 b) 人口動態調査
2	人口と公衆衛生	世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合		
3	環境と公衆衛生	人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題		
4	同上	大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準		
5	食と公衆衛生	食中毒の発生状況、食中毒の種類		
6	国民の健康と保健統計	健康指標、20世紀100年の変化		
7	同上	年齢調整死亡率の意義		
8	疫病の疫学と予防	疫学の方法、疫学調査方法、因果関係推論、スクリーニング		
9	同上	感染症の疫学、新感染症予防法		
10	同上	結核対策、HIV 対策		
11	生活習慣病対策	がんの予防、その他生活習慣病予防		
12	公衆衛生活動 例	精神保健対策、介護保険制度		
13	同上	母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策		
14	保健・医療行政	地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費		
15	課題研究発表	指定課題による研究発表		

教科書	「社会保障制度と生活者の健康 (2) 公衆衛生」 星旦二 (医学書院)
参考書	「国民衛生の動向」 厚生統計協会 (厚生衛生協会)

授業科目名	疫学・保健統計	単位認定者	石 館 敬 三
対象学年	第 2 学 年	学 期	通 年
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指導方法	講義
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。
学習到達目標	①疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。 ②感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。 ③健康問題の標準的な解析方法論である保健統計技法を理解する。
関連科目	生命倫理 情報処理 情報学 公衆衛生学 地域社会学 免疫・感染症学 環境論 健康管理論
成績評価方法	定期試験 出席状況

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	疫学概念	疫学の目的、対象、方法	<p>【必修問題】</p> <p>1. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 A. 人口の動向 a) 総人口 b) 年齢別人口 c) 労働人口 d) 将来推計人口 e) 世帯数 B. 人口動態 a) 出生の動向 b) 死亡の動向 c) 死因の概要 C. 健康状態と受療状況 a) 平均余命 b) 有訴者の状況 c) 受療率 d) 入院期間 2. 健康と生活 A. 生活習慣 a) 食事・栄養 b) 睡眠 c) 運動 d) 飲酒 e) 喫煙</p> <p>【社会保障制度と生活者の健康】</p> <p>3 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度および保護活動の進め方についての理解を問う。 1. 健康と公衆衛生 C. 疫学的方法による健康の理解 a) 健康被害と母集団 b) 疫学的因果関係の推定 c) 臨床疫学とエビデンス 2. 健康指標と予防 A. 健康に関する指標 a) 国勢調査 b) 人口動態 c) 出生 d) 死亡・死因 e) 死産、周産期死亡、乳児死亡 f) 平均余命、平均寿命 g) 健康寿命 h) 有病率・罹患率 B. 感染症とその予防 a) 感染症の成立要因 b) 感染症の流行現象 c) 感染症予防の基本 d) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症新法） e) 院内感染とその予防 f) 予防接種法 g) 結核予防法 h) HIV 感染症/AIDS と性感染症</p>	<p>1. 疫学の概念 A. 疫学の定義と分類 a) 疫学の目的・対象・方法 b) 疫学と地域保健・地域看護 c) 記述疫学と分析疫学 d) 人・場所・時間 B. 疫学的因果関係 a) 二大要因説と三大要因説 b) 危険因子と多要因原因説 c) 相関関係と因果関係 d) 疫学的因果推論 C. 疾病と健康逸脱の定義 a) 国際疾病分類 b) 診断基準 c) 疫学的因果推論 2. 疾病頻度の指標 A. 比 a) 性比 B. 割合 a) 累積罹患割合 b) 累積死亡割合 c) 致命割合 C. 率 a) 罹患率 b) 死亡率 3. 曝露効果の指標 A. 相対危険 a) リスク比 b) レイト比 B. 寄与危険 C. オッズ比 4. 疫学調査法 A. 疫学調査における倫理 B. 調査方法（研究デザイン） a) 生態学的調査 b) 横断的調査 c) 症例対照調査 d) 既往コホート調査 e) コホート内症例対照調査 f) 前向きコホート調査 g) 無作為割付臨床試験 C. 妥当性と精度 D. 偏り（バイアス） a) 選択の偏り b) 情報の偏り c) 交絡 E. 交絡の制御 a) 無作為化（割付） b) 制限 c) マッチング d) 層化 e) 標準化 5. 集団検診の原理と方法 A. スクリーニング a) 敏感度と特異度 b) 信頼性と妥当性 c) 陽性反応の中度 B. スクリーニングを行う要件 6. 感染症の疫学 B. 流行の概念 a) 人・場所・時間と流行 b) 長期間での流行の変化 C. 三大要因と予防対策 a) 病原体と病原体対策 b) 感染経路と感染経路対策 c) 感受性と感受性対策</p>
2	疫学の歴史	疫学の沿革、歴史的考察		
3	疫学の要因	疫学の三要因、二元論の疫学		
4	人間集団の健康現象	記述疫学と分析疫学、5WBridge		
5	頻度と曝露	疾病頻度の指標、曝露効果の指標、相対危険、寄与危険		
6	疫学調査法	前向き調査と後向き調査		
7	同上	バイアスと交絡		
8	同上	疫学的因果推論 疫学の倫理		
9	スクリーニング	敏感度特異度、陽性反応の中率		
10	感染症疫学	感染の基礎概念、流行の概念、三大要因と予防の原則		
11	同上	わが国の感染症対策沿革、衛生行政への展開		
12	同上	世界の状況、新興再興感染症		
13	同上	食中毒の疫学調査、細菌性食中毒		
14	同上	防疫活動要領、予防接種		
15	同上	新感染症予防法、I 類感染症		
16	同上	結核の状況		
17	同上	HIV の状況、STD の状況		
18	非感染症の疫学	悪性新生物の疫学		
19	同上	その他の生活習慣病の疫学		
20	同上	環境保健		
21	同上	環境汚染による健康被害の疫学		
22	保健統計学の基礎	母集団と標本調査		
23	同上	平均値、代表値、分散、標準偏差		
24	同上	検定、推定、正規分布		
25	同上	関係の指標、相関係数、母平均値の差の検定		
26	人口統計と保健統計	健康指標		
27	同上	人口動態統計、人口静態統計、生命表		
28	同上	情報処理のための基礎知識		
29	同上	保健統計 演習		
30	同上	同 上		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
				D. 感染症・食中毒発生時の疫学調査 a) マスターテーブル E. 感染症の発生動向調査 F. おもな感染症の進捗と分布 a) 新興・再興感染症 (HIV 感染症/AIDS, 結核を含む) b) 性感染症 c) 食中毒 G. 感染症に関するおもな法規 a) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 b) 結核予防法 c) 予防接種法 d) 検疫法 e) 食品衛生法 f) 学校保健法 7. おもな疾患の疫学 A. 心疾患の疫学 B. 脳血管疾患の疫学 C. がんの疫学 D. 糖尿病の疫学 E. 難病の疫学 F. 精神疾患の疫学 G. 母性関連疾患の疫学 H. 小児疾患の疫学 I. 環境 (労働環境を含む) の疫学 ※共通小項目 a) 頻度と分布 b) 危険因子 c) 一次予防と二次予防, 三次予防 8. 統計学の基礎 A. 母集団と標本調査 a) 母集団と標本 b) 無作為抽出 B. おもな分布 a) 正規分布 b) 検定・推定に用いる分布 C. 代表値と散布度 a) 平均値と他の代表値 b) 四分位数とパーセンタイル c) データの範囲 d) 分散と標準偏差 D. 関係の指標 a) 相関と回帰 b) クロス集計と関連の指標 E. 図表による表示方法 a) 度数分布 b) ヒストグラムと他のグラフ表示 c) 相関図 (散布図) と回帰直線 F. 推定と検定 a) 点推定と区間推定 b) 無仮設と統計学的有意性 c) 母割合に関する推定と検定 d) 母平均値に関する推定と検定 e) 母相関係数に関する推定と検定 9. 人口統計 A. 人口統計の基礎 a) おもな健康指標 B. 人口静態統計 a) 人口ピラミッド b) 年少人口指数 c) 老年人口指数 d) 老年化指数 C. 人口動態統計 a) 死亡と生命表 b) 出生と人口再生産 c) 婚姻と離婚 10. 保健統計調査 A. 指定統計 a) 国勢調査 b) 人口動態調査 c) 国民生活基礎統計 d) 患者調査 e) 医療施設統計 f) 学校保健統計 B. その他の統計調査 a) 感染症発生動向調査 b) 食中毒統計 c) 国民健康・栄養調査

教科書	「疫学/保健統計」丸井英二 (メヂカルフレンド社)
参考書	

授 業 科 目 名	リハビリテーション概論	単 位 認 定 者	松 澤 正
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	リハビリテーションは、障害を持った者が社会復帰するための過程であり、障害を持った者が、どのような理念で、また、どのような手順で社会復帰するか講義を通して理解させる。
科 目 の 目 的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置づけや役割を理解させる。
学 習 到 達 目 標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	筆記試験やレポート等を総合して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1		リハビリテーションの定義、理念		
2		リハビリテーションの歴史		
3		障害論 (定義、障害の三つのレベル)		
4		障害者の実態		
5		障害の心理		
6		リハビリテーションの流れ		
7		リハビリテーションのチームと職種		
8		医学的リハビリテーション (予防的、回復的、維持的)		
9		リハビリテーションの定義、対象、方法)		
10		教育的リハビリテーション		
11		職業的リハビリテーション		
12		社会的リハビリテーション		
13		地域リハビリテーション		
14		寝たきり老人のリハビリテーション		
15		期末テスト		

教 科 書	プリント教材を使用する。
参 考 書	「入門リハビリテーション概論」中村隆一 (医歯薬出版) 「現代リハビリテーション医学」千野直一 (金原出版)

授業科目名	救急法	単位認定者	北林司
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義・演習
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・異物による気道閉塞のような生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに、気道確保・人工呼吸・心臓マッサージ・AEDによる除細動などの一連の救命処置(BLS)が実践できることを目的とする。
学習到達目標	1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害、心血管系障害、脳血管系障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置(BLS)について説明できる。 4. 気道異物(FBAO)の治療手順を説明できる。 5. AEDを含む一次救命処置(BLS)が実践できる。
関連科目	解剖学・生理学・疾病の成り立ち・看護ケア方法論・看護ケア方法論演習・看護アセスメント演習 成人看護学Ⅲ・災害看護
成績評価方法	筆記試験と実技試験で評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	わが国の救命医療体制	① わが国救命医療体制を理解する。 ② 救急医療従事者(EMS)について理解する。	必修問題 III. 看護に必要な人体の機能および健康障害と回復についての基礎知識を問う。 1. 生命活動 A. 人体の構造と機能 e. 循環器 f. 呼吸器 g. 神経細胞と情報伝達 C. 人間の死 a. 死の三徴候 b. 脳死 2. 病態と看護 A. 症状と看護 e. チアノーゼ f. 呼吸困難 g. 胸痛 h. 不整脈 i. 血圧上昇、低下 r. ショック 3. 主要疾患と看護 A. 生活習慣病 b. 虚血性心疾患 c. 高血圧症 d. 脳血管疾患 C. 外傷 a. 骨折 c. 外傷性ショック 人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造を持ち機能しているかについての理解を問う。 ●疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 4. 循環系 A. 心臓 a. 心臓と心筋の構造 b. 心臓の機能 c. 刺激伝導系 9. 呼吸の機構 A. 換気と発生 c. 気管、肺の構造と機能	
2	一次救命処置(BLS)	① 一次救命処置、二次救命処置の区分を理解する。 ② 救命の連鎖について理解する。		
3	呼吸器系、心血管系、脳血管系の解剖と生理学	① 呼吸器系の解剖・生理を理解する。 ② 心血管系の解剖・生理を理解する。 ③ 脳血管系の解剖・生理を理解する。		
4	急性冠症候群(ACS)について	① 急性冠症候群(ACS)を理解する。 ② 急性心筋梗塞(AMI)の症状を理解する。 ③ 胸部不快感を訴える人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。		
5	急性脳血管障害について	① 一過性脳虚血発作(TIA)について理解する。 ② 虚血性脳血管障害について理解する。 ③ 出血性脳血管障害について理解する。 ④ 急性脳血管障害の可能性のある人に、救助者が行うべき適切な救命活動を理解する。		
6	成人に対するCPR①	① 反応のない成人傷病者を発見した時の適切な行動を理解する。 ② 気道確保の方法を理解する。 ③ 呼吸の有無を確認する方法を理解する。 ④ 人工呼吸の方法を理解する。		
7	成人に対するCPR②	① 循環の有無を確認する方法を理解する。 ② 胸骨圧迫心臓マッサージの方法を理解する。 ③ 人工呼吸と心臓マッサージを組み合わせた方法を理解する。		
8	成人に対するCPR③	① 早期除細動の重要性を理解する。 ② AEDの目的を理解する。 ③ AEDの使用方法を理解する。 ④ AEDから「ショックの適応なし」のメッセージが出たときにとるべき行動を理解する。		
9	成人の異物による気道閉塞(FBAO)につ	① 成人の異物による気道閉塞の原因を理解する。 ② 反応のある成人のFBAOに対する治療手順を理解		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	いて CPR 演習 ①	できる。 ③ 反応のない成人の FBAO に対する治療手順を理解する。	d.呼吸運動 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 3.回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。	
11	CPR 演習 ②	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	1. 中枢神経機能の障害 A. 脳機能の障害 a. 脳血管系の循環障害 b. 頭蓋内圧亢進を伴う疾患	
12	CPR 演習 ③	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	2. 生命維持機能の障害 A. 生命の危機 a. ショック	
13	CPR 演習	① 成人に対する的確な CPR が実践できる。 ② 成人の FBAO に対する的確な治療が実践できる。	B. 呼吸機能の障害 d. 急性および慢性の呼吸不全	
14	CPR および FBAO に対する活動の筆記試験	① 一連の CPR、FBAO に対する活動の内容を説明できる。	C. 循環機能の障害 b. 後天的に心機能の障害を引き起こす疾患 c. 心筋の酸素欠乏による心機能の障害	
15	CPR および FBAO に対する活動の実技試験	① 一連の CPR、FBAO に対する的確な活動が実践できる。	d. 心機能の低下をきたした状態 e. 心臓のリズムの障害 基礎看護学 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 3. 診療に伴う技術 D. 生命の危機にかかわる技術 a. 生命徴候のアセスメントと援助方法 b. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法 c. 循環管理 d. 保温 E. 災害看護 a. トリアージ 成人看護学 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2. 急激な身体侵襲により急性期にある成人の看護 A. 救急救命時の看護 a. 緊急性と原因のアセスメント b. 心配蘇生法 e. 外傷、熱傷、骨折の応急処置 f. 危機状態への精神的支援 目標 4. 機能障害を持つ成人の看護実践について問う。 1. 呼吸機能障害を持つ患者の看護 B. おもな看護 g. 呼吸困難時の安楽な体位 2. 循環機能障害を持つ成人の看護 A. 観察とアセスメント d. 障害の原因と程度 7. 認知機能・コミュニケーション障害を持つ患者の看護 A. 観察とアセスメント a. 意識障害の診察法	

教科書	「BLS ヘルスケアプロバイダー（日本語版）」（中山書店）
参考書	

授 業 科 目 名	社会福祉・社会保障制度論	単 位 認 定 者	福 島 富 和
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	保健師業務を志すものにとって、関連する法規・制度の理解は必須である。地方分権等変化する社会情勢の中で人間の生命、健康問題、生活問題を根底で支える役割の理解
学 習 到 達 目 標	1 福祉行財政の仕組みを理解する。 2 社会情勢の変化に伴う制度等の変遷を理解する。 3 保健師として理解した法律・制度・福祉援助技術を使いこなす。
関 連 科 目	地域保健行政 社会福祉・地域サービス論 地域看護活動論Ⅱ 生活学 家族学 法学 地域社会学 経済学
成 績 評 価 方 法	定期試験に平常点を加味して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	社会保障・社会福祉の体系 社会保障・社会福祉の発展過程	1 社会保障・社会福祉とは何か 2 社会保障・社会福祉の改革 3 改革される社会保障・社会福祉の仕組み 1 社会保障の前史 2 社会保険の発達 3 社会保障の発展と確立 4 戦後のわが国の社会保障制度の展開	【必修問題】 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 3. 保健医療制度の基本 A. 医療保険制度 a) 保険者 b) 被保険者 c) 給付の内容 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a) 個人の尊重 b) 患者の権利 c) 自己決定権 d) インフォームドコンセント e) ノーマライゼーション 【社会保障制度と生活者の健康】 目標 2. 社会保障の理念と基本的な制度の考え方についての理解を問う。生活者の健康問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題についての理解を問う。 1. 社会保障の理念 A. 日本の保健医療福祉活動の基本方向 a) 理念, 憲法第 25 条 b) 人権 c) 倫理 d) ノーマライゼーション e) 情報開示 f) 地方分権 g) 医療費の増大 h) 介護保険・医療保険制度の改革 2. 社会保険制度 A. 社会保険の変遷 a) 歴史, 意義 b) 国民皆保険・皆年金 B. 医療保険制度 a) 健康保険法 b) 国民健康保険法 c) 保険給付の種類 d) 療養の給付内容 C. 介護保険制度 a) 介護保険給付の種類 b) 給付内容 c) 保険者・被保険者 D. 年金制度 a) 年金給付の種類 b) 給付内容 E. その他の社会保険制度 a) 雇用保険 b) 労働者災害補償保険法 3. 社会福祉諸法の理念と施策 A. 社会福祉の理念と変遷 a) 社会福祉法 b) 措置から選択へ c) 受益者負担	3. 地域保健医療福祉行政と保健師活動 C. 社会保障・社会福祉の制度 a) 社会福祉の基本的概要 b) 地域福祉計画とコミュニティ c) 地域福祉権利擁護 d) 成年後見制度 F. 介護保険制度 a) 法体系 b) 市町村の役割 c) 居宅サービス事業者 d) 居宅介護支援事業者とケアマネジメント 4. 保健医療福祉の計画と評価 A. 地方公共団体の保健医療福祉計画 b) 老人保健福祉計画 d) 介護保険事業計画 e) 地域福祉計画と地域福祉活動計画 f) 障害者計画
2	社会保障・社会福祉の財政	1 社会保障・社会福祉の財政 2 日本における社会保障・社会福祉の財政 3 社会保障・社会福祉関係費の推移 4 社会保障・社会福祉関係費の負担		
3	所得保障一時年金制度	1 年金制度とその発展過程 2 年金制度の改革 3 年金制度の仕組みと給付		
4	介護保障	1 介護保険制定の経過とねらい 2 介護保険制度の仕組み 3 介護保険サービス事業の種類 4 介護保障の課題		
5	貧困と社会福祉	1 生活保護の制度 2 今日の低所得者層と生活保護 3 生活福祉資金貸付制度		
6	児童と母子の社会福祉	1 児童の権利保障 2 児童福祉の歴史と制度 3 母子及び寡婦の福祉		
7 8 9	障害者（児）の社会福祉	1 障害者福祉の理念と実態 2 身体障害者（児）の福祉対策 3 精神障害者の福祉 4 知的障害者の福祉 5 雇用保障と共同作業所の実施		
10 11	高齢者の社会福祉	1 高齢者福祉の理念と変遷 2 高齢者世帯の生活実態 3 老人福祉施設		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12 13	社会福祉施設の現状と課題	4 在宅福祉対策 1 社会福祉施設とその歴史 2 社会福祉施設の種類と推移 3 社会福祉施設の運営基盤 4 社会福祉施設の最低基準 5 社会福祉施設の社会化 6 社会福祉施設における処遇	B. 生活保護法と施策 a) 生活保護法の原則 b) 実施機関 c) 保護の実施 C. 障害者(児)への施策 a) 障害者基本法 b) 身体障害者福祉法 c) 知的障害者福祉法 d) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 D. 児童への施策 a) 児童憲章 b) 児童福祉法 c) 児童虐待防止に関する法律 E. 老人への施策 a) 老人福祉法 b) 老人保健法 F. その他の施策 a) 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律 (DV 防止法)	
14	地域福祉とコミュニティ・ケア	1 地域福祉とコミュニティ・ケアの理解 2 社会福祉協議会 3 民生委員の福祉活動 4 在宅福祉の「供給システム」	4. 社会福祉行政 A. 保健福祉計画 a) ゴールドプラン 21 b) 新エンゼルプラン c) 障害者プラン d) 保健福祉計画 B. 社会福祉の民間活動 a) 民生委員, 児童委員 b) 社会福祉協議会 c) ボランティア活動 d) 特定非営利活動促進法 (NPO 法) C. 国, 地方公共団体の行政と組織およびマンパワー a) 福祉事務所 b) 児童相談所 c) 社会福祉施設 d) 在宅サービス機関 e) 介護支援専門員 (ケアマネージャー) f) 社会福祉士および介護福祉士 g) 精神保健福祉士 D. 老人保健福祉行政の展開 a) 入所措置権の市町村への委譲 b) 市町村および都道府県の老人福祉計画 c) 高齢者の生きがい対策 d) 介護予防	
15	試験			

教科書	「第3版 公衆衛生看護学体系9 保健福祉行政論」平山朝子 宮地文子編集 (日本看護協会出版会)
参考書	「新版 保健師業務要覧」(日本看護協会出版会)

授 業 科 目 名	地 域 保 健 行 政	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	旧) 第 2 学 年 新) 第 3 学 年	学 期	旧) 後 期 新) 前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	
科 目 の 目 的	
学 習 到 達 目 標	
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		本年度開講せず		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	栄 養 学 (含 食 品 学)	単 位 認 定 者	志 田 俊 子
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を中心とするが、その進度に応じ課題を提示し自己学習 調査などを実施し理論としての「学」だけでなく実践活動を伴った学習が可能であるような指導方法を実施する。
科 目 の 目 的	「食は命の基本」であるという哲学のもとに食品すなわち栄養素と人体の関連性を充分理解させ健康状態から逸脱している人々に食生活の指導をいかに行うかということを考えるキッカケをつくり、更に将来NSTのメンバーとして必要な基本知識を養成する事を目的とする。
学 習 到 達 目 標	① 講義内容の理解度を判定するための筆頭試験 ② 提出物 100%
関 連 科 目	① 解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち
成 績 評 価 方 法	定期試験、提示された課題についてのレポート 出席状況を総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	栄養学の目的 1	・ 人は何のために食べるか ・ 食べ方には段階がある	人体の構造と機能 10. 栄養摂取の機構	
2	栄養素の科学	・ 栄養素の種類と体内での主たる役割	E. 代謝	
3		・ 炭水化物について	a) 栄養所要量 b) 基礎代謝 c) 炭水化物の代謝	
4		・ 単糖類 二糖類 多糖類の構造と解糖作用について	d) 脂肪の代謝	
5		・ 脂質の種類と体内での主たる役割 単純脂質 複合脂質 ステロール化合物 脂肪酸の種類と構造	e) タンパク質の代謝 f) 核酸の代謝	
6		・ 蛋白質の種類と体内での主たる役割 単純蛋白質 複合蛋白質 アミノ酸の種類と性質	g) ビタミン・ミネラル	
7		・ ビタミンの種類と体内での主たる役割 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミンの分類と性質 生理作用について課題提出		
8		・ 課題について自己学習のじかんを取る (食品成分表を資料としノートに整理し試験範囲に入れる)		
9		・ ミネラルの種類と体内での主たる役割 体液バランスの講義の後 自己学習		
10		・ ミネラルについての自己学習時間とする		
11		・ 栄養素と食品群について 食品群の考え方 三群について 四群について 六群について		
12		・ 栄養摂取の実践 ・ 献立作成 ・ 献立作成の条件 ・ 資料の準備		
13		・ 献立作成用紙配布 各自献立を考える		
14		・ 献立作成 栄養計算		
15		・ 栄養計算調整		
			・ 栄養計算調整	
		・ 献立作成の総括・反省		

教 科 書	「五訂増補 食品成分表」(女子栄養大学出版部 出版)
参 考 書	

授 業 科 目 名	健 康 管 理 論	単 位 認 定 者	武 田 淳 史
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりを見せており、若い世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。
学 習 到 達 目 標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを学ぶ。
関 連 科 目	地域社会学、公衆衛生、疾病の成り立ち、心理学、スポーツ科学
成 績 評 価 方 法	試験と課題レポートの総合評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康とは	健康、栄養、食事について		
2	健康保険制度	医療制度と健康保険		
3	喫煙、肥満	日常生活に求められる健康とは		
4	スポーツと健康	外傷とリハビリテーション		
5	大学生と性	エイズ、予防、性感染症		
6	身体健康 (1)	突然死		
7	身体健康 (2)	腹痛、食中毒		
8	身体健康 (3)	膠原病、腎疾患 (人工透析)		
9	身体健康 (4)	生活習慣病		
10	精神健康 (1)	メンタルヘルス、ノイローゼ		
11	精神健康 (2)	大学生の不登校とスチューデントアパシー		
12	精神障害	分裂病、鬱病		
13	精神健康増進	自閉症、思春期妄想症		
14	まとめ (1)	健康関連ビデオ鑑賞とまとめ		
15	まとめ (2)	健康関連ビデオ鑑賞とまとめ		

教 科 書	「学生と健康」国立大学等保健管理施設協議会 編 (南江堂)
参 考 書	「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著 (南江堂)

授 業 科 目 名	歯 科 保 健	単 位 認 定 者	浅 見 知 市 郎
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	口腔は簡単に観察することのできる内蔵であり、全身の状態を反映することが多い、ということを看護学生に認識させ、患者の口腔を観察する習慣を身につけ、正しい口腔ケアを行うことができるようにする。
学 習 到 達 目 標	解剖生理学的な口腔の特性、臨床的な事項を習得する。また、歯科医療、歯科保健の現場で活躍できる知識を習得する。
関 連 科 目	臨床科目群の各科目
成 績 評 価 方 法	試験で評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	歯および歯周組織	歯と歯周組織に関する基礎知識		
2	口腔の構造	口唇、頬、口蓋、舌、口底、顎下部、		
3	顎顔面の構造	上顎骨、下顎骨、顎関節、顎顔面の筋、唾液腺		
4	症状と病態生理 1	口腔症状		
5	症状と病態生理 2	顎口腔機能障害		
6	検査と治療・処置 1	診査・診断、検査		
7	検査と治療・処置 2	う蝕の治療		
8	検査と治療・処置 3	歯周疾患の治療		
9	検査と治療・処置 4	口腔外科		
10	検査と治療・処置 5	補綴治療		
11	検査と治療・処置 6	歯科矯正治療、高齢者の治療		
12	疾患の理解 1	歯の異常と疾患		
13	疾患の理解 2	歯周組織の疾患		
14	疾患の理解 3	う蝕に継発する疾患口腔粘膜の疾患、その他		
15	試験			

教 科 書	「系統看護学講座専門分野 19 成人看護学 15 歯・口腔 第 10 版」(医学書院)
参 考 書	

授 業 科 目 名	カ ウ ン セ リ ン グ	単 位 認 定 者	森 慶 輔
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義および実習
科 目 の 目 的	保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術の習得
学 習 到 達 目 標	(1) 保健医療領域において支援を必要とする人々の特性について理解し, (2) 適切な支援のための基礎的・応用的な知識と実践力を習得すること
関 連 科 目	すべての科目と関連
成 績 評 価 方 法	試験成績 (50%), レポート (20%), リアクションペーパー (30%) を総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	I. カウンセリングの理論	1. 保健医療領域における看護師, 理学療法士の役割とカウンセリング		
2		2. カウンセリングの理論と歴史 (1)		
3		3. カウンセリングの理論と歴史 (2)		
4	II. カウンセリングの基本技法の習得	1. カウンセリングの方法と基本技法 (1)		
5		2. カウンセリングの方法と基本技法 (2)		
6		3. カウンセリングの基礎的技法練習 (1)		
7		4. カウンセリングの基礎的技法練習 (2)		
8	III. 保健医療に生かすカウンセリング技法の習得	1. 保健医療に生かすカウンセリング技法としてのブリーフセラピー		
9		2. 保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (1)		
10		3. 保健医療に生かすカウンセリング技法練習 (2)		
11	IV. 発達段階とカウンセリング	1. 子どもとカウンセリングー発達障害, 思春期青年期の精神疾患ー		
12		2. 大人とカウンセリング (1)ー労働者に多い精神障害ー		
13		3. 大人とカウンセリング (2)ー精神科リハビリテーションー		
14		4. 老人とカウンセリングー老化による心理的影響と死の臨床ー		
15		試験		

教 科 書	「看護に生かすカウンセリングーその理論と技法ー」 鶴田一郎 (ブレーン出版) 2005 年 「<森・黒沢のワークショップで学ぶ>解決志向ブリーフセラピー」 森俊夫・黒沢幸子 (ほんの森出版) 2002 年
参 考 書	「看護学生のための心理学」 長田久雄 編 (医学書院) 2002 年 「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野・臨床心理学」 町沢静夫 (医学書院) 2001 年

授 業 科 目 名	社会福祉・地域サービス論	単 位 認 定 者	金 谷 春 代
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	福祉制度が存する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	福祉制度全般について知ることと日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知ること。
関 連 科 目	地域社会学 社会福祉・社会保障制度論
成 績 評 価 方 法	筆記試験に平常点を加味して評価する。小レポートを課す場合もある。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	福祉の捉え方	福祉とは何か		
2	福祉の社会的背景	福祉制度の成立から地域福祉への時間経過と社会の変化について		
3	地域福祉の考え方	福祉サービス提供の「場」について		
4	地域福祉の内容と展開			
5	サービスの実際Ⅰ	福祉サービスの種類と内容について 具体的なサービスについて理解する		
6	サービスの実際Ⅱ			
7	サービスの資源と財源	サービスにおける費用の仕組みについて		
8	介護保険制度成立の意義と現状課題	介護保険制度成立の意味と経過について理解し、実際の制度運用と介護保険の現状を捉える。		
9	医療保険制度成立の意義と現状課題	医療保険制度の意味と現状課題について理解する。		
10	地域福祉と保健医療	地域における保健医療・福祉のあり方		
11	地域福祉における権利擁護	「権利擁護とは何か」		
12	地域福祉における専門職	福祉にかかわる専門職と役割分担。		
13	地域福祉における専門技術	地域福祉展開における専門技術とは。		
14	地域福祉ネットワークの事例	「利根沼田在宅ネットワークの会」立ち上げの意味と目的		
15	試験			

教 科 書	未定
参 考 書	「介護保険時代の医療福祉総合ガイドライン」(医学書院) 「社会福祉六法」「国民の福祉の動向」

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力	単 位 認 定 者	成 瀬 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (7 . 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、グループワークとその発表形式
科 目 の 目 的	国際協力の目的や意義を理解し、保健医療協力の分野で活動できる人材の育成を目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 2. 保健医療協力の必要性とその特徴が理解できる 3. 開発途上国における保健医療の問題が理解できる 4. 保健医療協力の現場で活動するために必要な資質が理解できる
関 連 科 目	関連する教養科目—国際関係論、医療英語・外書講読（国際医療協力英語）、 関連する専門基礎科目—公衆衛生学、疫学・保健統計 この科目が基盤となる専門科目—すべての専門科目
成 績 評 価 方 法	試験に平常点を加味して評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	国際協力とは	1. 国際協力の考え方の変遷 第二次世界戦争以降の取り組みと開発思想 先進国と途上国について 2. 国際機関、NGO、その他の援助機関の役割 途上国の援助ニーズにどのように応えてきたのかなどについて概説する。 3. 日本の国際協力の流れを解説する。 日本が受けてきた援助：LARA物資など ODAとは 4. 最近の国際協力の動向について	基礎看護学 目標 3. 保健・医療・福祉 のなかで看護の果たす役割 についての理解を問う。 G：国際協力 a) 国際交流 b) 国際機関への協力	保健医療福祉行政論 C：世界の公衆衛生と理念 a) 交際連合とWHOの保 健政策 b) 国際協力とODA B：地域保健体系 ボランティア NPO
2	保健医療協力の必要性とその特徴	1. なぜ国際協力が必要なのか 疾病の治療や予防は、世界の人々が等しく健康を維持するために重要な対策である。 2. 保健医療協力の特徴 ・ 保健医療協力は相手国の国策としてサービス 充実により、相手国の発展に寄与する。 ・ 新興感染症対策における世界的な取り組み 3. 看護の国際協力について		
3	開発途上国における 保健医療の問題	1. 先進国と開発途上国について		
4		2. 健康問題の格差 生活と環境 貧困と健康 栄養と感染症 3. 母子保健とジェンダー リプロダクティブヘルスの視点から、母子保健 の現状を概説する。		
5	協力活動の実践例	1. 青年海外協力隊活動 2. JICA 専門家		
6	国際協力に求められるもの	1. 国際協力のイメージと実際 2. 国際協力分野で求められる資質について JICA（政府ベース） 国際機関またNGO		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	まとめ			

教科書	使用せず
参考書	「国際保健・看護」丸井英二・森口育子編（弘文堂） 「いのち・開発・NGO デビットワーナー」（新評論） 「国際保健医療学」日本国際保健医療学会（杏林書院） 「国際保健看護 ビバリーヘンリー」（看護の科学社） 「国際協力の地平」NGO活動教育研究センター（昭和堂）「私のしごと」緒方貞子（草思社） 「国際保健学講義」山本太郎（学会出版センター） 「国際保健医療のおしごと」中村安秀編（南山堂） 「パッシュ国際保健学講座」ポールパッシュ（じほう）

授 業 科 目 名	国 際 医 療 協 力 演 習	単 位 認 定 者	
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	選 択

指 導 方 法	
科 目 の 目 的	
学 習 到 達 目 標	
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		本年度開講せず		

教 科 書	
参 考 書	

授業科目名	災害時生活体験	単位認定者	高木タカ子
対象学年	第1学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	選択

指導方法	講義及び演習
科目の目的	災害が発生しライフラインが途絶した状況下で自活して行く為の、基本的な知識や技術を学び、災害時生活体験演習(集団)を通して判断力、応用力を養い、災害時自分を守る基礎とする。
学習到達目標	1. ライフラインが断たれた時の対処法がわかる。 2. 集団行動を理解しその一員として行動できる。 3. 集団の中で生活しながら自分に気が付くことができる。 4. 日常生活の中で災害に対する準備ができる。(気力・体力・物品など)
関連科目	教養科目—心理学・生活学・地域社会学 専門基礎科目—免疫・感染症学・看護学入門・救急法・栄養学 専門科目—災害看護・地域看護活動論I
成績評価方法	出席状況(講義・グループワーク・演習の参加) レポート提出及びその内容

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	科目オリエンテーション等	科目の内容・学習の進め方・自己学習 グループワークについて 個人として集団として生きるために何が必要か。 人間とは・健康とは・環境とは・看護とは・ 人間の基本的ニード・安全のニード・社会的ニード とは		
2	デイキャンプオリエンテーション	目的・内容・実施方法・準備について		
3	災害とは、災害の種類とその特徴 災害に対する対処 個人と集団	個人：自分の命を守る。健康を維持する。 私達はそれ以外に職業人としての役割がある。 集団：地域・市町村県・国		
4	災害時生活体験のオリエンテーション	目的・目標・内容・実施方法・準備について		
5	演習第1回 デイキャンプ(1日) 5/19(土) 北毛青年の家 費用の目安(昨年実績)2462円	デイキャンプ内容 ①集合、整列 ②薪で飯盒炊飯 ③班毎の食事 ④食事の後始末 ⑤点呼(人員確認) ⑥キャンプファイヤー ⑦グループ評価 デイキャンプグループ評価発表		
15	演習第2回 災害時生活体験 (2泊3日) 8/29・30・31 高山キャンパス校庭 費用の目安(昨年実績)12840円 ※第1回、第2回の費用に交通費は含まない	災害時生活体験実施 ①集合、整列、点呼、テント設営 ②災害食体験 ③簡易トイレ体験 ④キャンプファイヤー ⑤寝袋体験 ⑥整理整頓 ⑦講義：心肺蘇生法・老年体験・災害ビデオ学習 災害時生活体験評価発表		

教科書	「災害看護」(メディカ出版) 「看護の基本となるもの」バージニアヘンダーソン著(日本看護協会出版会)
参考書	「共育キャンプ高木学校(保助看学生のための体験学習実践記録)」高木タカ子著(ミリオン書房) 「関東大震災」吉村昭著(文春文庫) 阪神大震災に関する資料 名古屋地方における大水害 中越地震に関する資料 海外の大津波の資料 大雪による災害・新聞・週刊誌・雑誌の切り抜き等

授業科目名	看護学概論	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護の主要概念を学ぶことで、看護の独自性を学ぶ。また、社会の変化とともに発展してきた看護の歴史、看護理論、看護と法律、看護倫理等についての理解も深める。看護の役割について明らかにすることがこの科目の目的である。
学習到達目標	1. 看護の主要概念である人間、環境、健康、看護について理解する。 2. 主な理論家の構築した看護理論を学び、看護の本質を考える。 3. 看護の歴史、看護と法律、看護倫理等を学び、社会における看護の役割を明確にする。
関連科目	関連する教養科目—心理学 生命倫理 家族学 医療民俗学 環境論 関連する専門基礎科目—発達心理学 看護学入門 健康管理論 この科目が基盤となる専門科目—専門科目のすべて
成績評価方法	課題に対するレポートと定期試験により評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護とは	看護師とはどんな職業か、看護職の果たす役割と法律について学ぶ。	必修問題 I 5. 保健師助産師看護師法 A. 看護職員の業務と義務 a) 保健師助産師看護師の業務、b) 看護師に禁止されている業務、c) 守秘義務 d) 業務従事者届 社会保障制度と生活者の健康目標 4 B. 保健師助産師看護師法 a) 目的・定義、b) 免許、 c) 業務、d) 守秘義務 B. 看護職員 a) 養成制度、b) 就業状況 目標 I 1. 看護の基本となる概念 A. 看護の本質 a) 対象、b) 役割、c) 機能 C. 人間にとっての健康 a) 健康の捉え方、b) 健康に影響を与えるもの D. 生活と健康 a) 生活のリズムと健康のかかわり、b) 生活習慣と健康のかかわり、c) 生活の要素と健康のかかわり、d) QOL 必修問題 I 2. 健康と生活 A. 生活習慣 a) 食事・栄養、b) 睡眠、c) 運動、d) 飲酒、e) 喫煙 必修問題 II 1. 人間の特性 A. 人間と欲求 a) 基本的欲求、b) 社会的欲求 B. 患者の特性 a) QOL、b) 患者ニーズ、 c) 健康に対する意識、 d) 疾病に対する意識、 e) 疾病・傷害の受容過程 3. 患者と家族 a) 家族関係、b) 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響 目標 1 1. 看護の基本となる概念 B. 看護の対象としての人	
2	健康とは	健康の概念と健康の成立条件および QOL について学ぶ。		
3	健康とは	自己の健康観を明らかにする。		
4	対象としての人間	対象である人間の基本的ニードや人間をとりまく環境等について学ぶ。		
5				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
6	看護の歴史	看護の誕生とその発展について学ぶ。	間 a)人間のとらえ方、b)人間と環境	
7	看護理論	主な看護理論とその特徴について学ぶ。	必修問題Ⅱ 4. 主な看護活動展開の場と看護の機能	
8	医療事故	医療事故について考える。	A. 医療施設 a)病院、b)診療所、c)助産所、d)老人保健施設	
9	看護の役割と機能	看護職の働く場と保健医療福祉の連携について学ぶ。	目標3 1. 看護の役割と機能を支えるしくみ A. 看護活動の場 a)地域における看護活動、b)医療施設における看護活動、c)保健福祉施設における看護活動 B. 継続看護 a)施設内から在宅への継続、b)退院計画および退院指導、c)経時的に変化する継続看護	
10	看護の役割と機能	専門職能団体の活動、看護行政について学ぶ。	必修問題Ⅱ 4おもな看護活動展開の場と看護機能 D. 関連職種との連携 a)関連する職種 b)チーム医療 c)看護の役割 目標3 c. 保健医療福祉の連携 a)他職種の役割、b)他職種との連携 E. 専門職能団体の活動 a)専門職能団体の役割と機能 F. 看護行政 a)看護職員の確保、b)看護職員の資質の向上、c)看護実践の質の向上	
11	看護倫理	看護師の倫理規定、個人の尊厳、インフォームドコンセント、自己決定権などについて学ぶ。	必修問題Ⅰ 4. 看護の倫理 A. 基本的人権の擁護 a)個人の尊厳、b)患者の権利、c)自己決定権、d)インフォームドコンセント、e)ノーマライゼーション 目標Ⅰ E. 看護倫理 a)患者の権利擁護、b)患者のプライバシー保護、c)看護師の倫理規定、d)職業倫理	
12	医療の中の死	脳死と臓器移植、安楽死と尊厳死などについて学ぶ。	社会保障制度と生活者の健康目標4 C. 看護職と関係法規 a)労働基準法、b)労働条件の原則、c)育児休業・介護休業等育児または家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>、d)看護師等の人材確保の促進に関する法律、e)医師法、f)薬剤師法、g)診療放射線技師法、h)臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律、i)理学療法士及び作業療法士法	
13	看護と関係法規	看護職に係る法規について学ぶ。		
14	看護について考える	今での学習や文献を通して自己の考えをまとめる。		
15	試験	試験		

教科書	「看護学概論」川村佐和子他（メディカ出版）
参考書	

授業科目名	看護過程論	単位認定者	城生弘美
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義および演習
科目の目的	個人・家族・集団に対して、より良い看護ケアを提供するために必要な看護過程を展開できる基礎的能力を養う。
学習到達目標	1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義を述べることができる。 2. 一次アセスメント・フォーカスアセスメントの違いが説明できる。 3. 患者目標と達成の時期の設定の仕方を述べるができる。 4. 看護診断過程を理解し、実際に行うことができる。 5. ケアプラン・評価の仕方が理解できる。
関連科目	解剖学、生理学、薬理学、看護ケア方法論、看護ケア方法論演習、看護アセスメント演習
成績評価方法	レポート、演習の成果、筆記試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護過程	看護過程を学習する意義と看護過程の構成要素、用語等について学ぶ。	目標2	
2	看護過程	問題解決法、クリティカルシンキング、意思決定など看護過程を展開するために基本となる考え方について学ぶ。	1 共通基本技術	
3	看護過程	看護過程の概念の変遷について学ぶ。	F 観察の技術	
4	観察	観察の技術、方法、用語と観察の優先順位、長所と欠点について学ぶ。	a 身体面のアセスメント b 精神面のアセスメント	
5	データ	主観的データ・客観的データについて学ぶ。	G 記録・報告	
6	データ	データの収集方法について学ぶ。	a 記録・報告の目的 b 記録の種類 c 記録・報告の条件	
7	記録	記録の重要性、記録の種類、記録上の注意および記録の実際、管理、報告、審査等について学ぶ。		
8	記録	プロセスレコードの方法について事例を通して学ぶ。		
9	アセスメント	情報の分析と解釈について学ぶ。	目標1	
10	アセスメント	一次アセスメント・フォーカスアセスメントについて学ぶ。	2 看護の展開	
11	アセスメント	具体例を通して情報の判断の仕方を学ぶ。	A 対象者の全体像の把握	
12	看護診断	看護診断の構成要素について学ぶ。	a 情報の収集と分析 b 問題の明確化	
13	看護診断	看護診断過程について学ぶ。	B 目標設定	
14	看護診断	看護診断過程について学ぶ。	a 優先度の決定 b 患者と目標の共有 c 目標とその達成の時期の設定	
15	看護診断	看護診断の決定方法について学ぶ	C 計画	
16	患者目標	患者目標の設定の仕方について学ぶ。	a 行動計画の立案	
17	計画立案	計画立案について学ぶ。	D 期待される結果の明確化	
18	実施・評価	実施、評価について学ぶ。	E 実施	
19	事例展開	ペーパーシュミレーションを通して看護過程の実際を学習する。	a 手段の選択、b 対象者への説明と了解、c 看護の実施と対象者の反応の確認	
20	事例展開		F 評価	
21	事例展開		a 目標達成の評価、b 看護過程展開の評価、c 再計画	
22	事例展開			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
23	事例展開	グループ毎に発表し、模範例を確認する。		
24	事例展開			
25	発表			
26	発表			
27	発表			
28	発表			
29	発表	筆記試験		
30	試験			

教科書	「看護過程と看護診断」江川隆子（ヌーヴェルヒロカワ） 「NANDA 看護診断 定義と分類」北米看護診断協会（医学書院） 「看護データブック」神田清子他（医学書院） 「関連図の書き方をマスターしよう」（医学芸術社）
参考書	「情報収集・アセスメント」古橋洋子（学研）

授業科目名	看護ケア方法論	単位認定者	城生弘美
対象学年	第1学年	学期	後期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	看護ケアの本質、患者－看護者の援助的人間関係、看護ケアの基本を学ぶ。看護におけるケアとは何かを理解することがこの科目の目的である。
学習到達目標	1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学ぶ。 2. 人間の健康に関わる生活行動について学ぶ。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための看護ケアの方法について、根拠に基づいて理解する。
関連科目	関連する教養科目－心理学 環境論 関連する専門基礎科目－生理学 発達心理学 この科目が基盤となる専門科目－看護学に関連する科目全て
成績評価方法	出席状況 レポートおよび定期試験

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	看護ケアとは何か	知識・技術・態度を統合した看護ケアについて、ケアの本質・看護ケアにおける人間関係の必要性について学ぶ。	必修問題IV 1. 基本技術 A. コミュニケーション a) 言語的コミュニケーション b) 非言語的コミュニケーション 目標 2 1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立発展させるための技術 a) コミュニケーション技術 b) カウンセリング技術 c) グループワーク、グループダイナミクス b. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導 B. バイタルサイン a) 観察と測定 目標 2 1. 共通基本技術 F. 観察技術 a) 身体面のアセスメント(体温、脈拍、血圧、呼吸、意識、身体計測) b) 精神面のアセスメント(不安、恐怖) 必修問題IV 3. 患者の安全・安楽を守る技術 A. 療養環境 a) ベッド b) 病室環境 必修問題IV 3. 患者の安全・安楽を守る技術 B. 医療安全対策 a) 転倒・転落の防止 目標 2 1. 共通基本技術 D. 事故防止 a) 安全管理対策(システム、機器点検) b) 転倒・転落の防止 必修問題IV 3. 患者の安全を守る技術 C. 院内感染防止対策 a) スタンダードプリコーション b) 手洗いの方法 c) 無菌操作 d) 滅菌と消毒の方法 e) 針刺し・切傷の防止 f) 感染性廃棄物の取り扱い 目標 2 C. 安全を守るための技術 a) 感染コントロール(無菌操作、手洗い、感染症の取り扱い、針刺し事故防止)	
2	コミュニケーション	効果的にコミュニケーションを成立させる理論と技術について学ぶ。相互作用とコミュニケーションについて学ぶ。看護に活用できるカウンセリングの種類と特徴について学ぶ。		
3	バイタルサイン	生命の徴候を正確に把握する方法について学ぶ。		
4	療養環境について	人間にとっての環境を理解し、健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。		
5	安全について	医療者が対象者の安全をどのように確保すべきかについて学ぶ。		
6	感染予防について	医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
7	安楽について	医療者にとっての安楽な方法および対象者にとっての安楽な方法について学ぶ。	目標 2 1. 共通基本技術 E. 効率的で安楽な動きをつくり出す技術 a) ボディメカニクス b) 安楽な姿勢	
8 9	清潔保持について 清潔保持について	清潔保持に関する生理的メカニズムを理解する。さらに、対象者の清潔に関するニーズについて学ぶ。	必修問題IV. 2 日常生活援助技術 C. 清潔 a) 入浴の介助 b) 清拭 c) 口腔ケア d) 洗髪 e) 部分浴 f) 陰部洗浄 g) 整容 h) 寝衣交換	
10	排泄援助について	排泄に関する生理的メカニズムを理解する。さらに、対象者の排泄に関するニーズについて学ぶ。	B. 排泄 a) 床上排泄	
11	食生活と栄養	食事と栄養に関する基礎知識とその意義について学ぶ。さらに、対象者の食事に関するニーズについて学ぶ。	A. 食事 a) 食事の環境 b) 食事介助の方法 c) 誤嚥の予防	
12	休息・睡眠	休息・睡眠の意義とそのメカニズムを理解する。休息の取りすぎに関しての弊害について学ぶ。	D. 活動・休息 a) 睡眠 b) 移動・移送 c) 廃用性症候群の予防 d) 褥瘡の予防	
13	活動・運動	活動・運動の意義を理解し、人間が健康生活を送るために必要な知識について学ぶ。		
14	記録・報告	看護ケアの実施および評価に伴う記録・報告について学ぶ。	目標 2 1. 共通基本技術 G. 記録・報告 a) 記録・報告の目的 b) 記録の種類 (POS、フォーカスチャートを含む) c) 記録・報告の条件 (情報開示を含む)	
15	試験	ペーパー試験を実施し、基本的知識の確認を行う。		

教科書	「基礎看護技術」 川村佐和子他 (メディカ出版)
参考書	

授業科目名	看護ケア方法論演習	単位認定者	城 生 弘 美
対象学年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護ケア方法論における学習を踏まえ、対象のニーズに応じた日常生活援助技術ために必要な看護ケアの基本的技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	学内での演習により、生活環境整備、身体の清潔と衣生活、栄養と食事、排泄、活動と運動、休息と睡眠、リラクゼーション、バイタルサインについて基本的技術を習得する。
関 連 科 目	関連する教養科目—心理学 生活学 環境論 関連する専門基礎科目—主に看護学入門、看護学概論、看護ケア方法論、解剖学、生理学、生化学、栄養学、病態栄養学、カウンセリング この科目が基盤となる専門科目—看護学に関連する科目全て
成 績 評 価 方 法	出席状況、筆記試験及び実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2 3 4	生活環境について	健康的な生活環境を整えるための援助方法を学ぶ。 ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。	必修:IV3 安全・安楽を守る技術 A療養環境 a)ベッド b)病室環境 一般:目標2 基本的日常生活援助技術 A環境を整える技術 a)環境の整備 b)病床の整備	
5 6 7 8	バイタルサイン	生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定でき、得られた値を基にして、対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法を理解する。	必須:基本技術 Bバイタルサイン a)観察と測定 必須:病態と看護 A症状と看護 a)発熱 必須:診療に伴う看護技術 H救急救命処置 a)気道の確保 b)人工呼吸 c)心マッサージ d)止血 e)体温の保持	
9 10 11 12	感染予防	感染予防の意義を理解し、手洗いの重要性を認識できる。滅菌物の取り扱いについて理解し、基本的な滅菌操作ができる。	IV。看護技術の基礎的知識を問う c. 院内感染防止対策 a)スタンダードプリコーション<標準予防策>b)手洗いの方法 c)無菌操作 d)滅菌と消毒の方法 e)針刺し・切創の防止 f)感染性廃棄物の取り扱い 目標2. 基本的看護技術についての理解を問う 1. 共通基本技術 c. 安全を守るための技術 a)感染コントロール(無菌操作、手洗い、感染症の取り扱い、針刺し事故防止)	
13 14	食生活と栄養	食事と栄養の基礎知識について理解し、健康レベルと食行動の自立度に応じた食事の援助方法を習得する。健康状態に応じた栄養法の実際を習得する。	A食事 a)食事の環境 b)食事介助の方法 c)誤嚥の予防 一般:2基本的日常生活援助技術 B食生活の援助	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15 16 17 18	排泄援助について	排泄に関する生理的メカニズムの知識を基に、対象のニーズに応じた排泄の援助方法を学ぶ。 便尿器の与え方、浣腸法、導尿法を習得する。	技術 a)健康な食生活 b)栄養状態の評価、c)摂食行動のアセスメントと援助方法、d)病人の食事、e)経管栄養 f)経静脈栄養法 必修：IV2 日常生活援助技術 B排泄 a)床上排泄 b)導尿 c)浣腸 d)摘便 e)失禁のケア f)ストマ造設患者のケア 一般：目標2 C排泄の援助技術 a)排泄行動のアセスメントと援助方法 b)排泄物の観察 c)自然な排泄を促す援助方法 d)床上排泄の援助方法 e)浣腸 f)導尿	
19 20 21 22	身体の清潔保持と衣生活について	皮膚粘膜の解剖・生理の知識を基に、対象のニーズに応じた清潔保持についての援助方法を学ぶ。 全身清拭、寝衣交換の方法を習得する。 洗髪、口腔ケアの方法を習得する。	必修：IV2 日常生活援助技術 C清潔 a)入浴の介助 b)清拭 c)口腔ケア d)洗髪 e)部分浴 f)陰部洗浄 g)整容 h)寝衣交換 一般：目標2 2基本的日常生活援助技術 D身体の清潔の援助技術 a)清潔行動のアセスメントと援助方法 b)身体各部の清潔の援助方法 c)褥瘡の予防、処置 一般：E衣生活の援助技術 a)衣生活を調整する能力のアセスメントと援助方法 b)病衣の選択 c)寝衣の交換	
23 24 25 26	活動と運動	活動・運動の意義を理解し、自立度に応じた活動・運動の援助方法を学ぶ。 体位変換、安楽な体位の方法を習得する。 ストレッチャー・車椅子の移送方法を習得する。	必修：2. 日常生活援助技術 D活動・休息 a)睡眠 b)移動・移送 c)廃用性症候群の予防 d)褥瘡の予防 Eボディメカニクス a)体位 b)体位変換の基本 一般：1 共通基本技術 E効果的で安楽な動きをつくり出す技術 a)ボディメカニクス b)安楽な姿勢 2基本的日常生活援助技術 F活動・運動の援助技術 a)活動・運動の能力のアセスメントと援助方法 b)体位変換 c)床上移動 d)車椅子への移動・移送 e)輸送車への移動・移送 E 電法 a)電法の種類と適応 b)温電法の方法 c)冷電法の方法	
27 28 29 30	電法 実技試験 筆記試験	体温調節について対象のニーズに応じた電法の方法を習得する。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他（メディカ出版） 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他（メディカ出版）
参考書	

授業科目名	看護アセスメント演習	単位認定者	城 生 弘 美
対象学年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護ケア方法論演習を踏まえ、対象者の情報を正確に把握するフィジカルアセスメント技術と診療補助の技術に関する基本的な看護援助技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 診療補助のための基本的な援助技術について、その根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関 連 科 目	関連する教養科目：心理学、老年心理学、生命科学、生命倫理、生活学、環境論 関連する専門基礎科目：主に解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、看護学入門、栄養学、病態栄養学 この科目が基盤となる専門科目：看護学に関連する専門科目すべて
成 績 評 価 方 法	出席状況 筆記試験および実技試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	フィジカルアセスメントとは	フィジカル・アセスメントの意義と看護師の役割について学ぶ。	必修 IV. 看護技術の基礎的知識を問う 1. 基本技術 c 看護過程 b) アセスメント	
2	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて	呼吸器系のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる。	目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う 2 看護の展開 A 対象者の全体像の把握 a) 情報の収集と分析	
4		循環器系のフィジカルアセスメントについて	目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う F 観察技術 a) 身体面のアセスメント (体温、脈拍、呼吸、意識、身体計測) b) 精神面のアセスメント (不安、恐怖)	
6		消化器系のフィジカルアセスメントについて	消化器系 (腹部) のフィジカルアセスメントについて理解し、正確にアセスメントできる。	
8	身体各部の計測	身長・体重・胸囲・腹囲などの身体機能の計測の方法について学ぶ。		
10		診療に伴う技術	診察・検査時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。	3. 診療に伴う技術 A. 診察・検査 a) 診察・検査時の看護師の役割 b) 対象者の心理 c) 検査時の看護 (尿・便・喀痰・血液の採取および検査、腰椎穿刺検査、X線検査、CT検査、内視鏡検査、心電図検査、超音波検査、核医学検査、基礎代謝検査、呼吸機能検査)
11			検体検査の取り扱いについて	必修 4. 診察に伴う看護技術 D. 採血 a) 使用物品 b) 穿刺部位 c) 手技
12	生体検査時の対象者への対応について			
13		・ 採血 ・ 採尿 ・ 心電図 ・ 呼吸機能		
14		治療・処置時の看護師の役割について理解し、援助方法について習得する。		3. 診療に伴う技術 B 治療・処置 a) 治療・処置時の看護師の役割と責任 b) 治療・処置時の対象者の理解 c) 穿刺 (胸腔、腹腔、骨髄) d) 洗浄 (胃、膀胱) e) 吸引 (口腔、鼻腔、気管、胸腔) f) 酸素吸入 g) 包帯法と創傷の管理
15				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
16 17 18 19	吸入と吸引	吸入および吸引の種類と効果的な援助方法について習得する。	B. 治療・処置 e) 吸引(口腔・鼻腔・気管・胸腔) f) 酸素吸入 g) 包帯法と創傷の管理 F. 酸素吸入 a) 酸素吸入時の原則 b) 酸素ポンベの取り扱い c) 酸素流量計の取り扱い d) 鼻腔カニューラ e) マスク G. 吸引 a) 口腔・鼻腔吸引 b) 気管内吸引 c) 体位ドレナージ	
20 21 22 23 24 25	薬剤についての取り扱い	薬剤の種類と取り扱いについて基本的な知識について理解する。 薬剤投与の方法について理解する。 薬物管理における看護師の役割を学ぶ 薬剤の与薬方法について理解し、基本的な技術について習得する。 ・ 注射方法 ・ 輸液管理方法 ・ 注射以外の与薬方法	必修 4 診療に伴う看護技術 B 薬物療法 a) 与薬方法 b) 吸収・分布・代謝・排泄の機序 C 輸液管理 a) 刺入部位の観察 b) 滴下速度 c) 輸液ポンプの取り扱い d) 安全・安楽 目標2: 基本的看護技術についての理解を問う。 3 診療に伴う技術 C. 薬剤についての知識と取り扱い a) 薬剤の作用・投与量・投与方法(薬物治療に伴って生じる生活への影響を含む) b) 薬剤の取り扱い c) 与薬法(経口、注射、(静脈注射を含む)、塗布、点眼、点鼻、吸入、経直腸) d) 副作用とその徴候、禁忌	
26 27	包帯法	包帯の目的・包帯使用上の原則および包帯の用い方を学ぶ。		
28 29	実技試験	基本的な看護技術について、対象者を前に実技を実施してもらい評価する。		
30	筆記試験	学習したことの知識について試験を行う。		

教科書	「基礎看護技術」川村佐和子他 (メディカ出版) 「ヘルスアセスメント」川村佐和子他 (メディカ出版)
参考書	

授 業 科 目 名	看 護 研 究 論	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義と演習
科 目 の 目 的	看護研究とは何か、看護研究の意義と方法を学ぶ。実践の中から研究的取り組みが必要な研究領域の決定、文献検索、概念枠組み、研究課題と目的の設定、さらに研究課題・目的を究明するための研究デザインと研究方法の決定という一連の過程を学ぶ。 また、研究における倫理的配慮、データの収集・集計・分析について学習する。さらに、これらの過程を詳細な研究計画書にまとめ、論文作成について理解を深める。
学 習 到 達 目 標	1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 看護研究の方法（デザイン）について理解できる。 3. 文献検索方法が理解でき、自分で必要な文献を収集できる。 4. 収集した文献を読むことができる。 5. 卒業研究に向けて自分の研究テーマを探すことができる。
関 連 科 目	既習の科目全て
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポートを総合して評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3	看護研究とは	看護における研究の役割について理解する。 言葉と事象について理解する。 看護研究の目的について理解する		
4 5 6 7 8 9	看護研究のプロセス	研究課題の見つけ方・絞り方について理解する。 研究課題と研究の考え方の枠組みの明確化について知る。 研究方法の選定について理解する。 研究データの収集について理解する。 研究データの分析について理解する。 研究成果の発表について理解する。		
10 11 12 13	文献検索について	文献検索の意義を理解し、文献検索を実施する。 得られた研究論文を読み、文献カードを作成する。		
14 15	看護研究方法（デザイン）について	研究方法の種類を理解し、文献を読むことができる。		
16 - 30	看護研究演習	関心のある領域別に分かれる。 指導教員と研究テーマを検討し、先行研究を読む（文献カードを作成する）。 研究計画書を作成し、4年次の卒業研究につなげる。		

教 科 書	「看護研究」川村佐和子編集（メディカ出版） この他、必要なものは随時提示する。
参 考 書	「看護研究 step by step」黒田裕子著：学研

授 業 科 目 名	成 人 ・ 老 年 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子 ・ 伊 藤 ま ゆ み
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、演習
科 目 の 目 的	ライフサイクルにおける成人期、老年期の特徴を理解し、成人期、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 ライフサイクルにおける成人期、老年期の特性を理解する。 2 成人期、老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3 成人期、老年期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4 成人期、老年期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。
関 連 科 目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成 績 評 価 方 法	レポート 筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	成人看護学の概要	(牛込三和子)	目標 1 :成人の生活と健康問題について理解する 1 成人の特徴 2 成人に特有な健康問題の特徴 目標 2 :成人を看護するときの基本的なアプローチについて理解する 1 成人の特性や能力に応じたアプローチ 目標 3 :成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解する 1 健康の保持・増進、疾病の予防に向けた看護 3 障害への適応と社会復帰への看護 4 慢性的な経過をたどる健康障害への看護 5 終末期の看護	
2	成人看護の対象	ライフサイクルと成人期、成人期の看護問題とその把握		
3	成人各期の特徴と保健問題 1	青年期の特徴と保健問題、		
4	成人各期の特徴と保健問題 2	壮年期の問題と保健問題、向老期の問題と保健問題		
5	成人保健 1	成人保健の動向と対策		
6	成人保健 2	生活習慣病の予防 1		
7	成人保健 3	生活習慣病の予防 2		
8	成人保健 4	成人保健と性、成人保健と労働		
9	成人看護の方法 1	病・障害と生活、家族		
10	成人看護の方法 2	慢性疾患患者の看護方法 1 生活習慣病		
11	成人看護の方法 3	慢性疾患患者の看護方法 2 難病		
12	成人看護の方法 4	リハビリテーションアプローチを必要とする患者の看護		
13	成人看護の方法 5	がん患者の看護 がんの動向、がん治療と看護		
14	まとめ	がん患者の看護 2 終末期医療とがん患者の看護		
15	テスト			
1	ライフサイクルの中の老年期	(伊藤まゆみ) ライフサイクルにおける老年期、人口学的指標からの老年期、健康指標からの老年期、生活の視点からの老年期	目標 1 1. 老年期の理解 2. 老年期を生きる人々の特徴 3. 加齢に伴う変化 4. 老年期を生きる人々の健康 5. 高齢者をとりまく社会	
2	加齢とからだ・こころ・生活①②	老年期の発達と成熟、高齢者の多様性 加齢に伴う変化の特徴、身体的変化、精神的変化、社会的変化		
3				

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
4	高齢者のライフヒストリー①②	実際のライフヒストリー・インタビューを通しての高齢者の理解	目標2 1. 老年看護学の基本的考え方 2. 老年看護の基礎的技術 3. 高齢者の健康を支える看護 目標3 1. 介護保険と高齢者看護 2. 高齢者の保健医療福祉施設における看護 3. 在宅高齢者の看護 4. 高齢者を介護する家族への看護	
6	老化疑似体験	実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解		
7	高齢者の健康と生活①	健康増進のための食事		
8	高齢者の健康と生活②	健康増進のための睡眠、活動と休息		
9	高齢者の健康と生活③	健康増進のための清潔、排泄		
10	高齢者の健康と生活④	生きがいとメンタルヘルス		
11	高齢者の健康を守る社会システム	高齢者と家族の保健・医療・福祉システム		
12	老年看護活動の場と看護の役割	高齢者の健康、障害、病期の特性に応じた看護活動の場、看護のもつ役割と機能		
13	高齢者と家族	老年看護の対象としての家族の理解と家族支援		
14	高齢者の人権と倫理的課題	高齢者の差別、虐待、身体拘束の問題と人権を守る取り組み		
15	テスト			

教科書	「新体系看護学 20 成人看護学概論・成人保健 老年看護学概論」野口美和子編集（メジカルフレンド社） 「新体系看護学 26 老年看護学概論・老年保健」鎌田ケイ子・川原礼子編集（メジカルフレンド社）
参考書	「国民衛生の動向 厚生指針 53(9) 2006」（厚生統計協会）ほか、授業で紹介する 「私は三年間老人だった」パット・ムーア、木村治美訳（朝日出版社）

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 I	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2 機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、神経系疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2 消化機能障害、呼吸器脳障害、循環機能障害をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関 連 科 目	これまでに履修した、専門基礎科目、看護学専門科目
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	栗田昌裕 概論 1 概論 2 消化器疾患 1 消化器疾患 2 消化器疾患 3 呼吸器疾患 1 呼吸器疾患 2 呼吸器疾患 3 循環器疾患 1 循環器疾患 2 血液・造血器疾患 1 血液・造血器疾患 2 神経系疾患 1 神経系疾患 2 テスト		疾病の成り立ちと回復の促進 目場 3 回復にむけて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特定について理解を問う。 1 中枢神経機能の障害 A 脳機能の障害 2 生命維持機能の障害 A 生命の危機 B 呼吸機能の障害 C 循環機能の障害 D 造血機能に関わる諸機能の障害 3 栄養の摂取・吸収・代謝・排泄機能の障害 A 食の障害 B 消化管の機能障害 C 肝臓・胆のう・膵臓の機能障害	
16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	牛込三和子 臨床看護総論 1 臨床看護総論 2 消化器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 同 4 テスト 1 呼吸器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 血液・造血器疾患患者の看護 循環器疾患患者の看護 1 同 2 同 3 テスト 2	観察とアセスメント 検査・治療と看護、 症状障害と看護、主な疾患と看護 1 主な疾患と看護 2 観察とアセスメント、検査・治療と看護 症状・障害と看護、主な疾患と看護 1 主な疾患と看護 2：慢性呼吸不全 観察とアセスメント、検査・治療と看護、症状・ 障害と看護、主な疾患と看護 観察とアセスメント 検査・治療と看護、症状・障害と看護 主な疾患と看護	成人看護学 目標 4 機能障害をもつ成人への看護実践について問う 1 呼吸機能障害をもつ患者の看護 2 循環機能障害をもつ患者の看護 3 栄養摂取・代謝障害をもつ患者の看護	

教 科 書	「系統看護学講座 成人看護学【2】－【15】」(医学書院) これらは成人看護学2 まで使用する。
参 考 書	随時紹介する。

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ（1-15回）	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 （ 6 0 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ
学 習 到 達 目 標	血液造血器系機能障害、神経系機能障害、膠原病、糖尿病、腎泌尿器系機能障害、運動器機能障害、感覚器機能障害のある人々の看護について基礎知識を習得し、看護方法を理解できる。
関 連 科 目	ここまで履修したすべての専門科目。とくに、成人老年看護学概論、成人看護学1
成 績 評 価 方 法	筆記試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	牛込三和子 血液・造血管系疾患患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護 3. 症状に対する看護、 4. 主な疾患患者の看護	目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 3. 栄養摂取・代謝疾患をもつ成人への看護	
2	神経系機能障害のある患者の看護1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護、 3. 症状・障害と看護	H. 糖代謝障害の観察とアセスメント I. 糖代謝障害のおもな看護	
3	神経系機能障害のある患者の看護2	4. 主な疾患患者の看護 脳血管疾患	4. 内部環境調節機能障害をもつ成人への看護	
4	神経系機能障害のある患者の看護3	5. 主な疾患患者の看護 神経系難病	A. 内分泌機能の観察とアセスメント B. 内分泌機能障害の看護	
5	膠原病患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護 3. 症状に対する看護、 4. 主な疾患患者の看護	C. 体液調節機能の観察とアセスメント D. 体液不均衡の看護 E. 体温調節機能の観察とアセスメント F. 体温調節機能障害への看護	
6	鈴木珠水 糖尿病患者の看護1	1. 観察とアセスメント	5. 生体防御機能障害をもつ成人への看護	
7	糖尿病患者の看護2	2. 主な検査、治療と看護、 3. 症状・障害と看護	A. 免疫機能の観察とアセスメント B. 免疫機能低下の看護	
8	糖尿病患者の看護3	4. 自己管理支援の看護（患者教育）	C. 感染症の観察とアセスメント D. 感染症の看護	
9	腎、泌尿器系機能障害患者の看護1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護 3. 症状に対する看護、	6. 感覚機能障害をもつ成人への看護	
10	腎、泌尿器系機能障害患者の看護2	4. 慢性腎不全患者の看護 血液透析 CAPD	A. 観察とアセスメント B. おもな看護	
11	北林 司 運動機能障害のある患者の看護1	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護 3. 症状・障害に対する看護、	8. 運動機能障害をもつ成人の看護	
12	運動機能障害のある患者の看護2	4. 主な疾患患者の看護	A. 観察とアセスメント B. おもな看護	
13	感覚機能障害のある患者の看護	1. 観察とアセスメント 2. 主な検査、治療と看護 3. 症状・障害に対する看護、 4. 主な疾患患者の看護	9. 排泄機能障害をもつ成人への看護 A. 排尿機能障害の観察とアセスメント B. 排尿機能障害へのおもな看護	
14	牛込三和子 がん患者の看護	1. 治療と看護 2. 終末期にある患者の看護		
15	テスト			

教 科 書	「新体系看護学 成人看護学 21～25」（メヂカルフレンド社）
参 考 書	解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト

授 業 科 目 名	成人看護学Ⅱ（16-30）	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 （ 6 0 コ マ ）	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義を基本とし、視聴覚教材や質疑応答を活用し学生の理解が深められるよう指導する。
科 目 の 目 的	健康状態の急激な変化を伴う成人の身体的・心理社会的反応を理解し、適応を支援する方法を学ぶ
学 習 到 達 目 標	手術治療を受ける成人の周手術期の病態・反応を理解し、看護援助に必要な知識・技術を習得する。
関 連 科 目	特に人間理解を深める科目、疾病の成り立ち、成人看護学概論・成人看護学Ⅰなど
成 績 評 価 方 法	筆記試験、出席状況などから総合的に評価する

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国家試験出題基準	
			看護師	
16	二渡玉江 周手術期看護総論	手術患者の周術期プロセスと看護	目標3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 2. 急激な身体侵襲により急性期にある患者の看護 B. 手術療法時の看護 C. 化学療法・放射線療法時の看護 目標4. 機能障害をもつ成人への看護 1. 呼吸機能障害をもつ成人への看護 2. 循環機能障害をもつ成人への看護 3. 栄養・代謝機能障害をもつ成人への看護 6. 感覚機能障害をもつ成人への看護 7. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人への看護	
17	術前看護1	術前患者の心理と看護		
18	術前看護2	術前患者の身体的アセスメントの必要性和術前オリエンテーション		
19	術前看護3	術前経過にそった看護援助		
20	術中看護1	手術室における看護者の役割と看護		
21	術中看護2	手術侵襲と生体反応の理解と反応の段階に応じた看護		
22	術後看護1	術後合併症と関連させた術後の系統的な観察と看護		
23	術後看護2	術後痛の特徴、影響要因の理解と看護		
24	術後看護3	術後回復を促進するための看護（早期体動促進・創傷ケア）		
25	術後看護4	術後回復を促進するための看護（ホテイメージ変容と看護）		
26	周手術期各論1	各論1～4は術式に特徴的な問題と看護について展開する 呼吸器（肺切除）、循環器（開心術）、消化器（胃切除）、 女性生殖器（乳房）、脳神経（開頭術）、など		
27	周手術期各論2			
28	周手術期各論3			
29	周手術期各論4			
30	まとめ			

教 科 書	「周手術期看護論」雄西智恵美・秋元典子監修（ヌーベルヒロカワ）
参 考 書	講義時にプリントを配布する。参考書は必要時提示する。

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 II (3 1 - 4 5)	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 (6 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	事例を用いた看護過程展開演習・看護技術演習
科 目 の 目 的	1. 1, 2 年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を強化する。 2. 実習に必要な基礎的な看護技術を強化する。
学 習 到 達 目 標	1. 与えられた情報についてアセスメントできる。 2. 介入計画を具体的に提案することができる。 3. 評価に基づいて計画を修正、終了できる。 4. 胸腹部の打診・聴診・触診の方法を理解し実践できる。 5. 創部処置、ストマケアの方法を理解し実践できる。 6. 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 7. 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 8. 栄養管理の方法が理解できる。
関 連 科 目	ここまで履修した基礎看護学関連科目・解剖学Ⅰ・解剖学Ⅱ・生理学・疾病の成り立ち
成 績 評 価 方 法	出席状況（演習態度含む）・記録およびレポート・技術演習評価表

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
31	牛込三和子 看護過程演習 1	呼吸機能障害のある成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。	必修問題 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ● 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術に	
32	看護過程演習 2	まとめ		
33	看護過程演習 3	循環機能障害のある成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。		
34	看護過程演習 4	まとめ		
35	看護過程演習 5	消化吸収機能障害のある成人の看護について、事例に基づいて看護過程を展開する。		
36	看護過程演習 6	まとめ		
37	北林 司 看護技術演習 1	フィジカルアセスメント；胸腹部の打診・聴診・触診		
38	看護技術演習 2	創部管理；創部処置、ドレッシング材料の取り扱い、ストマケアの方法		
39	牛込三和子 看護技術演習 3	呼吸管理 1；肺活量測定、一回換気量測定、パルスオキシメーター、		
40	看護技術演習 4	呼吸管理 2；ネブライザーの取り扱い、気管内吸引、人工呼吸器、NPPV、HOT、低圧持続吸引器		
41	北林 司 看護技術演習 5	循環管理 1；自動血圧計、四肢誘導心電図の測定方法		
42	看護技術演習 6	循環管理 2；12 誘導心電図計による測定、CVP 測定		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
43	鈴木珠水 看護技術演習 7	栄養管理 1 ; 食事療法、経管栄養、IVH、PEG	についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。	
44	看護技術演習 8	栄養管理 2 ; 簡易血糖測定、尿糖測定の方法	成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。	
45	牛込三和子 看護技術演習 9	技術テスト (呼吸、循環、栄養、排泄)	目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・ 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 老年看護学 目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。 目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。	

教科書	
参考書	

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 II (4 6 - 6 0)	単 位 認 定 者	牛 込 三 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	4 単 位 (6 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 機能障害をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 栄養代謝疾患、内分泌疾患、腎疾患、感染症、アレルギー・免疫疾患、膠原病と類縁疾患、骨・関節・筋疾患、泌尿器疾患、女性生殖器疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、歯・口腔疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関 連 科 目	ここまでに履修した基礎看護学・解剖学Ⅰ・解剖学Ⅱ・生理学・ここまでに履修した老年看護学
成 績 評 価 方 法	出席状況・記録およびレポート・試験

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
46	小林 功 栄養代謝障害 1		必修問題 I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。 人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ●疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。 目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。 成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う。 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。	
47	栄養代謝障害 2			
48	栄養代謝障害 3			
49	内分泌疾患			
50	腎疾患 1			
51	腎疾患 2			
52	感染症			
53	アレルギー・免疫疾患			
54	膠原病と類縁疾患			
55	泌尿器疾患			
56	女性生殖器疾患			
57	眼疾患			
58	耳鼻咽喉疾患			
59	皮膚疾患・歯・口腔疾患			
60	テスト			

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 老年看護学 目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。 目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。	

教科書	「新体系看護学 第5、7～11巻」(メヂカルフレンド社)
参考書	随時紹介する

授業科目名	老年看護学Ⅰ	単位認定者	伊藤まゆみ
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	高齢者の主な疾患と、老年期に特徴的な健康問題を理解し、老年期にある人の健康を保持・増進するための看護の役割と援助方法を学習する。また、医療的援助を受ける高齢者、終末期にある高齢者の治療の場に応じた援助方法、エンド・オブ・ライフケアを学習する。さらに、高齢者を対象としたアセスメント技術を学習する。
学習到達目標	1) 疾患をもつ高齢者の特徴と対応の基本、高齢者の主な疾患を理解する。 2) 老年看護を展開するための基本技術を理解する。 3) 老年期に特徴的な看護問題の理解と、その予防・解決のための具体的援助方法を理解する。 4) 治療を受ける高齢者、終末期にある高齢者の、その特徴に応じた具体的援助方法を理解する。 5) 高齢者の特徴に応じたアセスメントの方法の理解と、具体的な展開技術を学習する。
関連科目	1) 教養科目群：老年心理学・家族学・地域社会学・性別の社会科学・生物学基礎 2) 専門基礎科目群：解剖学・生理学・生化学・疾病の成り立ち・免疫感染症学・薬理学・臨床検査学・病態栄養学・リハビリテーション概論・栄養学・歯科保健・カウンセリング 3) 専門科目群：基礎看護学・成人看護学Ⅰ・成人看護学Ⅱ・精神看護学・地域看護学
成績評価方法	期末試験、課題レポート、毎回のミニテスト、出席状況、授業への参加態度を総合して評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	疾患をもつ高齢者の理解と対応	予備力・適応力の低下、廃様症候群の予防、日常生活機能の維持・向上のための基本的対応	目標2	
2	高齢者の主な疾患①	循環器・呼吸器疾患	2. 老年看護の基礎的技術	
3	高齢者の主な疾患②	運動器疾患	A. 高齢者の観察	
4	高齢者の主な疾患③	精神・神経疾患	a) 加齢変化の正常と異常	
5	高齢者の主な疾患④	腎、泌尿器系疾患	b) 生活障害の程度と範囲	
6	高齢者の主な疾患⑤	感覚器、皮膚疾患	c) 身体徴候と訴え	
7	高齢者の主な疾患⑥	感染症	B. 高齢者とのコミュニケーション	
8	高齢者の主な疾患⑦	まとめ	a) 加齢とコミュニケーション能力	
9	老年看護の基本技術	コミュニケーション技術、生活リハビリテーション	b) 高齢者とのコミュニケーションの方法	
10	老年期の看護問題①	寝たきりと廃様症候群	C. 高齢者の障害受容への看護	
11	老年期の看護問題②	転倒と骨折	a) 高齢者の障害受容のプロセス	
12	老年期の看護問題③	摂食・嚥下障害	b) 高齢者の障害受容の特徴の理解	
13	老年期の看護問題④	脱水	4. 障害・疾患をもつ高齢者への看護	
14	老年期の看護問題⑤	褥創	I. 老年期に特徴的な疾患と看護	
15	老年期の看護問題⑥	失禁	a) 老年期に特徴的な疾患の理解	
16	老年期の看護問題⑦	せん妄	b) 老年期に特徴的な疾患をもつ患者の看護	
17	老年期の看護問題⑧	認知症高齢者と家族の理解	5 治療を受ける高齢者への看護	
18	老年期の看護問題⑨	認知症高齢者と家族への対応	A. 薬物療法	
19	老年期の看護問題⑩	事故予防	a) 加齢と薬物動態	
20	治療を受ける高齢者の看護①	入院	b) 疾患の重複による多剤投与	
21	治療を受ける高齢者の看護②	検査・手術	c) 副作用をまねきやすい薬物	
22	治療を受ける高齢者の看護③	薬物療法	d) 薬物副作用の徴候の観察・評価	
23	治療を受ける高齢者の看護④	リハビリテーション	e) 薬物副作用の予防	
24	終末期にある高齢者の看護	高齢者のみとり、エンド・オブ・ライフケア		
25	高齢者のアセスメント技術①	健康歴の聴取		
26	高齢者のアセスメント技術②	身体機能の評価		
27	高齢者のアセスメント技術③	認知機能の評価		
28	高齢者のアセスメント	課題学習ガイダンス		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
29 30	ト技術④ まとめ 試験		f) 服薬過誤の予防と看護 g) 薬物管理とリスクマネジメント B. 手術 a) 検査・手術に関する説明と了解 b) 術前の指導と術中・術後の管理 c) 早期離礁への援助 d) 術後せん妄と看護 e) 合併症の予防 C. 受療形態に応じた看護 a) 治療を受ける高齢者の心身の特徴と看護 b) 入院 c) 外来、デイケア	

教科書	「新体系看護学 27 健康障害をもつ高齢者の看護」鎌田ケイ子、川原礼子編（メジカルフレンド社）
参考書	「高齢者を知る事典」介護・医療・予防研究会編（厚生科学研究所） 「看護のための最新医学講座 17 老人の医療」日野原重明・井村裕夫監修（中山書店）

授 業 科 目 名	老 年 看 護 学 II	単 位 認 定 者	兔 澤 恵 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義および演習
科 目 の 目 的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの実際と評価の経験をもとに、特徴的な疾患をもつ高齢者のアセスメントと看護技術、看護過程の展開方法を学習する。さらに、高齢者への援助技術を演習を通して学習する。
学 習 到 達 目 標	1) 健康な高齢者へのアセスメントを行い、高齢者の全体像を描くことができる。 2) 特徴的な疾患をもつ高齢者のアセスメントを基に対象者の全体像を想定することができる。 3) 特徴的な疾患をもつ高齢者に必要な看護技術について演習を通して実施することができる。 4) 高齢者の特徴を踏まえ個別性を踏まえた看護過程の展開を行うことができる。 5) 高齢者への援助について自己評価し、知識・技術を深めることができる。
関 連 科 目	教養科目群：老年心理学、教育学、家族学、生活学、地域社会学、経済学、生物学 専門基礎科目群：解剖学、生理学、生化学、疾病の成り立ちと回復の促進、薬理学、病態栄養学 専門科目群：成人看護学Ⅰ・Ⅱ、精神看護学、地域看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験、演習レポート評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	アセスメント実習Ⅰ	健康な高齢者のフィジカルアセスメントを基に、方法の確認と評価を行う。	1. 老年看護の基礎的技術 A 高齢者の観察 a 加齢変化の正常と異常、 b 生活障害の程度と範囲、 c 身体徴候と訴え B 高齢者とのコミュニケーション a 加齢とコミュニケーション能力 b 高齢者とのコミュニケーションの方法 C 高齢者の障害受容への看護 a 高齢者の障害受容のプロセス b 高齢者の障害受容の特徴の理解	
2	アセスメント実習Ⅱ			
3	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護Ⅰ	「大腿骨頸部骨折」のある高齢者のアセスメントと必要な看護技術について考え計画の立案を行う。	2. 障害・疾患をもつ高齢者への看護 A 視覚障害 a 視覚障害の程度と生活への影響評価 b 住環境の整備 c 眼鏡の適応と管理 B 聴覚障害 a 聴覚障害の程度と生活への影響の評価 b 会話の方法 c 補聴器の適応と管理 C コミュニケーション障害と原因の把握 b 生活への影響の評価 C 他者との交流の促進への看護	
4	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護Ⅱ	「脳梗塞」のある高齢者のアセスメントと必要な看護技術について考え計画の立案を行う。	D 排泄コントロール障害 a 排泄コントロール障害の原因の把握と生活への影響の評価 b 排泄コントロールに対する看護	
5	特徴的な疾患を持つ高齢者への看護Ⅲ	「認知症」のある高齢者のアセスメントと必要な看護技術について考え計画の立案を行う。	E 日常生活動作の障害 a 日常生活動作の評価と看護 b 自助具の選択整備 c 日常生活動作能力再獲得のための看護 d 残存機	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準		
			看護師	保健師	
6	看護過程の展開Ⅰ	グループワークを通して看護展開を深める。グループワークの成果を発表し意見交換を通して相互に学習する。	能を引き出す援助と方法 F 長期臥床状態・廃用性症候群 a 長期臥床状態の原因の把握 b 生活機能障害の程度と残存機能評価 c リハビリテーションに向けた看護 d 合併症の予防 G 認知症・精神障害 a 痴呆の種類と評価方法 b 物忘れと記憶障害 c 見当識障害 d 精神症状 e コミュニケーション f 日常生活遂行能力 g 情緒安定をはかる看護 h 療法的なアプローチ H 骨粗鬆症 a 骨粗鬆症の程度と生活への影響 b 転倒・骨折予防 c 合併症の予防 3. 高齢者の健康を支える看護 A 健康生活の維持 a 食生活と栄養 b 運動とレクリエーション c 身だしなみ d 住環境 B 事故・災害の予防への対応 a 転倒・転落 b 救急時の対応		
7	看護過程の展開Ⅱ				
8	看護過程の展開Ⅲ				
9	看護過程の展開Ⅳ				
10	高齢者への援助技術Ⅰ				演習Ⅰ. コミュニケーション技術 (会話のきっかけ、状況設定演習)
11	高齢者への援助技術Ⅱ				演習Ⅱ. 摂食を促す援助 (片麻痺への援助、体位や食器の工夫)
12	高齢者への援助技術Ⅲ				演習Ⅲ. 活動を促す援助 (体圧管理、褥創予防、リハビリテーション)
13	高齢者への援助技術Ⅳ				演習Ⅳ. 転倒予防 (履物への配慮、予防の為の運動)
14	まとめ				
15	終講試験				

教科書	「新体系看護学 27 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護」(メジカルフレンド社)
参考書	配付資料

授業科目名	母性看護学概論	単位認定者	高木タカ子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	地域や家庭・家族を含めた生涯を通して性と生殖に関する母性看護の役割を理解する。
学習到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解し実習で活用できる。 女性の周期性の変化について口答で説明ができる
関連科目	教養科目群—生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 専門基礎科目群—解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学・疾病の成り立ち・薬理学 専門科目群—看護の専門科目
成績評価方法	出席状況 課題レポート 試験(臨時 定期)

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	オリエンテーション	母性看護学概論を学ぶために	目標1 母性看護の対象となる人々についての理解を問う。	
2	母性看護の主な概念	母性とは、セクシュアリティ リプロダクティブヘルツ/ライツ ヘルスプロモーション・ライフサイクル ライフスタイル・ジェンダー	母性看護の概念 A 母性看護のおもな概念 a 母性とは b ジェンダー c 家族の発達	
3	母性看護のあり方と倫理	母性看護とは あり方の本質と特質 実践の中核となる理念 母性の課題と展望 生命倫理と看護倫理	B 母性看護と倫理 a 妊産婦・胎児および新生児の権利と擁護 b 自己決定の尊重 c プライバシーの保護	
4	母性看護の変遷	近代社会と母性看護 母性看護に関する主な組織 法律 場と職種	C 母性看護と法整備 a 地域における子育て支援 b 就労と母性 C 母体保護法 d 母子保健法	
5	母性看護の変遷	対象を取り巻く環境 家族・地域社会・生物学的環境 男女共同参画社会・国際化		
6	性の分化と胎児期における生殖器の発育	性分化のメカニズム	1. 人間の性と生殖 A 人の発生と遺伝的要素 a 発生のメカニズム b 染色体・遺伝子	
7	生殖器の形態・機能	女性外性器・内性器 男性性生殖器	B 性周期と生殖機能のメカニズム a 性周期とホルモン b 受胎のメカニズム	
8	女性生殖器の機能	月経周期 調節機序 卵巣の周期的変化 子宮内膜の周期的変化	c 性行動 a 性反応 b 性感染症	
9			D 生殖をめぐる倫理 a 出生前診断 b 不妊治療 c 人工妊娠中絶 d ハイリスク児の医療	
			目標2. 新しい家族の誕生期にある人々が健	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
10	現代女性のライフサイクル	女性のライフサイクルの変化—高齢化・小子化 多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率 新婚期・育児期・発展期・充実期・向老期・老年期	康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を問う。	
11	女性のライフサイクルと健康	ライフサイクル各期の健康問題と看護 思春期・成熟期・更年期・老年期	2. 女性のライフサイクル各期における看護 A 思春期にある人々の看護 a 第二性徴 b 心理的特徴 B 成熟期にある人々の看護 a 家族計画の意義 b 不妊治療と看護 C 更年期にある人々の看護 a ホルモンの変化と閉経 b 骨粗しょう症の予防	
12				
13				
14				
15	試験			

教科書	「系統看護学講座 専門 24 母性看護学概論」(医学書院) 「系統看護学講座 専門 25 母性看護学各論」(医学書院) 「国民衛生の動向 2006 年度版」(厚生統計協会)
参考書	

授 業 科 目 名	母 性 看 護 学 I	単 位 認 定 者	早 川 有 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 演習
科 目 の 目 的	母子保健にかかわる看護の役割を理解する。
学 習 到 達 目 標	1. 母子の健康問題に関係ある因子が理解できる。 2. 母子の健康増進のための看護について理解できる。
関 連 科 目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポート、定期試験、出席状況、学習態度にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1	母子保健の現況	母子保健の諸統計と現況について学ぶ。		
2-5	母子保健と環境	母子保健に影響を与える因子について学ぶ。 ・精神的要因：恋愛、家族、女性の生き方、サポートシステムなど ・社会的要因：経済、教育、文化、医療など ・環境的要因：自然環境、人為的環境など	目標 4 A 妊婦の看護 b) 妊婦の心理	
6-7	母子と健康生活	母子の健康問題を栄養、運動、喫煙、飲酒等の関連から学ぶ。	d) 妊婦の日常生活とセルフケア f) 親役割の準備	
8	母子と感染症	感染症と母子保健について学ぶ。	目標 2 C 性行動 a) 性反応 b) 性感染症	
9-13	母子と健康問題	妊・産・褥期によくみられる健康問題について学ぶ。	目標 4 A 妊婦の看護 c) 妊娠と不快症状 e) 出産・育児の準備 C 褥婦の看護 c) 褥婦の日常生活とセルフケア	
14	育児支援	少子化と育児支援について学ぶ。	目標 1 C 母性看護と法整備 a) 地域における子育て支援	
15	性科学と母子保健	性科学をめぐる最近の話題(性同一性障害など)について学ぶ。	目標 2 D 生殖をめぐる倫理	

教 科 書	「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」早川有子、澤田只夫（医学書院）
参 考 書	必要時提示する。

授業科目名	母性看護学Ⅱ	単位認定者	早川有子
対象学年	第3学年	学期	前期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義 演習
科目の目的	妊娠・分娩・産褥（新生児含）期に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、その中で母性看護の役割を考える。また、個別看護が展開できるための基礎的知識・技術を学ぶ。
学習到達目標	1. 正常経過をたどる妊婦・産婦・褥婦・新生児とその看護が理解できる。 2. ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 3. 母子看護とその家族への支援について理解できる。 4. 母子看護に必要な基礎的技術を習得する。
関連科目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：生理学 生化学 発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・地域看護学等）
成績評価方法	課題に対するレポート、小テスト、定期試験にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1- 2	妊娠の始まりと胎児の成長	・ 妊娠の成立、胎児の発育と発達について	2-A 胎児期:a 形態的発達 4-A 妊婦の看護:a 妊娠の経過と胎児の発育 b 妊婦の心理 c 妊娠と不快症状 d 妊婦の日常生活とセルフケア e 出産・育児の準備 f 親役割	
3- 4	妊娠経過と看護	・ 妊娠の経過（からだと心の変化、胎児の看護） ・ 妊婦の看護（健康管理・保健指導・妊婦とその家族）	5-A 妊婦の看護:a 流産 b 早産 e 妊娠高血圧症候群 4-B 産婦の看護:a 分娩の経過と胎児の健康状態 b 出産様式、c 産痛の緩和 d 産婦と家族の心理	
5- 6	妊娠期の健康問題とその看護	・ ハイリスク妊娠（流産・早産の看護） ・ ハイリスク妊娠（妊娠高血圧症候群）	5-B 産婦及び胎児の看護 a 胎児仮死 b 帝王切開術	
7- 8	分娩の経過と看護	・ 分娩の生理と経過 ・ 産婦の看護（分娩経過に伴う看護、産婦とその家族）	4-C 褥婦の看護:a 産褥の経過 b 褥婦の心理 c 褥婦の日常生活とセルフケア	
9- 10	異常分娩と看護	・ 帝王切開と看護 ・ 前置胎盤・常位胎盤早期剥離の看護	4-D 新生児の看護:a 親子関係 b 育児技術	
11 - 12	技術演習	・ 妊婦・産婦の技術演習（妊婦体験ジャケット・レオポルド触診・腹囲・子宮底測定・妊婦体操など）	5-C 褥婦および新生児の看護: 低出生体重児、先天異常、障害を持つ新生児、死産	
13 - 14	産褥経過と看護	・ 産褥の経過（からだと心の変化） ・ 産褥期にある女性とその家族への日常生活の援助 ・ 母乳栄養確立への援助		
15 - 16	新生児経過と看護	・ 新生児の特性と看護（からだと心） ・ 早期産褥期・早期新生児期の支援		
17 - 18	新生児期の健康問題とその看護	・ 健康障害のある新生児の看護について（胎児仮死 低出生体重児 黄疸 先天異常等）		
19	育児支援	・ 育児不安に対する看護		
20 - 21	保健指導	・ 退院にむけての援助 ・ 母乳栄養確立の援助について学ぶ。		
22 - 23	技術演習	・ 褥婦・新生児の技術演習（沐浴・外陰部消毒・授乳介助 産褥体操等）		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
24 - 25 26 - 29 30	フィジカルアセスメント 看護過程の展開 試験	・妊婦・産婦・褥婦・新生児フィジカルアセスメント ・事例による看護過程の展開（情報収集・分析・問題点・解決策・具体策・具体策に対する指導案作成等）		

教科書	「母性看護学各論」(医学書院)
参考書	①「妊・産・褥婦のよくあるトラブル」 ②「母性看護学1、2」(医歯薬出版) ③「母性看護技術」(メディカ)

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 概 論	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義
科 目 の 目 的	次世代を担う存在である子どもとその家族の健康生活のために、小児看護が果たす役割と課題について学ぶ。今日の子どもの置かれている状況と、子どもが健やかに発育するための社会システム・保健医療システムを学び、子どもの健康問題解決のための方略について考察する。
学 習 到 達 目 標	1. 現代社会における小児看護の意義と役割を理解する。 2. 子どもの成長発達・健康・生活の概念を理解する。 3. 子どもの生活援助に必要な基礎知識を理解する。 4. 子どもの健康な成長発達を支援するための社会システム・保健医療システムを理解する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	小児看護の理念	小児看護とは、小児看護と関連法、小児看護と倫理、	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 ≪地域看護学Ⅱ≫ 6. 母子保健指導 B. 乳幼児期の成長発達と生活の特徴 ≪必修問題≫ I. 4. 看護の倫理 II. 2. 人間の成長と発達	
2	小児看護の歴史と将来	子どもの人権、アドボカシー、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント		
3	子どもの健康	健康な子ども観、子どもが健康に生活するということ		
4	子どもと家族	健康な子どもの生活とライフサイクル、子どもの健康と家族の関係		
5	子どもの成長発達と看護	成長発達とは、成長発達の原則、成長発達と発達課題形態的発育と機能発達、精神・運動機能の発達		
6		成長・発達のアセスメントと評価、発達と環境		
7				
8	子どもの栄養と食生活	子どもの栄養の特徴、発達段階と栄養所要量		
9		発達段階と栄養摂取法の変化ー吸啜から摂食へ摂食機能の発達、乳児期・幼児期・学童期・思春期の栄養		
10	乳幼児期の子どもと健康生活	乳幼児期の子どもと健康生活、基本的生活習慣の確立と養育、乳幼児のいる家族への看護、子どもの生活と遊び、		
11				
12				
13	学童・思春期の子どもの健康生活と看護	学童期・思春期の健康生活、学童期・思春期の子どもの食生活、学童期・思春期の子どもがいる家族への看護		
14	子どもをまもるための政策・小児保健活動の実際	子どもをまもるための法律と政策、予防接種		
15		乳幼児期の保健・学校保健・思春期保健		

教 科 書	「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編（金原出版）2001
参 考 書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント 3-4 章 2 節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子（メディカ出版）2004.

授業科目名	小児看護学Ⅰ	単位認定者	木内 妙子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義・演習
科目の目的	常に成長・発達し続けている存在である子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのような影響を受けどのように適応しようとしているのかを理解する。さらに、子どもに起りやすい健康障害の特徴や、それぞれに対する有効な介入方法、すなわち小児看護の実際について学ぶ。
学習到達目標	1. 健康障害が、子どもと家族に与える影響とそれに付随した生活の変化について理解する。 2. 健康障害・闘病体験を通し、子どもと家族の反応や体験の意味付けについて理解する。 3. 子どもに起りやすい健康障害、症状、病理学的メカニズムを理解する。 4. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解する。 5. 健康障害を抱えた子どもと家族にとっての最善の利益に、小児看護が果たす役割を考察する。
関連科目	母性・小児看護学(小児看護学概論、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論)、臨地実習(小児看護学実習)、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群(心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など)、臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか)、地域科目群(公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか)
成績評価方法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	現代社会に生きる子どもをめぐる諸問題 子どもをめぐる健康問題	子どもにかかわる健康問題, 事故防止と安全教育 事故防止と安全教育, 子どもの事故対策の必要性, 子どもの事故の発生要因, 子どもの事故の実態, 事故防止の具体策・安全教育, 「健康日本21」と「健やか親子21」、子どもの救急処置の実際	【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A. 病気や入院が子どもと家族に与える影響 B. ストレスを緩和するための看護	
3 4	子どもと病気, 子どもの感染症おもな疾患の特徴と治療	子どもの免疫と感染症の特徴、病期別の特徴(潜伏期、急性期、回復期など)、ウイルス感染症、細菌感染症	2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
5 6	呼吸器系の疾患の特徴と治療、免疫・アレルギー疾患、膠原病の特徴と治療	上気道の炎症(かぜ症候群、急性咽頭炎、クループ症候群)、気管支・肺・胸膜疾患(急性気管支炎、細気管支炎、肺炎など)、アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患(気管支喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギーなど)、膠原病(若年性関節リウマチなど)		
7 8	循環器系の疾患の特徴と治療、消化器系の疾患の特徴と治療	先天性心疾患、後天性心疾患、消化器疾患による子どもの影響、子どもの全身麻酔と手術療法、口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸・腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患、急性乳児下痢症など		
9 10	小児がんの特徴と治療・血液疾患の特徴と治療	小児がんの発生頻度と予後、小児がんのおもな検査と治療方法、疾患別プロトコル、おもな小児がん(網膜芽腫、神経芽腫、ウィルムス腫瘍、悪性リンパ腫、白血病、脳腫瘍、骨肉腫・ユイグ肉腫など)、貧血・出血性疾患(再生不良性貧血、血管性紫斑病など)	《地域看護学Ⅱ》 6. 母子保健指導 D. 健康上のリスクをもつ母子への保健師動 a)心身障害児 c)子どもの虐待	
11 12	腎・泌尿器・生殖器疾患の特徴と治療、内分泌・代謝疾患の特徴と治療	泌尿・生殖器・尿路の奇形(腎奇形、尿道下裂、停留精巣、膀胱尿管逆流症など)、腎糸球体疾患(糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎不全など)、新生児マスキリーニングテストについて、先天代謝異常症(ムコ多糖症、骨形成不全症、糖尿病など)、内分泌疾患(下垂体疾患、甲状腺疾患、副腎疾患など)、		
13 14	神経疾患・運動器疾患の特徴と治療、染色体異常の特徴と治療	神経系の疾患(水頭症、てんかん、進行性筋ジストロフィー症など)、運動器疾患(先天性股関節脱臼、先天性内反足、先天性筋性斜頸、ペルテス病、骨折と牽		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	療	引療法など)、・染色体異常(ダウン症候群、18トリソミー症候群など)		
15 16	低出生体重児、子どもの事故・外傷、精神疾患、今日的課題	低出生体重児の疾患(分類、ハイリスク新生児、脳室内出血、呼吸窮迫症候群、未熟児網膜症、高ビリルビン血症、成熟異常など)、倫理的課題(傷害なき救命と生育限界など)、おもな事故・外傷(頭部外傷、誤飲・誤嚥、溺水、中毒、熱傷など)と救急処置、自閉症、精神発達遅滞、ADHD(注意欠陥多動性障害)、不登校、摂食障害、児童虐待		
17	子どもと健康障害、子どもの闘病体験	病気、病気や入院が子どもに与える影響、病気や入院に対する子どもの反応(心理的混乱の表出方法)、子どもの心理的混乱の程度に関する要因、分離不安と看護の役割		
18	病気の子どもと家族	健康障害の子どもと家族、家族のセルフケア機能、家族の相互作用システム、子どもの健康障害が起こす家族の変化、きょうだい児への影響、家族システムへの影響、家族のストレス因子、家族のアセスメントと看護介入		
19 20	子どもへのインフォームド・コンセント プリパレーション、検査や処置を受ける子どもの看護	プリパレーションとは、インフォームド・コンセントとインフォームド・アセント、子どもの権利の保障、プリパレーションの方法と内容、プリパレーション実施のプロセス、乳幼児期の子どもへの接近方法		
21 22	子どものヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント	成長発達のアセスメント、フィジカルアセスメント、身体発育の評価(観察・計測・指数、標準値との比較など)精神・運動機能の発達評価、子どもの一般状態の把握、子どものバイタルサインの測定・正常範囲と正常逸脱範囲、病気の子どもの観察方法、具体的観察のトレーニング		
23 24	子どもの主要症状別看護	子どもの身体状況が変化しやすい理由=機能的特徴、子どもの機能的発達の特徴(呼吸・循環・体温・消化・水分代謝など)、子どもが起こしやすいおもな症状のメカニズムとその看護(不機嫌、発熱、脱水、下痢・嘔吐、けいれんなど)		
25	病気の子どもの安全	病気のこどもに起こりやすい事故、子どもの特徴から治療に関連した事故、検査や処置に関連した事故、生活の中で起こる事故、子どもの事故を防ぐための看護		
26 27 28	病気の子どもの最善の利益を考える	事例を通して学ぶワークショップ		
29	小児看護に必要な看護技術	乳児の抱き方、乳児のおむつ交換、子どもの観察(バイタルサインの測定など)、治療を受ける子どもの固定・抑制方法 など		
30	試験			

教科書	1.「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第10版」奈良間美保他著(医学書院)2003 2.「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編(金原出版)2001
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子(メディカ出版)2004.

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 II	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講 義 ・ 演 習
科 目 の 目 的	さまざまな病気や障害など、何らかの健康問題を抱えた子どもとその家族の特徴や精神的・身体的・社会的諸問題について事例を通して理解を深める。また、それらに応じた看護について学ぶ。さらに、疾患・障害を持った小児とその家族を支える保健・医療・福祉・教育等様々な領域の社会資源と、その活用の意義や方法についても学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 健康障害を抱えた子どもと家族の生活が、どのように変化しているかを理解する。 2. 健康問題を抱えた子どもとその家族の経過別、発達段階別の特徴を理解する。 3. 健康問題を抱えた子どもとその家族の精神的・身体的・社会的諸問題の実際を理解する。 4. 健康障害を抱えた子どもと家族への具体的看護介入の方法について学び、子どもの最善の利益について考察する。 5. 健康障害を抱えた子どもと家族のための社会資源とその活用方法について理解する。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学概論、小児看護学Ⅰ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習（小児看護学実習）、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	講義・演習への出席と参加度、課題、テストによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	乳児期－急性期の子どもと家族の看護	先天性心疾患（VSD、ファロー四徴症など）の事例から考える、乳児期の子どもの急性症状のアセスメント、循環器系の主要症状についてのアセスメント、看護介入の方法、難病の子どもと家族を支える社会システム、親の会の活動、事例のアセスメント	【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 A. 病気や入院が子どもと家族に与える影響 B. ストレスを緩和するための看護	
3 4	幼児期－急性期～慢性期の子どもと家族の看護	川崎病、髄膜炎などの事例から考える、幼児期の子どもの急性症状のアセスメント、薬物療法と子どもへの与薬方法、看護介入の方法、事例のアセスメント	2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	
5 6	学童期－急性期～慢性期の子どもと家族の看護	気管支喘息の事例から考える、学童期の子どもの急性症状のアセスメント、呼吸器系の急性症状のアセスメント、子どものセルフケアとコンプライアンス、看護介入の方法、喘息の子どもを支える社会活動（喘息児のサマーキャンプなど）事例のアセスメント		
7 8	思春期－慢性期の子どもと家族の看護	ネフローゼ症候群（急性糸球体腎炎など）の事例から考える 腎・泌尿器系の主要症状のアセスメント、思春期の子どもの特徴、薬物療法への看護、ボディイメージの変化への対応、看護介入の方法、病気の子どものと学校、事例のアセスメント		
9 10	手術を受ける子どもと家族の看護	子どもへの全身麻酔、手術前後の看護、小児外科治療の現状と看護、Day surgery Preparation など、外来における看護 重症・救急時の子どもと家族の看護	《地域看護学Ⅱ》 6. 母子保健指導 D. 健康上のリスクをもつ母子への保健師動 a)心身障害児 c)子どもの虐待	
11	予後不良の子どもと家族の看護	白血病、小児悪性腫瘍などの事例から考える、血液・免疫系の主要症状のアセスメント、よいターミナルケアとは、家族の悲嘆過程		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
12	子どもの薬物療法	子どもの薬物療法、臨床治験の現状、薬物療法における看護の役割		
13 14 15	低出生体重時と家族の看護 障害のある子どもと家族の看護 試験	低出生体重児の特徴と看護、家族の変化ときょうだい児への影響、家族システムへの影響、未熟児ケアの実際、障害児の療育と看護、家族支援、障害児と家族を支える社会システム、生育限界と倫理問題		

教科書	1. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第10版」奈良間美保他著（医学書院）2003 2. 「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編（金原出版）2001 3. 「ナーシング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）2007.
参考書	「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子（メディカ出版）2004.

授業科目名	精神看護学概論	単位認定者	齋藤和子
対象学年	第2学年	学期	前期
単位数	1単位(15コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義
科目の目的	人として生きていく上で、心がいかに大きな働きをもつかを正しく理解するために、心の発達と健康、心の育みに影響を与える内外の環境のありようを学び、精神保健の位置付け及び機能について理解する。
学習到達目標	1. 心と身体に関連を知る。 2. 心の健康と障害の捉え方、社会化とメンタルヘルスの関係、精神に障害をもつ人が感じる世界、その援助の本質を理解できる。
関連科目	「解剖学」「発達心理学」「家族学」「精神臨床看護学」他
成績評価方法	定期試験、授業の中で指示した提出課題

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 2	心とは 〃	脳と心 心(精神)と身体の関係	目標1-1 精神の健康 A 精神の構造, B 精神の機能と障害	
3 4	精神看護学の考え方 〃	心の健康・不健康, 心の病気の考え方 精神看護学における看護師の役割	目標1-1 精神の健康 C クライシス, D リエゾン 目標2-1 精神看護の基本 概念D看護モデル	
5	心の健康	心の健康維持	目標2-1 精神看護の基本 概念A 生物学的モデル, B 精神分析モデル,	
6 7	心の発達と健康 〃	心の発達理論 成長各期の発達	目標2-1 精神看護の基本 概念C 成長発達モデル	
8 9	人間関係と心の働き 〃	人間関係の中での心の問題 心の問題への対応	目標1-1 精神の健康 C クライシス, D リエゾン 目標2-1 精神看護の基本 概念D看護モデル	
10 11	環境と心の働き 〃	環境と心の健康 教育の場と心の健康 職場と心の健康 地域社会と心の健康	目標2-1 精神の健康 C 成長発達モデル	
12 13	危機状況と心の働き 〃	発達段階での危機の諸相と危機介入 医療現場における危機の諸相 災害時など特殊な状況における危機の諸相	目標2-1 精神看護の基本 概念 C 成長発達モデル 目標2-2 看護援助技法B 精神状態・問題行動と看護 援助方法	
14	地域保健活動の展開	精神保健の概念 地域精神保健福祉活動	目標3-2 地域精神保健C 地域生活支援の技術	
15	わが国の精神保健福祉制度	精神保健福祉の変遷 精神保健福祉法と医療・行政	目標3-2 地域精神保健A 精神保健福祉の法制化	

教科書	・「新体系看護学 32 精神看護学① 精神看護概論・精神保健」佐藤壹三(メヂカルフレンド社)
参考書	・「アダルトチルドレンと家族」斎藤学(学陽書房) ・「驚異の小宇宙・人体Ⅱ脳と心」養老孟司他(NHK出版)

授業科目名	精神臨床看護学	単位認定者	松岡治子
対象学年	第2学年	学期	後期
単位数	2単位(30コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義, 演習(看護過程)
科目の目的	精神に障害をもつ人に見える世界・心情を科学的にも説明することができて, その対象個々が求める援助の在り方について正しく理解する。
学習到達目標	1. 精神に障害をもつ人と偏見なく関われる。 2. 自分の心の問題と関連させて精神障害を考えられる。 3. 精神の健康な部分と病的部分とを正しく見分けられる。 4. 精神に障害をもつ人個々に必要な看護を科学的説明できる。
関連科目	「精神看護学概論」「精神地域看護学」「心理学」「地域社会学」「解剖学」「疾病の成り立ち」「薬理学」「リハビリテーション概論」「社会福祉・社会保障制度論」「看護カウンセリング」「看護過程論」
成績評価方法	定期試験と授業の中で指示した提出課題

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1 4	精神保健看護の基本	精神障害者が理解されてきた歴史と精神科看護の変遷について概説する。精神保健福祉法の要旨、看護者に求められる資質、精神障害者とのコミュニケーションの特徴、患者—看護者関係、観察のポイント等について概説する。	目標 3-1 精神医療看護の歴史と人権 A. 精神医療看護の変遷 a: 欧米における精神医療の歴史 b: 日本における精神医療の歴史 C: 精神医療における看護師の役割 B. 患者の権利 a: インフォームド・コンセント b: 行動制限 c: 隔離室の使用 C. リスクマネジメント a. 自殺・自殺企図 b. 転倒 c. 誤飲 d. 誤薬 e. 院内感染	
5 10	精神状態・症状別看護援助	人間の持つ精神機能について概説する。また、精神の健康障害や精神症状によって影響された患者の状態をアセスメントし、さまざまな状態像にある看護について概説する。	目標 2-2 看護援助技法 A. 症状アセスメント a. 不安 b. 抑うつ c. 幻覚 d. 妄想 e. 強迫 f. せん妄 g. 痴呆 h. 離脱症状 B. 精神状態・問題行動と看護援助方法 a. 不安緊張状態 b. ひきこもり状態 c. 抑うつ状態 d. 躁状態 e. 幻覚妄想状態 f. 意欲減退状態 g. 不眠状態 h. 拒絶・拒否 i. 攻撃的行動 j. 操作・試し行為 k. 強迫行為	
11 14	精神の健康障害と看護援助 ・統合失調症患者の看護 ・感情障害患者の看護	統合失調症の急性期、慢性期にある患者に対する援助の方法について説明する。統合失調症の精神病理, 発症の背景。統合失調症の治療, 統合失調症のさまざまな状態(幻覚・妄想、無為自閉、拒絶、昏迷など)にある患者に対する援助の方法について説明する。 軽度、重度うつ状態および躁状態にある患者にみられる身体症状(不眠、食欲不振等)および精神症状(抑うつ、不安などの感情障害、昏迷、抑制などの意欲・行動障害等)について事例を通して説明する。躁鬱病の精神病理, 発症因子, 躁鬱病の治療, 神経症性障害の看護援助について事例を通して概説	目標 2-3 精神科治療と看護【必修問題(a. うつ b. 統合失調症)】 A. 精神疾患の診断基準 a. 統合失調症 b. 気分障害 c. 神経症および心因反応 d. 人格障害 e. 物質(アルコール, 薬物)関連障害 f. ストレス関連障害 g. 器質性精神疾患 h. てんかん. i. 心身症	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15 16	・神経症性障害患者への看護 ・アルコール依存症の看護	する。 アルコール依存患者の看護について概説する。		
17	リエゾン精神科看護	精神的危機が生じる医療・看護の中で精神看護的知識や技術を基盤とした助言を行い、患者—看護者関係を築くためのコンサルタントをするリエゾン精神看護を概説する。家族への支援について概説する。	目標 1-1 精神の健康 D. リエゾン精神看護 a. 身体疾患をもつ患者の精神の健康 b. 患者・家族の精神の健康 c. 看護職者の健康	
18	社会復帰活動と看護	(高橋ゆかり) 社会復帰活動(作業療法・レクリエーション療法・生活指導・SST)の歴史的変遷および看護活動について説明する。また、精神科デイ・ケアの目的と活動の実際について説明する。 精神の健康上の問題をもつ人が、地域で生活していくために必要な援助とそれを支える支援システムについて概説する。	目標 3-2 地域精神保健 A. 精神福祉の法制度 a. 精神保健福祉法の基本的考え方 b. 精神保健福祉法による入院の形態 c. 精神保健指定医 d. ホームヘルプサービス B. 社会復帰・社会参加 a: 社会復帰施設 b: デイケア c: 小規模作業所 d: グループホーム e: 生活支援センター f: セルフヘルプグループ C. 地域生活支援の技術 a. 生活技能訓練 SST (Social Skill Training) b. 訪問看護 c. ケアマネジメント d. 看護相談面接 D. 生活の場と精神保健 a. 家庭(育児ノイローゼ, 介護疲れ, 虐待) b. 学校(不登校, いじめ, 無気力) c. 職場(バーンアウト, 自殺, 過労死)	
19 20	事例展開	事例(精神分裂病、うつ病事例)を用いた看護過程の展開: グループワークと発表により看護診断について学習する。	目標 2-2 看護援助技法 A 症状アセスメント B 精神状態・問題行動と看護援助方法	
29 30	発表・まとめ		目標 2-3 精神科治療と看護 A 精神疾患の診断基準 B 臨床検査 C 身体療法 D 精神療法 E 活動療法 F 治療環境	

教科書	・「新体系看護学 33 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護」佐藤壹三 (メヂカルフレンド社)
参考書	・「精神障害者のクリニカルケア」川野雅資・長野勝 (メヂカルフレンド社) ・「精神看護学」田中美恵子 (医歯薬出版) ・「ナーシング・グラフィカ 32 精神看護学—情緒発達と看護の基本」出口禎子 (メディカ出版)

授 業 科 目 名	精 神 地 域 看 護 学	単 位 認 定 者	齋 藤 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	前 期
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義
科 目 の 目 的	精神障害者を地域社会に居住する生活者として捉え、精神障害の予防、精神障害者対策、精神障害者支援等における看護師、保健師の役割、機能等を学習し、技術を習得する。
学 習 到 達 目 標	1. 地域社会における行政機関、医療機関、社会復帰支援機関等の組織、機能等を理解する。 2. 各機関における看護師、保健師等の役割、およびソーシャルワーカー、作業療法士等、他の専門職者との協力のありかたを理解する。 3. 事例を通して知識、技術を確認し、知識および技術を自己自身に定着させる。
関 連 科 目	生命倫理 地域社会学 保健統計基礎 精神看護学概論 精神臨床看護学 社会福祉・地域サービス論
成 績 評 価 方 法	試験、随時提出のレポートの評価

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1 2	地域精神保健の考え方	精神障害者対策の歴史 地域社会における生活者としての精神障害者	目標2-D生活の場と精神保健	9-A. 精神保健の動向 a) 精神保健の理念、歴史的変遷 9-B. 精神障害者の生活上の障害と保健指導 a) 精神障害者の生活の捉え方
3 4	地域保健行政における精神保健の仕組み 精神保健福祉行政の仕組み	精神障害者を支える地域ケアシステム 精神保健福祉法の概要	2-A 精神保健福祉の法制度 2-A 精神保健福祉の法制度 a) 精神保健福祉法の基本的な考え方	9-B-b) 発症に関与する疾病の発生過程、予防、他 9-A b) 精神保健施策と保健師活動 c) 地域・集団の精神保健、優先順位、他 9-B 社会復帰へのはたらきかけ、精神保健活動 9-B c) d) 地域のサポートシステム、社会復帰
5 6	社会復帰支援	社会復帰支援の法的位置づけとそのための施策と事業内容	2-B 社会復帰・社会参加 a) 社会復帰施設 b) デイケア c) 小規模作業所 d) グループホーム e) 生活支援センター f) セルフヘルプグループ	9-B c) d) 地域のサポートシステム、社会復帰
7 8	市町村における地域精神保健福祉活動の実際	市町村保健師による指導の実際	2-D 生活の場と精神保健 a) 家庭 c) 職場	9-C a) 薬物乱用 b) アルコール依存
9 10 11 12	保健所における地域精神保健福祉活動の実際 看護技術	保健所保健師による指導の実際 ケアマネジメント	2-D a) 家庭 b) 学校 2-A d) ホームヘルプサービス 2-C b) 訪問看護 c) ケアマネジメント d) 看護相談面接	9-C c) 自殺 d) 家庭内暴力 e) いじめ 9-A a) 9-B c)
13 14 15	事例研究 試験	看護診断、看護計画作成、面接および訪問看護の実際 精神地域看護学において必要な知識と技術の評価	2-C b) c) d) 目標達成度評価	9-A a) 9-B c) 目標達成度評価

教 科 書	「新体系看護学 32 精神看護学 精神看護学概論・精神保健」佐藤孝三 (メヂカルフレンド社)
参 考 書	「我が国の精神保健福祉」精神保健福祉研究会監修 (株式会社太陽美術発行)

授業科目名	地域看護学概論	単位認定者	梅 林 奎 子
対象学年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・VTR・文献講読
科 目 の 目 的	1 地域看護の歴史の変遷や地域看護の概念と役割について理解する。 2 地域の人々の健康を守る活動として地域看護、公衆衛生看護の原理・原則について理解し、今後の活動について展望する。
学 習 到 達 目 標	1 地域看護の歴史の変遷と地域看護の概念を理解する。 2 地域看護の理念、役割と対象・活動について理解する。 3 包括医療体系のなかでの看護の包括性・継続性のある看護活動を理解する。 4 公衆衛生看護の活動の場に応じた看護活動について理解する。 5 住民のニーズに合わせたダイナミックで、創造的な活動であることを理解する。 6 公衆衛生看護の活動の特徴、成立条件を理解する。 7 住民が自分たちの健康問題の解決に取り組む活動について理解する。 8 在宅看護の特質、対象と成立条件を理解する。 9 災害における保健師の活動と役割について理解する。 10 公衆衛生看護管理の基本について理解する。
関 連 科 目	教養科目群：人間、生活、成熟社会に列挙されている科目 専門基礎科目群：公衆衛生学、疫学・保健統計、地域保健行政、社会福祉・社会保障制度論 専門科目群：基礎看護学、母性・小児看護学、成人・老年看護学、精神看護学に列挙されている科目
成 績 評 価 方 法	テスト、レポートも加味する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
1 2	地域看護の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・地域看護の概念 ・地域看護と公衆衛生看護・在宅看護・在宅ケア ・地域保健活動と公衆衛生活動と看護活動 ・在宅医療、学校保健活動、産業保健活動 	全ての看護師国家試験の出題基準に準ずる	諸外国の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の保健医療福祉制度における保健師（訪問看護師）の位置づけ
3 4	地域看護・在宅看護・公衆衛生看護の定義	<ul style="list-style-type: none"> ・地域とは ・地域看護と公衆衛生看護 ・地域看護とは、在宅看護とは、公衆衛生看護とは ・公衆衛生と公衆衛生看護 		公衆衛生活動の理念・目的、健康に関する認識の普及・啓発、自立的な生活への支援・強化、健康を志向する町づくり 健康、生活、集団、地域社会、地域環境、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、パートナーシップ、ノーマライゼーション、アドボカシー、基本的人権の尊重・権利擁護、自立支援、自己決定、住民参加、男女共同社会、自治、制度・政策開発、リスクマネジメント、職業倫理
5 6	地域看護・在宅看護・公衆衛生看護活動の理念と目的 公衆衛生看護活動について	<ul style="list-style-type: none"> ・包括医療（総合保健医療）と看護の継続性 ・プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション、ノーマライゼーション、ICF、自己決定、住民参加、アドボカシー、男女共同参画等 ・公衆衛生活動と地域看護活動・公衆衛生看護活動・在宅看護活動の目的 		公衆衛生看護、継続看護、ヘルスケアチーム 地域における保健活動・在宅ケアの方向づけ、サービスの提供体制の整備、指導・監視、コミュニティの健康水準の向上への提言、職員と住民の権利保障
7 8 9	地域看護の発祥と公衆衛生看護の芽生えと変遷	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史を学ぶ意味（文献を読みレポート提出） ・地域看護の発祥（含在宅看護の歴史）と公衆衛生看護の歴史 明治～大正初期・昭和初期～現在の概要 		訪問看護制度と介護保険、高齢者保健の動向、高齢者の生活と保健指導、在宅要支援・要介護高齢者と家族への保健指導、要支援・要介護高齢者、痴呆高齢者、ターミナルケア、在宅ケア・在宅看護の理念と目的、在宅ケア・在宅看護活動の実態、在宅ケア・在宅看護の制度とシステム、地域ケアシステムの構築、ネットワークの形成と地域ケアコーディネーション、社会福祉の基本概念、地域福祉計画とコミュニティ、地域福祉権利擁護、成年後見制度、在宅ケアのためのマネジメント、対象者の疾病管理・憎悪防止、介護者へ
10	公衆衛生看護活動の法的基盤 看護職者の職業倫理	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師助産師看護師法における保健師業務他 ・専門職とは、専門看護師（地域看護） ・看護職者の倫理綱領、ICN 規律 ・公務員法 等 		
11	国際保健と国際協力	<ul style="list-style-type: none"> ・WHO（世界保健機構）とWHO 憲章 ・ODA（政府開発援助） ・NGO（Non-government Organization） ・NPO（Non-profit Organization） 		
12	公衆衛生看護活動の	<ul style="list-style-type: none"> ・理念と目的、役割、展開の方法を実践 		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
13 14	展開方法	例を通して（大西若菜氏の活動） （レポートと講義） レポートは講義の初日に提示（大西・ナイチンゲール） ・プライマリーヘルスケア、ヘルスプロモーションと公衆衛生看護 ・ナイチンゲールに公衆衛生看護の本質を探る （レポートと講義）		の支援、介護の人的資源確保・開発、介護の物的資源確保・開発、在宅ケアサービスの活用・法的根拠、在宅看護管理、訪問看護ステーション管理、地域ケアシステムづくり、在宅看護の質評価・管理、介護保険制度、法体系、市町村の役割、居宅サービス事業者、居宅介護支援事業者とケアマネジメント
15	公衆衛生看護の役割 公衆衛生看護の活動の特徴と成立条件	・公衆衛生看護の役割 ・公衆衛生看護活動の特徴 ・公衆衛生看護の成立条件		諸外国の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の公衆衛生と地域看護の変遷、日本の保健医療福祉制度における保健師（訪問看護師）の位置づけ、在宅ケア・在宅看護の変遷、社会背景
16	公衆衛生看護活動の対象	・あらゆるライフステージ ・あらゆる健康レベル ・個人と家族と地域		健康、生活、集団、地域社会、地域環境、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション
17 20	地域看護活動の方法と活動の特徴	・家庭訪問、健康相談、健康教育、地区組織活動、集団健診 ・活動方法の多様性 ・対象に合わせた方法の選択（目的、ニーズに合わせて方法をつくり出す） ・活動方法相互の関連づけ、有機的な連携と統合した活動 ・厚生労働省通知「保健活動指針」		国際連合とWHO（世界保健機関）の健康政策、国際協力とODA（政府開発援助）、国際機関、NGO、発展途上国 個別・集団の接近技法（ケースワーク、グループワーク）の各目的、特性、個別・集団指導の種類・特色、個別・集団指導と援助者の基本姿勢、対象選定と優先順位
21 22	地域看護の成立条件 地域看護の対象と活動	・地域看護の成立条件 ・個人・家族・集団・地域の特性と対応 ・行政機関（市町村・保健所） ・保健師活動指針 ・施策化 ・福祉関係機関 ・事業所 ・学校		個人・家族、小集団、組織・機関、コミュニティ 地域診断、計画策定・評価、地区活動、個別・集団の接近技法・技術、コーディネート、地域支援システム構築、地域資源開発
23	地域看護と地域ケア体制	・保健医療チームと体制づくり、在宅療養の支援体制等 ・看護職の役割（実践例を通して）		災害の定義・分類、災害看護の目的、自然災害サイクルと災害医療・看護 災害に関する法体系、災害支援の制度とシステム、災害支援に関する社会資源
24	〈在宅看護〉 在宅看護に関わる現状	・在宅看護に関わる現状		避難のための支援必要者・実態把握、災害防止マニュアル、災害訓練、教育普及啓発（住民主体の防災対策への習慣づけ）、装備、救援・支援ネットワーク構築、初動体制、救護班・避難所での活動、トリアージ（定義・原則・プロトコル）、避難所・仮設住宅・在宅生活者への活動、PTSDへの対応、職員の心身の健康管理、ボランティアへの活動支援
25	在宅看護の対象 在宅看護の成立条件	・在宅看護の対象 ・療養者と家族側、援助者側		関連情報の収集、情報ネットワークの構築、情報管理の方法、情報開示、マスクミ対策、個人情報保護、サービス提供組織の診断、地域における看護の継続性、総合性の推進、他職種・他機関との事例検討、地域の特性をいかした社会資源の開発と管理、組織目的、各部門の役割、指示系統の確認、業務管理、他部門との連携、情報の共有、協働
26	地域看護をめぐる保健医療福祉施策と職種	・包括医療と看護の継続性 ・保健医療福祉施設 ・保健医療福祉従事者		人材育成方針の策定（組織内）、現任訓練、教育研修の計画と評価、保健事業と人材育成の予算編成、目的、効率・効果、代替案の明確化、主務者、財務部門、議会への説明
27	介護保険の概要とケアマネージャーの役割	・介護保険制度の概要 ・ケアマネジメントとケアマネージャーの役割		
28	在宅看護活動	・外来における継続看護と訪問看護 ・公的機関の訪問看護 ・訪問看護ステーション		
29	公衆衛生看護と災害	・災害各期における公衆衛生看護の役割		
30	公衆衛生看護管理	・管理の基本 ・危機管理（リスクマネジメント） 2年次に具体的には活動論の中で ・組織 ・管理の要素、人事管理、業務管理、予算管理、情報管理 ・まとめ		
	まとめ テスト（60分）			

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「最新保健学講座 地域看護学総論①」金川克子編（メヂカルフレンド社） ・「最新保健学講座 地域看護学総論②」平野かよ子編（メヂカルフレンド社） ・「国民衛生の動向 2007」（財団法人厚生統計協会） ・「在宅看護論」杉本正子編（廣川書店）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナイチンゲール著作集 1・2巻」薄井坦子他訳（現代社）

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論 I	単 位 認 定 者	矢 島 正 栄
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義・演習
科 目 の 目 的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、家庭訪問、健康教育、地区組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。
学 習 到 達 目 標	1. 健康相談の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた健康相談を展開できる。 2. 家族保健指導の意義と目的、及び支援技術としての家庭訪問の特質を理解し、家庭訪問のプロセスを展開できる。また、家庭訪問を他の保健事業や施策に反映させる意義と方法がわかる。 3. 健康教育の概念と理論を理解し、個人及び集団を対象とした健康教育を展開できる。 4. 地区組織活動支援の意義、地区組織活動支援に活用される理論、地区組織活動支援の方法がわかる。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論Ⅱ、地域看護活動論Ⅲ
成 績 評 価 方 法	試験、演習内容、レポート

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	健康相談 1	健康相談の意義と目的	基礎看護学 目標 2-1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 a) コミュニケーション技術 b) カウンセリング技術 B. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導 社会保障制度と生活者の健康 目標 1-1. 生活基盤 A. 生活単位 a) 家族(世帯) c) 家族周期(ライフサイクル) B. 家族生活の基本機能 a) 生産・労働 b) 教育・養育 c) 保健・福祉 d) 生殖 e) 慰安・交流	地域看護学Ⅱ 1. 発達段階、健康レベルと保健サービス A. 保健サービス a) 各発達段階における健康レベル別個人・家族及び小集団の健康課題と必要な接近技術・方法 B. 各種サービスの活用 a) 各発達段階における健康レベル別各種保健サービスの特性・活用 b) 地域の健康特性と各種保健サービスの適用・優先順位 4. 健康相談 A. 目的と対象、技術 a) 健康相談・健康診査の目的、特性 b) 対象、種類と特性、スクリーニング基準、精度管理 c) 相談・健康診査場面の設営・面接技術 B. すすめ方 a) 地域の健康特性と健康相談・健康診査事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 実施準備・実践・評価 d) 事後フォローアップ e) 参加対象への自立支援・組織化 3. 家庭訪問 A. 家族保健指導 a) 家族の発達段階と課題 b) 家族関係と問題、アセスメント、家族援助、評価 地域看護学Ⅰ 目標 2-4. 地域の人々の保健関連行動 A. 個人の対処行動 a) セルフケア行動 b) ウエルネス行動 c) 学習行動 d) 支援行動 e) 求援行動 f) 病気への対処行動 g) 受療行動 h) 遵守行動 3. 家庭訪問 B. 家庭訪問の目的と対象、
2	健康相談 2	健康相談の対象		
3	健康相談 3	健康相談の技術		
4	健康相談 4	健康相談・健康診査の実施方法		
5	健康相談 5	健康相談・健康診査の実施方法(演習)		
6	健康相談 6	〃		
7	家族保健指導 1	家族の発達課題、家族の持つ保健機能		
8	家族保健指導 2	家族の問題把握と診断、家族支援		
9	家庭訪問 1	家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象		
10	家庭訪問 2	家庭訪問計画の作成、訪問準備、訪問目的の伝え方		
11	家庭訪問 3	家庭訪問における観察・情報収集、看護技術援助、保健指導		
12	家庭訪問 4	家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法		
13	家庭訪問 5	家庭訪問場面(演習)		
14	家庭訪問 6	〃		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
15	健康教育 1	健康教育の理念と目的、健康教育の理論	目標 2-1. 共通基本技術 A. 人間関係を成立し発展させるための技術 c) グループワーク、グループダイナミクス B. 人間の成長を促すための技術 a) 教育 b) 相談・指導	技術 a) 家庭訪問の目的、特性 b) 対象特性 c) 初回・継続・拒否等への訪問技術 C. すすめ方 a) 情報収集と問題把握 b) 対象選定と優先順位 c) 訪問指導計画、訪問準備・実践・評価 e) 関係機関・職種との連携、社会資源の活用 d) 訪問記録、報告 地域看護学Ⅱ 2. 保健指導 A. 目的と各接近技法・技術の特色 a) 個別・集団の接近技法の各目的・特性 b) 個別・集団指導の種類・特色 B. 保健指導における役割 a) 個別・集団指導と援助者の基本姿勢 b) 対象選定と優先順位 5. 健康教育 A. 目的と対象、技術 a) 健康教育の目的、特性 b) 対象、種類と特性 c) 健康教育に用いる基礎理論 B. すすめ方 a) 地域のニーズ把握・アセスメント、事業の立案 b) 参加対象と参加勧奨 c) 指導案づくり・媒体の工夫 d) 実施準備・実践健康教育の評価 e) 事後フォローアップ f) 参加対象への自立支援・組織化 地域看護学Ⅲ 目標 2-5. グループ支援、組織化 A. グループの役割・機能 a) グループの種類と機能 b) 発展過程 c) グループダイナミクスの理論 d) グループ支援における保健師の役割 B. グループメンバー個人の変化とグループ全体の変化 a) 主体性の確立 b) 自己洞察の深まり c) エンパワメント C. グループの育成支援と組織化 a) グループの育成と組織化支援 b) セルフヘルプグループの特徴と支援方法 c) 健康学習を促進する媒体、人的つながり D. 住民組織・地区組織 a) 組織の育成・支援 b) 地域住民の自助、互助および共同活動の把握と推進 c) 専門職、行政職、他の住民組織等との連携 E. グループ支援と地域活動への発展・貢献 a) グループ間での情報共有とネットワーキング b) 共同事業・共同活動の発展と支援 c) 民間、NPO 支援
16	健康教育 2	健康教育の対象・方法		
17	健康教育 3	健康教育の展開過程		
18	健康教育 4	健康教育計画と指導案		
19	健康教育 5	〃		
20	健康教育 6	健康教育の評価		
21 ～ 26	健康教育演習	1. 目的 地域の人々を対象とする集団教育の展開方法と、教育的働きかけのあり方を学ぶ。 2. 実施方法 グループ毎に対象とテーマを設定し、健康教育の計画を立案する。		
27	地区組織活動支援 1	地区組織活動の意義と目的		
28	地区組織活動支援 2	地域住民の自助と互助、地区組織・専門職・自治体の連携、社会資源の活用		
29	地区組織活動支援 3	地区組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方		
30	試験			

教科書	「最新保健学講座 3 地域看護支援技術」村嶋幸代編（メヂカルフレンド社）
参考書	

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論 II	単 位 認 定 者	大 野 絢 子
対 象 学 年	旧) 第 2 学 年 新) 第 3 学 年	学 期	旧) 後 期 新) 前 期
単 位 数	2 単 位 (3 0 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	
科 目 の 目 的	
学 習 到 達 目 標	
関 連 科 目	
成 績 評 価 方 法	

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		本年度開講せず		

教 科 書	
参 考 書	

授 業 科 目 名	地 域 看 護 活 動 論 III	単 位 認 定 者	小 林 亜 由 美
対 象 学 年	旧) 第 3 学 年 新) 第 2 学 年 第 3 学 年	学 期	旧) 前 期 新) 後 期 (2年) 前 期 (3年)
単 位 数	3 単 位 (4 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義 (オムニバス方式)
科 目 の 目 的	ライフステージや健康障害の他、産業、学校など場の特性に応じた地域看護活動について、その理念と特質を学び、実践の基礎となる知識を習得する。
学 習 到 達 目 標	(母子保健) 1. 母子保健活動の理念と目的が理解できる。2. 母子が抱える問題と支援の展開方法が理解できる。3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。 (成人高齢者保健) 1. 生活習慣病、感染症、難病、障害者 (児) に関する保健活動の理念と目的が理解できる。2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。 (学校保健) 1. 養護教諭の職務に関して、その機能と役割を理解し養護教諭に求められる資質、能力を習得する。 (産業保健) 1. 事業場内の労働衛生管理体制のもとに行われている、産業保健活動 (健康管理・作業管理・作業環境管理) を理解する。2. 今日における労働者の健康問題の現状と動向を知る。3. 職場における健康問題を解決するため、個別的・集団的・組織的展開方法を知る。
関 連 科 目	地域看護学概論、地域看護活動論 I、地域看護活動論 II、在宅看護活動論、保健指導論、公衆衛生学、成人・老年看護学概論、母性看護学概論、精神看護学概論、精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	筆記試験 (母子保健) (成人高齢者保健) (学校保健) (産業保健) の領域毎に各々評価した上で、それらを総合的に評価したものを本科目の成績とする。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	(母子保健) 母子保健の理念 母子保健の現状 1	母子保健の理念と目的、歴史的変遷、わが国の母子保健の水準我が国の母子保健活動の概要		6-A-a) 母子保健の理念、歴史的変遷
2	母子保健の現状 2	すこやか親子 21、ライフサイクルから見た母子保健、母子の健康に影響を与える要因		b) 母子保健施策と保健師活動、健やか親子 2 1
3	若い家族の健康生活と保健指導の基本	若い家族、妊娠・分娩・産褥期の健康生活と保健指導、遺伝相談		A-c) 地域・集団の母子健康問題、優先順位
4	妊産褥婦の健康生活と保健指導の基本	妊産褥婦を対象とする保健サービス、勤労女性の母性保護		C-e) 家族計画 C-b) 妊産褥期 D-b) 就労女性
5	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本 1	乳児期の成長発達・健康・生活と保健指導、乳児期を対象とする保健サービス		C-c) 育児期 B-a) 乳幼児の発達、生活・しつけ、保健指導
6	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本 2	乳児期の成長発達・健康・生活と保健指導、乳児期を対象とする保健サービス		b) 乳幼児期の健康問題アセスメント、保健指導 c) 予防接種
7	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本 3	幼児期の成長発達・健康・生活と保健指導、幼児期を対象とする保健サービス		
8	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本 4	幼児期の成長発達・健康・生活と保健指導、幼児期を対象とする保健サービス		
9	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本 5	幼児期の成長発達・健康・生活と保健指導、幼児期を対象とする保健サービス		C-a) 思春期
10	乳幼児期の健康生活と保健指導の基本 6	乳幼児健康診査の実際と保健師の役割		D-a) 心身障害児 c) こどもの虐待、女性への暴力 d) 外国人母子の健康問題と支援 e) 地域のサポートシステム、社会資源
11	学童期の健康生活と保健指導の基本	学童期・思春期の成長発達・健康・生活と保健指導		C-d) 更年期
12	ハイリスク母子の保健指導 1	未熟児、多胎、発達障害児、小児慢性特定疾患患児の保健指導		
13	ハイリスク母子の保健指導 2	育児環境や育児方法に問題がある母子・ハイリスクな母親の保健指導		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
14	更年期の健康生活と保健指導の基本	更年期の保健指導		
15		試験		
16	(成人・高齢者保健) 成人高齢者保健の理念	成人高齢者保健の理念と目的、歴史的変遷、動向		7-A-a) 成人保健の理念、歴史的変遷 b) 成人保健施策と保健師活動、健康日本21c) 地域・集団の成人期健康問題と優先順位
17	成人高齢者保健の現状			B-a) 成人各期の特徴、健康問題アセスメント、保健指導 b) おもな疾病 c) 疾病、健康課題と地域のサポートシステム、社会資源
18	成人高齢者保健施策	生活習慣病対策、健康増進対策、がんの知識と予防活動		8-A-a) 高齢者保健の理念歴史的変遷 b) 高齢者保健施策と保健師活動 c) 地域・集団の高齢者健康問題と優先順位
19	成人高齢者保健指導1	高脂血症の保健指導		B-a) 高齢者の特徴、健康問題アセスメント、保健指導
20	成人高齢者保健指導2	高血圧の保健指導		13-A-a) 歯科保健統計 b) 歯科保健施策、8020 運動
21	成人高齢者保健指導3	糖尿病の保健活動		B-a) 各発達段階における健康レベル別歯科保健サービス b) 障害者(児)、難病等の歯科保健サービス C-a) う蝕 b) 歯周疾患 c) 口腔機能低下 d) 誤嚥性肺炎
22	成人高齢者保健指導4	防煙・禁煙の保健活動、アルコールの保健指導		12-A-a) 感染症保健活動の理念、歴史的変遷 b) 感染症に関する保健統計
23	成人高齢者保健指導5	歯科保健活動、睡眠の保健指導		B-a) 疫学、病態、臨床 b) 感染症予防活動、保健師の役割
24	成人高齢者保健指導6	骨粗鬆症の保健指導、貧血の保健指導		C-a) 感染症発生時の保健師活動、保健師の役割 b) 感染症集団発生と保健師活動
25	感染症保健活動1	感染症対策と保健活動		D-a) 感染症の予防及び感染症の患者に対する法律、食中毒 b) 結核 c) HIV 感染症/AIDS, 性感染症 d) 新興・再興感染症 e) 肝炎 f) 腸管出血性大腸菌感染症
26	感染症保健活動2	食中毒対策と保健活動(腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等)		11-A-a) 難病保健の理念、歴史的変遷 b) 難病保健師策と保健師活動 c) 地域の難病患者の健康問題、優先順位 B-a) 難病患者と家族の特徴、健康問題アセスメント、保健指導 b) 在宅療養難病患者と家族への保健指導
27	感染症保健活動3	HIV 感染症/エイズ対策と保健指導、性感染症対策		c) 地域のサポートシステム、社会資源
28	感染症保健活動4	結核対策と保健活動		10-A-a) 障害者(児)保健の理念、歴史的変遷 b) 障害者(児)保健施策と保健師活動 c) 地域・集団の障害者(児)の健康問題、優先順位 B-a) 障害者(児)のとりえ方、健康問題アセスメント、保健指導 b) 障害者(児)と家族への保健指導
29	難病保健活動	難病対策と保健活動		c) 障害の予防、自立支援 d) 住環境、地域環境整備 e) 社会参加、人権擁護
30	障害者(児)保健活動	障害者(児)対策と保健活動		
31	(学校保健) 養護教諭の職務	養護教諭制度の沿革、養護教諭の職務内容の変遷、学校教育における養護教諭の役割		1-A-a) 学校保健・看護の定義 b) 養護教諭の役割・機能 B-a) 学校看護職の誕生、社会背景 b) 戦後の学校保健、養護教諭の活動 c) 学校保健・看護活動の実態
32	学校保健(1)	学校保健法、学校保健の領域、学校保健のしくみ		C-a) 学校保健に関する法体系 b) 学校保健組織と人材 c) 保健室の機能、保健室運営 d) 安全管理、危機管理 e) 学校給食

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
33	学校保健（2）	学校保健情報と健康実態の把握、 学校保健目標と学校保健計画 学校保健組織活動		E-a) 学校保健計画
34	養護教諭の職務の実際（1）	保健室の機能と運営 学校環境衛生活動		F-a) 環境調整の意義 b) 環境管理 c) 環境教育 d) 地域保健、産業保健との連携
35	養護教諭の職務の実際（2）	健康診断 健康相談、疾病の予防と管理		E-b) 健康診断と事後措置 d) 感染症の予防・対策
36	養護教諭の職務の実際（3）	健康観察 救急処置と救急体制		E-e) 個別援助
37	養護教諭の職務の実際（4）	健康相談活動		D-a) 発達段階別健康課題 b) 不登校 c) 障害児 d) いじめ
38	養護教諭の職務の実際（5）	保健教育活動		E-c) 健康教育
39	(産業保健) 産業保健・看護の理念と目的 産業保健・看護の歴史と現状	産業保健・看護の定義、産業看護職の機能 産業保健・看護に関連する健康問題や支援の歴史的経緯と今日のヘルスニーズ		A-a) 産業保健・看護の変遷、社会背景 b) 産業保健・看護活動の実態
40	産業保健・看護の制度とシステム	労働安全衛生に関する法体系 産業保健組織とスタッフの役割 健康支援を行う関連機関		C-a) 労働安全衛生に関する法体系 b) 産業保健組織と人材 c) 産業保健・看護と社会資源
41	産業保健・看護における主な健康課題と対策	職業性疾患の種類と予防対策 作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスクア・ストレス対策 職場の安全管理		D-a) 職業性疾患の種類、予防対策 b) 作業関連疾患の種類、予防対策 c) 職場のメンタルヘルスクア、ストレス対策 d) 職場の安全管理
42	産業保健・看護における主な健康課題と対策	職業性疾患の種類と予防対策 作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスクア・ストレス対策 職場の安全管理		
43	産業保健・看護における主な健康課題と対策	職業性疾患の種類と予防対策 作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスクア・ストレス対策 職場の安全管理		
44	産業保健・看護における主な健康課題と対策	職業性疾患の種類と予防対策 作業関連疾患の種類と予防対策 職場のメンタルヘルスクア・ストレス対策 職場の安全管理		
45	産業保健・看護の役割・特徴と活動の展開	産業看護職の役割 産業保健計画と評価 個別的・集団的・組織的展開方法		E-a) 保健師の職務 b) 産業保健計画と評価 c) 個別的・集団的・組織的展開方法 d) 地域保健との連携
		試験		

教科書	(母子保健・成人高齢者保健) ・「最新保健学講座 4. 地域看護活動論①ライフステージの特性と保健活動」(メジカルフレンド社) ・「最新保健学講座 5. 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動」(メジカルフレンド社) ・「国民衛生の動向 2006」 ・「国民の福祉の動向 2006」 ・「保健指導用パンフレット各種」(¥100/1冊程度) (学校保健) ・「新版・養護教諭執務のてびき 第4版」(東山書房) (産業保健) ・「最新保健学講座 5. 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動」(メジカルフレンド社)
参考書	

授業科目名	在宅看護活動論	単位認定者	小林 亜由美
対象学年	第 3 学年	学期	前期
単位数	2 単位 (3 0 コマ)	必修・選択	必修

指導方法	講義、演習
科目の目的	在宅療養者を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また、在宅看護と生活援助に必要な知識と基本技術を習得すると共に、家族への看護技術指導を実施できることを目指す。
学習到達目標	1. 在宅看護の現状・課題と活動の方向性が理解できる。2. 在宅ケアに係わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解できる。3. 基本的な生活援助の技術を習得する。4. 特種な処置・管理を要する在宅患者の援助に必要な知識と技術を習得する。5. 家族への看護技術指導に必要な知識と看護技術を身につける。
関連科目	歯科保健、看護ケア方法論、成人看護学ⅠⅡ、老年看護学ⅠⅡ、小児看護学ⅠⅡ、地域看護学概論、地域看護活動論ⅠⅡⅢ
成績評価方法	筆記試験、レポート

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
1	在宅看護に関する制度1	診療報酬制度、社会制度に基づいて行われる在宅看護活動	目標 1-3-A 生活の自立支援 目標 2-2-A 在宅医療と社会制度 目標 1-3-E チームケアの重要性 目標 1-3-F ケアマネジメントと看護の役割 目標 2-3-E 生活自立困難者 目標 2-3-B 認知症高齢者 目標 1-3-D 家族介護者の理解と健康支援	3-C-a) 関係する法体系 b) 組織と人材 E-a) 訪問看護ステーション管理 b) 地域ケアシステムづくり c) 在宅看護の質評価・管理 C-c) 社会資源 D-c) 介護の人的資源確保・開発 d) 介護の物的資源確保・開発 e) 在宅ケアのサービス活用・法的根拠
2	介護保険制度1	在宅ケアのためのマネジメント、在宅看護管理 介護保険制度下の支援の実際	目標 1-3-D 家族介護者の理解と健康支援	
3	介護保険制度2	地域包括支援センターの機能と保健師、その他専門職の活動地域支援事業に関する保健師の活動	目標 1-3-C 生活の中でおこる問題の予測と予防 目標 2-2-B 薬物療法 目標 2-3-A 寝たきり者 目標 2-3-D ターミナル期の療養者 目標 2-1-B 排泄 目標 2-2-E 膀胱留置カテーテル法	
4	在宅療養者と家族支援1	認知症者の支援	目標 2-2-H 在宅褥創管理 目標 2-2-C 在宅酸素療法 目標 2-2-C 在宅人工呼吸療法 目標 2-3-C 難病による療養者	
5	在宅療養者と家族支援2	家族介護者の理解と支援、高齢者虐待の予防と支援	目標 2-1 在宅における生活支援の方法と技術-A 食 目標 2-2-F 在宅経管栄養・経腸栄養法 2-2-G 在宅中心静脈栄養法	
6	在宅療養者と家族支援3	事故防止(転倒防止、環境整備、窒息防止、熱傷防止)、服薬管理	目標 1-3-B 病状・病態の変化の予測と予防 目標 2-1-C 清潔 目標 2-1-D 移動	
7	在宅療養者と家族支援4	ねたきり者の支援、在宅におけるターミナルケア		
8	在宅療養者と家族支援5	在宅ケアにおける感染対策		
9	在宅療養者と家族支援6	在宅褥瘡管理		
10	在宅療養者と家族支援7	在宅褥瘡管理		
11	在宅療養者と家族支援8	在宅酸素療法		
12	在宅療養者と家族支援9	在宅人工呼吸療法		
13	在宅療養者と家族支援10	栄養・食生活の支援		
14	在宅療養者と家族支援11	栄養・食生活の支援		
15	在宅看護技術1	口腔ケア		
16	在宅看護技術2	口腔ケア		
17	在宅看護技術3	清潔介助		
18	在宅看護技術4	清潔介助		
19	在宅看護技術5	清潔介助		
20	在宅看護技術6	清潔介助		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
21	在宅看護技術7	移動の介助		
22	在宅看護技術8	移動の介助		
23	在宅看護技術9	便利な介護用品、生活の工夫		
24	在宅看護技術10	便利な介護用品、生活の工夫		
25	在宅看護技術11	ケアプラン作成の実際		
26	在宅看護技術12	ケアプラン作成の実際		
27	在宅看護技術13	ケアプラン作成の実際		
28	在宅看護技術14	ケアプラン作成の実際		
29		試験		
30		まとめ		

教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・「在宅看護論—実践をことばに—第4版」杉本正子・眞船沢子（ヌーベルヒロカワ） ・「最新保健学講座 5. 地域看護活動論②心身の健康問題と保健活動」（メジカルフレンド社） ・「国民衛生の動向 2006」 ・「介護保険制度に関するパンフレット」（1冊 100円程度）
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立支援のための患者ケア技術」初山泰弘・潮見泰蔵・斎藤昭彦（医学書院）

授 業 科 目 名	災 害 看 護	単 位 認 定 者	山 崎 達 枝
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	後 期 集 中
単 位 数	1 単 位 (1 5 コ マ)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	講義、グループ学習、野外訓練
科 目 の 目 的	災害の種類や経時的医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として適切な救護活動に参加できる基礎的な知識を学ぶことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 災害の定義及び災害看護の定義・目的について理解できる 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的変化が理解できる 3. トリアージとタッキングが理解でき、適切な応急処置ができる 4. 災害時被災者の保健問題が理解できる 5. 被災者と援助者のための心のケア対策が理解できる 6. 病院施設の災害対策の必要性が理解できる
関 連 科 目	教養科目群：心理学、地域社会学 専門基礎科目群：カウンセリング、公衆衛生学、救急法、災害時生活体験 専門科目群：卒研以外のすべての科目
成 績 評 価 方 法	課題レポートの提出 (出席率も反映する)

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
1	災害とは	1. 災害とは 2. 災害サイクルと災害対策 3. 災害による援助ニーズの経時的変化	基礎看護学：目標2 3-E トリアージ	地域看護学 4.災害看護 A:災害の定義・分類,災害看護の目的
2	災害医療・看護	1. 災害時、保健医療職に求められる役割 2. 災害時の経時的対応と求められる医療・看護およびリーダーシップ		a)災害の定義・分類,災害看護の目的 b)、自然災害サイクルと災害医療・看護
3 4	災害時の行動	1. トリアージとは レスキュー(救出)とタッキング(負傷者分類)の原則 ※ペーパーシュミレーション 2. 応急処置法 演習：三角巾による固定法 搬送法		B:災害看護の制度とシステム a) 災害に関する法体系、 b) 災害支援の制度とシステム、 c) 災害支援に関する社会資源
5 6	野外救護訓練	※ 8時～12時まで 被災者及び救護者に分かれて、トリアージ、応急処置、搬送の一連の流れを実践し理解する。		C:災害予防対策と保健師活動 a) 避難のための支援必要者・実態把握、 b) 災害防止マニュアル、災害訓練、 c) 教育普及啓発(住民主体の防災対策への習慣づけ)、 d) 装備、救援・支援ネットワーク構築、
7	演習のまとめ グループ課題の検討	1. 演習全体について各グループでまとめ、発表 2. 最近の災害事例検討から被災者の置かれた現状や保健医療職の活動などを調べ、被災者支援のあり方や災害被害軽減にむけた対策などについて検討する。 (最終日に発表)		D:災害応急対策と保健師活動 a) 初動体制、 b) 救護班・避難所での活 c) トリアージ(定義・原則・プロトコル)、
8	国・地域における災害対策	1. 災害支援に関する法制度やシステムの変遷 2. 行政における災害対策と防災マニュアル 災害時の保健所の機能など 3. 防災啓発活動の推進と地域防災力の強化		E:災害復旧・復興対策期と保健師活動 a) 避難所・仮設住宅・在宅生活者への活動、 b) PTSDへの対応、 c) 職員の心身の健康管理 d) ボランティアへの活動支援
9 10	災害時の保健問題と保健計画	1. 災害被災者の健康問題について ・ 避難形態による保健問題 (自宅・公立避難所、仮設など) ・ 家族形態による保健問題 2. 避難センターにおける支援と保健活動 初期計画と保健プログラム		

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
11	被災者と援助者のための体と心のケア	3. 在宅療養者に対する支援と保健活動 4. 仮設住宅生活者に対する支援と保健活動 5. 災害時に支援優先度の高い人への看護（高齢者、妊産婦・乳幼児、病人・外国人など）に対する支援と保健活動 1. ASDとPTSDの症状とその予防、対策 2. 救援者のストレス対策 ※デブリーフィングの演習		
12	病院施設の災害管理	1. 病院の災害被害軽減対策について 2. 災害対応マニュアルと防災訓練 3. 災害発生時の入院患者管理 4. 多死傷者受け入れのための準備 5. 被災施設職員の健康管理と災害支援ボランティアの受入れとその配置		
13	D I Gの演習	1. 地域及び職場の避難誘導を考えた訓練 D I Gのペーパーシミュレーション		
14	災害救援ボランティア	1. 災害救援ボランティアの役割 2. 被災地における援助の特徴 被災地の地理的、文化的背景や人口動態などを考慮した支援ニーズについて概説 都市型災害、地方型災害など 3. ボランティアとしての心構えと留意点 4. ボランティア参加時の準備		
15	まとめ	グループ学習の発表		

教科書	資料配布 「災害看護マニュアル」 真興交易医書出版部 「災害時のヘルスプロモーション」 荘道社
参考書	「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」 「災害医療ガイドブック」(医学書院) 「阪神淡路大震災ーその時看護は一」(日本看護協会出版会) 「災害とトラウマ」心のケアセンター編集(みすず書房) 「ナースのためのトリアージハンドブック」(医学書院) 「災害と日本人」(時事通信社) 「災害対策基本法」防災行政研究会編集(ぎょうせい)

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 I	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 1 学 年	学 期	後 期
単 位 数	1 単 位 (1 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病院実習
科 目 の 目 的	病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解し、入院患者の療養生活を支援する看護活動の実際と患者の反応が理解できることを目的とする。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各医療部門の役割・機能が理解できる。 2. 患者の健康回復に対する医療チームの関わり方を理解できる。 3. 医療チーム内の看護職の位置づけを理解できる。 4. 患者の入院中の物理的環境が把握できる。 5. 患者の一日の生活の流れがわかる。 6. コミュニケーションの目的が説明できる。 7. 患者の訴えを傾聴できる。 8. 患者の気持ちを尊重した言動をとることができる。 9. 患者との関わりの中から、自己の言動を振り返ることができる。 10. 看護援助を受けている患者の反応が理解できる。
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論、看護ケア方法論の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる
成 績 評 価 方 法	出席状況（実習態度含む） 実習記録およびレポート 実習反省会での内容

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明		
	病院実習	病院施設内の見学実習および受け持ち患者とのコミュニケーション		
	実習反省会	病院実習で学んだことについての報告、質疑応答		

教 科 書	「看護学概論」川村佐和子（メディカ出版）、基礎看護学実習 I 実習要綱
参 考 書	

授 業 科 目 名	基 礎 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	城 生 弘 美
対 象 学 年	第 2 学 年	学 期	前 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨地実習
科 目 の 目 的	科学的思考のプロセスを用いて、対象者への援助を実践するための基礎的な看護過程の展開ができる。
学 習 到 達 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち対象者の基礎的な看護過程の展開ができる。 2. 受け持ち患者に必要な基本的看護技術が実施できる。 3. 看護チームの一員としての役割と機能が理解できる。
関 連 科 目	看護学入門、看護学概論、看護ケア方法論、看護ケア方法論演習の統合が必要である。 2年次後期以降の科目の基盤となる。
成 績 評 価 方 法	出席状況、レポート、実習記録、実習自己評価表に基づき評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して、説明を行う。実習単位に含まれるため、全員必ず出席をする。		
	病院実習	病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開しながら自分の行える範囲で指導者のもと看護援助を実施する。		
	実習反省会	実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。		

教 科 書	看護学で使用したテキスト全部、基礎看護学実習II実習要綱
参 考 書	

授業科目名	成人看護学実習Ⅰ	単位認定者	鈴木 珠 水
対象学年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	4 単 位 (4 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病棟実習（独立行政法人国立病院機構 西群馬病院・独立行政法人国立病院機構 沼田病院）
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、慢性的健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 慢性期にある患者の特徴が理解できる。 2. 終末期にある患者および家族の特徴が理解できる。 3. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価ができる。 4. 患者の心身の苦痛を緩和するための援助ができる。 5. 治療検査時の患者の援助ができる。 6. 慢性期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるよう支援できる。 7. 看護活動の記録および報告ができる。 8. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・解剖学Ⅱ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護活動論
成 績 評 価 方 法	出席状況（実習態度含む）・実習記録およびレポート・実習評価表

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題	
	病棟実習	病棟オリエンテーション（病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介	Ⅰ. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 Ⅱ. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 Ⅳ. 看護技術の基礎的知識を問う。	
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を紹介してもらい、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。 詳細は「成人看護学実習要綱」参照	人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ●疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術に	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			<p>についての理解を問う。</p> <p>目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。</p> <p>成人看護学</p> <p>目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。</p> <p>目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・</p> <p>目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。</p> <p>目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。</p> <p>老年看護学</p> <p>目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。</p> <p>目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。</p>	

教科書	「新体系看護学「20 成人看護学概論・成人保健」「21 呼吸機能障害をもつ成人の看護/循環機能障害をもつ成人の看護」「22 消化・吸収機能障害をもつ成人の看護/栄養代謝機能障害をもつ成人の看護」「23 内部環境調節機能障害をもつ成人の看護/身体防御機能障害をもつ成人の看護」「24 脳・神経機能障害をもつ成人の看護/感覚機能障害をもつ成人の看護」「25 運動機能障害をもつ成人の看護/性・生殖機能障害をもつ成人の看護」(メヂカルフレンド社)
参考書	

授 業 科 目 名	成 人 看 護 学 実 習 II	単 位 認 定 者	北 林 司
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	4 単 位 (4 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	病棟実習（独立行政法人国立病院機構 西群馬病院・医療法人社団日高会 日高病院）
科 目 の 目 的	既習の知識、技術を用いて、急性期の健康障害をもつ成人期にある対象を総合的にとらえ、一連の看護過程を実践する能力を養うことを目的とする。
学 習 到 達 目 標	1. 周手術期にある患者の特徴が理解できる。 2. 手術によって生じた身体変化に応じた生活を営むための援助が理解できる。 3. アセスメントおよび介入計画の立案・実施・評価ができる。 4. 治療検査時の患者の援助ができる。 5. 急性期にある患者および家族が疾病と障害を理解し、セルフマネジメント能力を獲得できるように支援できる。 6. 看護活動の記録および報告ができる。 7. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し行動できる。
関 連 科 目	解剖学Ⅰ・解剖学Ⅱ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・基礎看護学・老年看護学・在宅看護活動論
成 績 評 価 方 法	出席状況（実習態度含む）・実習記録およびレポート・実習評価表

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	オリエンテーション	実習目的、目標、実習方法、留意事項等に関する説明	必修問題	
	病棟実習	病棟オリエンテーション（病棟の特徴、病棟の看護体制、看護方式、病院の構造・設備、病棟の構造・設備、学生控え室使用上の注意、患者紹介	I. 看護の社会的側面および倫理的側面に関する基礎的知識を問う。 II. 看護の対象者および看護活動の場に関する基礎的知識を問う。 III. 看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復についての基礎的知識を問う。 IV. 看護技術の基礎的知識を問う。	
	受け持ち患者に対する看護過程展開	受け持ち患者を紹介してもらい、アセスメント・看護診断・看護目標設定・介入計画立案・実施・評価の一連の看護過程を展開する。 詳細は「成人看護学実習要綱」参照	人体の構造と機能 目標 1. ●日常生活を営む上で、人体がどのような構造をもち機能しているかについての理解を問う。 ● 疾病によって人体が受ける構造と機能の変化を学習する土台となる正常な人体についての理解を問う。 疾病の成り立ちと回復の促進 目標 1. 生活との関連において健康から疾病に至る変化のプロセスについての理解を問う。 目標 2. 看護の役割を理解し生活を調整するために、さまざまな疾病がもたらす身体内部の変化についての理解を問う。 目標 3. 回復に向けて生活を調整するために、生存・生活機能別疾病の特性についての理解を問う。 基礎看護学 目標 1. 看護の基本となる概念についての理解を問う。 目標 2. 基本的看護技術についての理解を問う。	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
			目標 3. 保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割についての理解を問う。 成人看護学 目標 1. 成人の生活と健康問題についての理解を問う。 目標 2. 成人を看護するときの基本的なアプローチについての理解を問う・ 目標 3. 成人の健康レベルに応じた看護実践についての理解を問う。 目標 4. 機能障害をもつ成人への看護実践について問う。 老年看護学 目標 1. 高齢者の特徴とその生活についての理解を問う。 目標 2. 高齢者の生命維持・健康生活維持のための看護実践についての理解を問う。	

教科書	新体系看護学「20 成人看護学概論・成人保健」「21 呼吸機能障害をもつ成人の看護/循環機能障害をもつ成人の看護」「22 消化・吸収機能障害をもつ成人の看護/栄養代謝機能障害をもつ成人の看護」「23 内部環境調節機能障害をもつ成人の看護/身体防御機能障害をもつ成人の看護」「24 脳・神経機能障害をもつ成人の看護/感覚機能障害をもつ成人の看護」「25 運動機能障害をもつ成人の看護/性・生殖機能障害をもつ成人の看護」
参考書	

授業科目名	老年看護学実習	単位認定者	兔澤恵子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	4単位(4週間)	必修・選択	必修

指導方法	病院および施設実習
科目の目的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。
学習到達目標	1) 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーションなどを通じてアセスメントし、理解する。 2) 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実践・評価する。 3) 老年期にある人の特性や自立、安全に応じたケア技術の実践方法を習得する。 4) 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5) 老年期にある人へのケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能と連携について学習する。
関連科目	成人老年看護学概論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年心理学
成績評価方法	出席状況(実習態度を含む)、実習記録およびレポート、実習反省会での内容

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
	オリエンテーション	実習目的、到達目標、実習方法、留意事項などに関する説明を行う。		
	病院実習	病院において対象者を1名受け持ち、看護過程を展開し評価を行う。また、高齢者の利用する施設において多様な障害を抱えながら生活している様子を見学学習し、対象理解を深める。		
	実習反省会	病院実習で学んだことについて報告および質疑応答を行い、相互に学びを深める。		

教科書	「新体系看護学 26 老年看護学① 老年看護学概論・老年保健」鎌田ケイ子・川原礼子編集(メジカルフレンド社) 「新体系看護学 27 老年看護学② 健康障害をもつ高齢者の看護」鎌田ケイ子・川原礼子編集(メジカルフレンド社)
参考書	検査、薬剤に関する参考書

授 業 科 目 名	小 児 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	木 内 妙 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習
科 目 の 目 的	成長・発達過程にある子どもの特徴を理解し、病気や障害があること、治療を受けることや病院に入院することが、子ども自身や家族にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。さらに、子どもと家族がいきいきと生活できるための看護職としての援助の方法を学ぶ。
学 習 到 達 目 標	1. 子どもの日常生活に接し、子どもの特性を理解する。 2. 子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によってどのように影響されているのかを知る。 3. 子どもや家族とのかかわりを通して、発達段階に応じた子どもとのコミュニケーションの展開方法を学ぶ。 4. 子ども・家族にとって必要な援助を考え、実施・評価する。 5. 子どもが医療を受けるさまざまな場と小児看護の特徴、保健医療チームにおける看護職の役割を学ぶ。
関 連 科 目	母性・小児看護学（小児看護学概論、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、母性看護学概論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、母性看護学特論）、臨地実習、基礎看護学各科目、成人老年看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、教養科目群（心理学、教育学、生命科学、生命倫理、生活学、家族学、地域社会学、環境論など）、臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫感染症学ほか）、地域科目群（公衆衛生学、栄養学、健康管理論ほか）
成 績 評 価 方 法	出席、実習内容、レポートによって総合的に評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
		1. 実習場所 群馬県立小児医療センター 第一病棟、第二病棟、第三病棟、新生児未熟児病棟(NICU)、母子保健指導室、リハビリテーション科、養護学校など 2. 実習内容・方法 詳細は、実習要項において別途指示する	【目標1】 1. 子どもと家族の健康の概念 2. 子どもの成長と発達 3. 新生児の健康増進のための看護 4. 乳児の健康増進のための看護 5. 幼児の健康増進のための看護 6. 学童の健康増進のための看護 7. 思春期の子どもの健康増進のための看護 【目標2】 1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護 2. さまざまな状況にある子どもと家族への看護 A. 外来における子どもと家族 B. 検査や処置を受ける子どもと家族 C. 活動制限が必要な子どもと家族 D. 隔離が必要な子どもと家族 E. 先天的な問題をもつ子どもと家族 F. 手術を受ける子どもと家族 G. 心身障害のある子どもと家族 H. 急性期にある子どもと家族 L. 救急処置が必要な子どもと家族	

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師

教科書	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「系統看護学講座 専門分野 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 第10版」奈良間美保他著 (医学書院) 2003 2. 「標準看護学講座 29 小児看護学」小沢道子他編 (金原出版) 2001 3. 「ナースィング・グラフィカ(29)小児看護学；小児看護技術」中野綾美編 (メディカ出版) 2007.
参考書	<ul style="list-style-type: none"> 1. 「基礎看護学ヘルスアセスメント 成長発達に伴うアセスメント3-4章2節 子どものアセスメント」川村佐和子、城生弘美他編、木内妙子 (メディカ出版) 2004. 2. 以下、別途指示する

授業科目名	母性看護学実習	単位認定者	早川有子
対象学年	第3学年	学期	後期
単位数	2単位（2週間）	必修・選択	必修

指導方法	実習
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。
学習到達目標	1. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 2. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 3. 妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について学ぶ。
関連科目	教養科目群：生命科学 生命倫理 家族学 性別の社会科学 環境論 生物学基礎 専門基礎科目群：発達心理学 免疫感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学実習・地域看護学実習等）
成績評価方法	課題に対するレポート、出席状況、実習態度にて評価する。

回	講義題目	講義内容	国家試験出題基準	
			看護師	保健師
		実習期間：2週間 実習は、学内演習2日間、病棟実習5日間（看護過程展開4日間、妊婦・産婦・新生児から選択1日間）、外来実習1日間、選択実習（不妊外来・ヨガ教室）1日からなる。実習開始日に病棟・外来のオリエンテーションを含む全体オリエンテーションを行い、最終日に全体カンファレンスを行なう。学生は1グループ5～6名のグループに分かれて実習する。 ＊ 詳細は実習要項に記載する。		

教科書	
参考書	

授 業 科 目 名	精 神 看 護 学 実 習	単 位 認 定 者	齋 藤 和 子
対 象 学 年	第 3 学 年	学 期	後 期
単 位 数	2 単 位 (2 週 間)	必 修 ・ 選 択	必 修

指 導 方 法	臨床実習
科 目 の 目 的	人の各期（小児期、青年期、壮年期、老年期）の特性を理解し、対象を総合的に捉え看護を実践する能力を養う。
学 習 到 達 目 標	1. 人の各期の生理的变化とそれに伴う危機的問題を理解できる。 2. 精神障害をもつ対象を理解し、健康回復のために必要な援助ができる。 3. 対象の看護上の問題を把握し、看護計画を立案・実施・評価できる。
関 連 科 目	精神看護学概論 精神臨床看護学 精神地域看護学
成 績 評 価 方 法	課題に対するレポート、出席状況、実施態度にて評価する。

回	講 義 題 目	講 義 内 容	国 家 試 験 出 題 基 準	
			看 護 師	保 健 師
	臨地実習	実習単位 2単位（2週間） 火曜日～金曜日 8日間 実習場所 厩橋病院 実習時間 原則として9時～16時 実習方法 I. オリエンテーション 1. 病院の特殊性について 2. 看護業務分担について 3. 日課、週間予定表について 4. 診療用具、看護用具、その他 機械器具の保管場所 5. その他 II. 実習の進め方 1. 受け持ち患者の看護 2. 看護過程にそった看護の展開 3. カンファレンスの実施 III. 実習記録の提出 IV. 実習評価		

教 科 書	
参 考 書	

